

2026年度
看護学部 看護学科
シラバス

目次

学修成果(到達目標)、カリキュラムマップ	4
カリキュラムツリー	6
1年生 年間予定表	9
1年生 シラバス	11

開講科目	頁	開講科目	頁
日本語表現法	11	栄養学	34
英語 I	13	病理学	35
英語 II	14	病態治療学 I	36
情報処理 I	16	病態治療学 II	38
情報処理 II	17	病態治療学 III	40
生命倫理学	19	看護薬理学	42
心理学	20	看護学概論	43
宗教と民族	21	看護倫理	44
人間関係論	22	看護過程論	45
社会学	23	基礎看護技術 I	47
社会保障論	24	基礎看護技術 II	49
物理学	26	基礎看護技術 III	52
生物学	27	基礎看護技術 IV	54
人体構造と機能 I	28	成人看護学概論	57
人体構造と機能 II	30	スタートアップセミナー	59
人体構造と機能 III	31	基礎看護学実習 I	61
生化学	32	基礎看護学実習 II	62
微生物学	33		

2年生 年間予定表	64
2年生 シラバス	66

開講科目	頁	開講科目	頁
ICT活用技術	66	老年看護学援助方法	97
法学入門	68	小児看護学概論	99
経済と政策	69	小児看護学援助論	100
自然環境と災害	70	小児看護学援助方法	102
統計学入門	72	母性看護学概論	104
健康スポーツ I	73	母性看護学援助論	105
健康スポーツ II	74	母性看護学援助方法	107
病態治療学 IV	75	精神看護学概論	109
公衆衛生学	77	精神看護学援助論	110
疫学	79	精神看護学援助方法	112
保健情報論	80	看護過程展開方法	114
保健医療福祉行政論	82	家族支援論	116
チームアプローチ入門	84	周術期看護論	117
地域・在宅看護学概論 I	86	緩和ケア論	120
地域・在宅看護学概論 II	88	キャリアデザインセミナー	121
成人看護学援助論	89	地域・在宅看護学実習 I	122
成人看護学援助方法	91	領域横断看護実習	123
老年看護学概論	94	公衆衛生看護学概論	124
老年看護学援助論	95		

3年生 年間予定表	126
3年生 シラバス	128

開講科目	頁	開講科目	頁
哲学	128	成人看護学実習	143
教育心理学	129	老年看護学実習	144
教育学概論	130	小児看護学実習	145
地域・在宅看護学援助論	131	母性看護学実習	146
地域・在宅看護学援助方法	133	精神看護学実習	147
地域包括ケア論	135	公衆衛生看護学援助論 I	148
救急救命学	137	公衆衛生看護学援助論 II	151
災害看護論	139	公衆衛生看護管理論	153
看護研究 I	142	公衆衛生看護学実習 I	155

ナンバリング	157
教員一覧	159
実務経験を有する教員一覧	160
オフィスアワー・成績評価	164

看護学部 看護学科

- 学修成果（到達目標）
- カリキュラムマップ
- カリキュラムツリー

看護学部看護学科 カリキュラムマップ

学修成果（到達目標）

1 【人間基盤力】

人間愛の精神を根底とする豊かな教養と生命の尊厳に基づく高い倫理観を身につけ、物事を多角的に理解し思考する力

2 【連携協働力】

多職種連携の重要性を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他者と連携、協働する力

3 【専門実践力】

科学的根拠・理論的知識を身につけ、安全かつ計画的に看護を実践する力

4 【学術探究力】

学修課題や目標に主体的に取り組み、看護学を学術的に探究できる力

5 【課題解決力】

地域の課題及び対象者の状況やニーズを正しく捉え、看護問題を適切に解決できる力

学修成果とは、学生がその授業科目で身に付けるべき資質・能力（何ができるようになるのか）を表すものです。

●は、各授業科目が、学修成果の1～5のどれを身に付けることを目指すものかを表しています。

科目区分	授業科目の名称	単位数		授業回数	学修成果					履修年次										
		必修	選択		1	2	3	4	5	1年		2年		3年		4年				
										前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
教養科目	日本語表現法	1		15	●						○									
	英語 I	1		8	●						○									
	英語 II	1		15	●						○									
	英語 III		1	15	●			●												○
	情報処理 I	1		15	●						○									
	情報処理 II	1		15	●						○									
	ICT活用技術		1	15	●			●				○								
	哲学	1		8	●				●											○
	生命倫理学	1		8	●	●			●		○									
	心理学	1		8	●	●			●		○									
	教育心理学		1	8	●				●											○
	宗教と民族		1	8	●						○									
	人間関係論		1	8	●	●			●		○									
	法学入門	1		8	●															○
	日本国憲法		2	15	●															
	経済と政策	1		8	●															○
	教育学概論		1	8	●				●											○
	社会学		1	8	●				●		○									
	社会保障論	1		8	●				●		○									
	物理学	1		8	●		●	●			○									
	生物学	1		8	●		●	●			○									
自然環境と災害	1		8	●				●											○	
統計学入門	1		8	●				●											○	
健康スポーツ I		1	8	●															○	
健康スポーツ II		1	15	●															○	
専門基礎科目	人体構造と機能 I	2		15				●			○									
	人体構造と機能 II	2		15				●			○									
	人体構造と機能 III	2		15				●			○									
	生化学	1		8				●			○									
	微生物学	1		8				●			○									
	栄養学	1		8				●			○									
	病理学	1		8				●			○									
	病態治療学 I	2		15				●			○									
	病態治療学 II	2		15				●			○									
	病態治療学 III	2		15				●			○									
	病態治療学 IV	2		15				●			○									
	看護薬理学	2		15				●			○									
	公衆衛生学	1		8		●	●		●			○								
	疫学 *		1	8		●	●		●			○								
	保健情報論 *		2	15		●	●		●											○
	保健医療福祉行政論	2		15		●	●		●											○
	チームアプローチ入門	1		15		●	●		●											○

仙台青葉学院大学 看護学部 看護学科 カリキュラム・ツリー

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目	言語・情報系	日本語表現法 英語Ⅰ 情報処理Ⅰ	英語Ⅱ 情報処理Ⅱ	ICT活用技術(選)				英語Ⅲ(選)	
	人文科学系	生命倫理学 宗教と民族(選) 人間関係論(選)	心理学			哲学 教育心理学(選)			
	社会科学系	社会学(選)	社会保障論		法学入門 経済と政策		教育学概論(選)		日本国憲法(選)
	自然科学系	物理学 生物学		統計学入門 健康スポーツⅠ(選)	自然環境と災害 健康スポーツⅡ(選)				
専門基礎科目	人体の構造と機能	人体構造と機能Ⅰ 人体構造と機能Ⅱ 生化学 微生物学	人体構造と機能Ⅲ 栄養学						
	疾病の成り立ちと回復の促進		病理学 病態治療学Ⅰ 病態治療学Ⅱ 病態治療学Ⅲ 看護薬理学	病態治療学Ⅳ					
	健康支援と社会保障制度			公衆衛生学 疫学(選)	保健情報論(選) 保健医療福祉行政論 チームアプローチ入門				

専門科目

基礎看護学	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ	看護倫理 看護過程論 基礎看護技術Ⅲ 基礎看護技術Ⅳ						
地域・在宅看護学			地域・在宅看護学概論Ⅰ 地域・在宅看護学概論Ⅱ		地域・在宅看護学援助論 地域・在宅看護学援助方法 地域包括ケア論			
成人看護学		成人看護学概論	成人看護学援助論	成人看護学援助方法				
老年看護学			老年看護学概論 老年看護学援助論	老年看護学援助方法				
小児看護学			小児看護学概論 小児看護学援助論	小児看護学援助方法				
母性看護学			母性看護学概論 母性看護学援助論	母性看護学援助方法				
精神看護学			精神看護学概論 精神看護学援助論	精神看護学援助方法				
看護の基盤と応用			看護過程展開方法 家族支援論 周術期看護論 緩和ケア論		救急救命学(選)	クリティカルケア看護学(選) リハビリテーション論(選)		
看護の統合と実践	スタートアップセミナー			キャリアデザインセミナー	災害看護論 看護研究Ⅰ	医療安全管理論 看護管理論 国際看護論(選) 看護研究Ⅱ		
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学実習Ⅱ	地域・在宅看護学実習Ⅰ 領域横断看護実習		成人看護学実習 老年看護学実習 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習	地域・在宅看護学実習Ⅱ 統合実習		
公衆衛生看護学				公衆衛生看護学概論(選)	公衆衛生看護学援助論Ⅰ(選※) 公衆衛生看護学援助論Ⅱ(選※) 公衆衛生看護管理論(選※) 公衆衛生看護学実習Ⅰ(選※)	公衆衛生看護学援助方法(選※)	公衆衛生看護学実習Ⅱ(選※)	

(選) …選択科目、下線科目…保健師課程必修科目、(選※) …保健師課程の学生のみ履修可能な選択科目

看護学部 看護学科

1 年生

- 年間予定表
- シラバス

2026年度 看護学科1年生 年間予定表

前期

		日	月	火	水	木	金	土	
4月					1	2	3 入学式	4	
	5	6	オリエンテーション	7	オリエンテーション	8	1 健康診断 1	10	11
	12	13	1	14	1	15	2	16	2
	19	20	2	21	スポーツ大会	22	3	23	3
	26	27	3	28	2	29	30	4	1
5月	3	4		5	6	7	5	8	5
	10	11	4	12	3	13	4	14	6
	17	18	5	19	4	20	5	21	7
	24	25	6	26	5	27	6	28	8
	31	1	7	2	6	3	7	4	9
6月	7	8	8	9	7	10	8	11	10
	14	15	9	16	8	17	9	18	11
	21	22	10	23	9	24	10	25	12
	28	29	11	30	10	1	11	2	13
7月	5	6	基礎看護学実習Ⅰ	7	基礎看護学実習Ⅰ	8	基礎看護学実習Ⅰ	9	基礎看護学実習Ⅰ
	12	13	12	14	11	15	12	16	14
	19	20		21	12	22	13	23	15
	26	27	13	28	定期試験	29	定期試験	30	定期試験
8月	2	3	定期試験	4		5		6	
	9	10		11		12		13	
	16	17		18	成績発表	19		20	
	23	24	再試験	25	再試験	26	再試験	27	再試験
	30	31		1		2		3	
9月	6	7		8		9		10	
	13	14		15		16		17	
	20	21		22		23		24	オリエンテーション
	27	28	1	29	1	30	1		

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2026年度 看護学科1年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土
10月						1	2	3
	4	5	2	6	2	7	2	8
	11	12		13	3	14	3	15
	18	19	3	20	4	21	4	22
	25	26	4	27	5	28	5	29
							30	31
							せいよう祭準備 ⁶	せいよう祭
11月	1	2	5	3	4	6	5	6
	8	9	6	10	6	11	7	12
	15	16	7	17	7	18	8	19
	22	23		24	8	25	9	26
	29	30	8	1	9	2	10	3
							4	5
							10	11
12月	6	7	9	8	10	9	11	10
	13	14	10	15	11	16	12	17
	20	21	11	22	12	23	13	24
	27	28		29		30		31
							1	2
1月	3	4	12	5	13	6	14	7
	10	11		12	14	13	15	14
	17	18	14	19	定期試験	20	定期試験	21
	24	25	定期試験	26		27		28
	31	1		2	基礎看護学実習Ⅱ	3	基礎看護学実習Ⅱ	4
							5	6
							基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学実習Ⅱ
2月	7	8	基礎看護学実習Ⅱ	9	基礎看護学実習Ⅱ	10	基礎看護学実習Ⅱ	11
	14	15	基礎看護学実習Ⅱ 成績発表	16		17		18
	21	22	再試験	23		24	再試験	25
	28	1		2		3		4
							5	6
3月	7	8		9		10		11
	14	15		16		17	(卒業式)	18
	21	22		23		24		25
	28	29		30		31		

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※2月1日(月)は入試のため、土日・祝日と同様、五橋キャンパス構内への立入りは一切できません。

学修成果	1	2	3	4	5
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力
	●				

科目ナンバリング
NSLa01

科目名	日本語表現法				単位認定者	大泉 浩一		評価の方法	授業内課題	100 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位				
						授業時間数	30 時間				
				授業形態	演習	授業回数	15 回				

授業の概要	医療従事者は対人援助を行う仕事であり、コミュニケーション能力が求められる。書き言葉と話し言葉を中心に日本語運用の基本を学び、自らを表現し、相手に正しく伝える言語表現の基礎能力を養う。また、大学生活の基礎となるレポート・小論文の作成、学術活動で活かされる読解、文章要約、推敲を実践形式で学修することで、日本語表現の実践力を身につける。
-------	--

到達目標	◇ 具体的な例を挙げて、自分の考えを他者に明確に伝える文章が作成できるようになること。 ◇ 初対面の相手に対しても、情報や自分の考えを分かりやすく話せるようになること。
------	---

学修者への期待等	国語や作文に自信がない人も、口頭で説明するのが苦手な人もご心配なく。「習うより慣れる」で少しずつ力をつけられるよう授業を進めますので、毎回の課題に全力で取り組んでください。
----------	--

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	授業ガイダンスと作文練習	事前学修：高校までに習った作文・小論文の書き方を確認してくる	60	0
2	手順を説明する（書く・話す）	事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する	30	30
3	情報を説明する（書く・話す）	事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する	30	30
4	経験を報告する（書く・話す）	事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する	30	30
5	経験に基づいて考える（書く・話す）	事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する	30	30
6	伝える内容を工夫する（書く・話す）	事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する	30	30
7	自分の考えをまとめる（書く・話す）	事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する	30	30
8	要約する（読む・書く）	事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する	30	30
9	コミュニティとコミュニケーション（考える・書く）	事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する	30	30
10	他者理解とコミュニケーション（考える・書く）	事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する	30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
11	想像力とコミュニケーション（考える・書く）	事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する	30	30
12	現代社会とコミュニケーション（考える・書く）	事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する	30	30
13	自分の未来とコミュニケーション（考える・書く）	事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する	30	30
14	表現・表記とコミュニケーション（考える・書く）	事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する	30	30
15	まとめの課題（考える・書く）	事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（作文実技、自己採点練習、発表練習）			
教科書	特に指定しない。資料を配付する。			
参考文献	『最新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康著、講談社現代新書			
備考	1学年を2クラスに分けて実施します。作文実技として毎回作文を書いていただき、チェックして次回に返却します。事後学修として毎回自己採点練習、発表練習をしてください。遅刻・私語等には厳しく対応し、出席不良の場合は評価対象外とします。			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLa02				
	●									
科目名	英語 I				単位認定者	ジョーンズ ドミニク		試験(筆記)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	40 %
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間	受講態度
				授業回数						
授業の概要	<p>グローバル化が急速に進展する中、国際共通語でもある英語は、日常生活においても多くの場面で必要とされている。そのため、英語によるコミュニケーション能力を養う必要がある。</p> <p>英語 I では、これまでの学校教育で学んだ内容を基に、日常生活における場面で使用する語彙や基本表現に触れ、総合的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また、医療従事者として必要な語彙を学修する。</p>									
到達目標	<p>1. 医療の現場で使われる基本的な英語表現について理解することができる。</p> <p>2. 英語の基礎力を身につけ、適切なコミュニケーションを取ることが出来るようになる。</p>									
学修者への期待等	医療英語を学びながら、英語基礎力の復習をしていきます。リスニング練習、ペアワーク、授業内の発表、準備学修を含め、積極的に学ぶ姿勢が求められます。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	授業のIntroduction、Unit1 受診の予約、単語 (Body)				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30
2	Unit2 受診、Registration FormとMedical Questionnaire、単語テスト(1)Body Parts、単語(症状)				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30
3	Unit3 ①問診(現在完了形)、単語テスト(2)症状、単語 (Department)				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30
4	Unit3 ②診察(無生物主語) 単語テスト(3) Department				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30
5	Unit4 薬の服用(There is/are～)、単語(薬)、グループワーク				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30
6	Unit8 術前・術後、単語テスト(4)薬				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30
7	Unit9 待合室での会話(体調や症状を説明する表現)				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30
8	Unit10 清拭(仮定法過去)、既習範囲のふりかえり				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(グループワーク、ペアワーク)									
教科書	『Introduction to Medical English (医療英語入門)』 稲富百合子他著、松柏社									
参考文献	授業内で指示する									
備考	<p>受講者の理解度等により順番や重点の置き方を変更する場合がある。</p> <p>小テスト等のフィードバックはその都度、授業内に行う。</p> <p>授業内課題は提出物35%、小テスト35%で評価し、返却時にフィードバックする。</p> <p>遅刻は授業開始10分以内とする。</p>									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLa03				
	●									
科目名	英語 II				単位認定者	ジョーンズ ドミニク		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	<p>グローバル化が急速に進展する中、国際共通語でもある英語は、日常生活においても多くの場面で必要とされている。そのため、英語によるコミュニケーション能力を養う必要がある。</p> <p>英語 II では、英語 I で学んだ内容を基に、グループワークやディスカッション等を行い、実践的な授業を行う。自分の意志や意見を英語で表現し、相手の意図を汲み取ることができることを目標とする。また、医療現場で頻繁に用いられる英語の基本表現についても学修する。</p>									
到達目標	<p>基礎的な英語のListening, Reading, Speaking, Writing を流暢に行うことができる学修スキルを身に付けることが出来る。英語のコミュニケーションを通して自分のことを知り、教員やクラスメートと英語でコミュニケーション出来るようになる。</p>									
学修者への期待等	<p>英語コミュニケーションは受け身の学修姿勢では成立しないため、履修生の積極的な参加を期待する。ノート、辞書を必ず持参すること。</p>									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	Unit 1を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。First Visit 初診 & 問診表 グループワーク、ディスカッション				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30	
2	Unit 2を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。At the Examination Room 診察室での基本会話 & ノロウイルス グループワーク、ディスカッション				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30	
3	Unit 3を用い、listening, speaking, reading 活動を行う。Flu Symptoms インフルエンザの症状 & タミフル グループワーク、ディスカッション				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30	
4	Unit 4を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Pain Problems 痛みへの対処 & BSE (狂牛病) グループワーク、ディスカッション				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30	
5	Unit 5を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Stomachache 胃痛 & 摂食障害 グループワーク、ディスカッション				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30	
6	Unit 6を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Abdominal Pain 腹痛 & ホルモン攪乱物質 グループワーク、ディスカッション				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	60	
7	Review 1-6				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30	
8	Unit 7を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Urinalysis 尿検査 & 市販薬 グループワーク、ディスカッション				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30	
9	Unit 8を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Cholesterol コレステロール & メタボリック症候群 グループワーク、ディスカッション				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30	
10	Unit 9を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Anemia 貧血 & バランスのとれた食事 グループワーク、ディスカッション				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30	
11	Unit 10を用い、listening, speaking, reading 活動を行う。Injury 怪我 & ウォーキングの効能 グループワーク、ディスカッション				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
12	Unit 11を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Operation Period 手術の準備 & 入院手順 グループワーク、ディスカッション	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める	30	30
13	Unit 12を用い、listening, speaking, reading 活動を行う。Alcohol Poisoning アルコール中毒 グループワーク、ディスカッション	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める	30	30
14	Unit 13を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Ultrasound Examination 超音波検査 グループワーク、ディスカッション	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める	30	60
15	Review 7-13 発表	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、ディスカッション）			
教科書	『Medical English Clinic』 Toshiaki Nishihara他著、Cengage Learning			
参考文献	各種英和辞典			
備考	受講者の理解度等により順番や重点の置き方を変更する場合がある。 小テスト等のフィードバックはその都度、授業内に行う。 遅刻は授業開始10分以内とする。 授業内課題は提出物35%、小テスト35%で評価し、返却時にフィードバックする。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLa05				
●										
科目名	情報処理 I				単位認定者	杉崎 新一		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					後期	授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	<p>情報社会で生活していく上で、数多く存在する情報の中から、情報の選別、分析・利用、管理が求められている。</p> <p>情報処理 I では、情報リテラシーを中心に、情報社会で適切な判断をするために必要な情報社会・情報科学に関する基礎知識を修得する。また、大学生活で必要なレポートの作成やプレゼンテーション資料の作成に取り組み、効果的な資料作成の技術を身につける。</p>									
到達目標	<p>パソコンの基本操作を修得し、業務でWord・Excel・PowerPointが効率的に使用できることを目標とする。</p> <p>◆Word: 書式設定や印刷設定を利用した基本的な文書・表・図形・写真などを含む文書が作成できる。</p> <p>◆Excel: 書式設定をして表を整えることができ、適切な計算式や関数、グラフを作成できる。</p> <p>◆PowerPoint: プレゼンテーションを理解し、訴求力あるスライド作成とスライドショー実施ができる。</p>									
学修者への期待等	<p>パソコンの基本操作から行う。操作が苦手な者は、これを機に操作ができるようにすること。</p> <p>操作ができる者であっても自己流の操作を行うことが多いので、初心に戻り取り組み、自分にとって不足しているスキルはより向上するよう学修すること。授業を休むと操作がわからなくなり、次回以降の授業にも影響するため注意すること。</p> <p>操作がわからない部分はそのままにせず、演習中に巡回をするので質問して確認すること。</p>									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	基礎知識:PCの操作・Windowsの基本操作				<p>【事前学修】</p> <p>マウス操作・入力操作は各自できるようにして授業に臨むこと。特に入力操作が苦手な場合は、タイピングの練習をして技術を向上させること。</p> <p>【事後学修】</p> <p>Word・Excelは、はじめは基礎内容から入り、段階的に応用内容に進んでいくため、各回の内容をしっかりと身につけ、次の授業へ臨むこと。授業内に完成しなかった作成物は、次回までに完成しておくこと。</p> <p>これまでの経験によってパソコンのスキル(技能)は、各人で異なるため、自分の現在のスキルを把握し、学修したパソコン操作が身につけていないと感じる場合は、授業中に作成したものを繰り返し操作して復習すること。</p>			0	30	
2	情報保護:モラルとセキュリティに関する知識 Word: 文書の書式設定・印刷設定							30	30	
3	Word: 入力方法・文書入力・ページ設定							30	30	
4	Word: 書式設定							30	30	
5	Word: 図・表を取り入れた文書の作成							30	30	
6	Word: 課題作成 (これまでに学んだ内容を活用)							30	30	
7	Excel: 入力と編集方法・数式や関数・書式設定・表示形式							30	30	
8	Excel: 相対参照と絶対参照・表の編集・印刷設定							30	30	
9	Excel: グラフ作成							30	30	
10	Excel: 基本的な関数 (MAX・MIN・COUNT・COUNTAなど)							30	30	
11	Excel: 基本的な関数 (IF・AND・ORなど)・表示形式・日付関連の関数							30	30	
12	Excel: 課題作成 (これまでに学んだ内容を活用)							30	30	
13	PowerPoint: スライドの作成・オブジェクトの挿入							30	30	
14	PowerPoint: アニメーションの設定・スライドショーの実施							30	30	
15	PowerPoint: 課題作成 (これまでに学んだ内容を活用)							30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり: キーワード (実技、課題作成)									
教科書	「30時間アカデミック Office2024」杉本くみ子, 実教出版									
参考文献	進行に応じてプリントを配付する。									
備考	<p>すべての授業回で実技を行うため、各自のパソコンを持参して授業に臨むこと。</p> <p>授業内課題は授業時に指示する提出物で評価し、適宜フィードバックする。</p> <p>課題は次回講義の際に総じて解説を行うこともある。</p> <p>授業内容や順序は、クラス全体の操作の進捗、使用教室により調整する場合がある。</p> <p>1学年を2クラスに分けて実施する。</p>									
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLa06				
	●									
科目名	情報処理Ⅱ				単位認定者	氏家 留美子		授業内課題	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	<p>情報社会で生活していく上で、数多く存在する情報の中から、情報の選別、分析・利用、管理が求められている。</p> <p>情報処理Ⅱでは、情報処理Ⅰで学んだ内容を基に、大学生活や卒業後も学び続けるために必要となるデータの収集や処理を正確に行う能力を身につける。さらに、グループワーク等を通じて情報収集、分析、発表、評価を行うことにより、プレゼンテーション技術を高めていく。</p>									
到達目標	<p>①Excelを用いて、データベースの構造を深く理解する。関数やピボットテーブルを使いデータの集計と分析が行える。用途に合わせた適切なグラフを選択し、データを効果的に視覚的に表現できるようになる。</p> <p>②PowerPointを用いて、箇条書きでの表現を通じて言葉を簡潔にまとめ、情報を的確に伝える技術を身につける。図解表現を活用し、聞き手に対して情報を魅力的かつ理解しやすく伝えることができる。</p> <p>③グループワークを通じて、役割分担・意見調整・共同編集のスキルを身につける。</p> <p>④他者のプレゼンテーションを、構成・視覚表現・話し方の観点から適切に評価ができ改善点を具体的に指摘できる。他者から学び、自分のプレゼンテーションを振り返り改善する力を身につける。</p>									
学修者への期待等	<p>Excelとプレゼンテーションの知識を積極的に吸収し、情報の高度な活用能力を修得することを期待する。データの分析と表現において独自の洞察を發展させ、これらスキルを将来的に実践的な場面で応用できるよう自己成長に努めていただきたい。</p> <p>授業は情報処理室のパソコンを使用するため、自分のパソコンは持参しなくてよい。作成ファイルを保存するために、USBメモリを使用する。1回目の授業のときに詳しく説明するので、2回目授業までにUSBメモリは各自準備すること。</p> <p>なお、授業1回目からはExcelの教科書（教科書①）を持参すること。プレゼンテーションの教科書（教科書②）は授業後半の回から使用するため、1回目の授業から持参する必要はない。</p>									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	Excel：数値を視覚化する（グラフ・スパークライン）				事前学修：教科書①の第3章（104～117ページ）の操作手順を確認しておく 事後学修：作成したグラフを再度作成できるように練習する				30	30
2	Excel：ルールに基づいた書式や規則を設定する（条件付き書式・入力規則）				事前学修：教科書①の第2章で出てくる操作手順を確認しておく 事後学修：操作した内容をスムーズにできるまで練習する				30	30
3	Excel：関数を活用する（統計関数）				事前学修：教科書①の第1章（21～32ページ）の関数の構造を確認しておく 事後学修：授業で使用した関数が使えるように練習する				30	30
4	Excel：関数を活用する（検索関数・日付関数）				事前学修：教科書①の第1章（35～42ページ）の関数の構造を確認しておく 事後学修：授業で使用した関数が使えるように練習する				30	30
5	Excel：データベースの集計と分析をする（ピボットテーブル）				事前学修：教科書①の第5章の操作手順を確認しておく 事後学修：ピボットテーブルを使ってデータ集計ができるように練習する				30	30
6	Excel：データベースの活用・データの管理と整理をする（ピボットテーブルと関数のまとめ）				事前学修：教科書①の第1章と第5章で操作した内容を復習しておく 事後学修：ピボットテーブルでの集計や関数の作成がスムーズにできるように練習する				30	30
7	Excel：総合演習（データの視覚化・関数・集計・分析）				事前学修：これまで学習した関数・データベース集計が使えるように練習しておく 事後学修：教科書①第4章にグラフィック関連の操作があるので確認しておき、次回以降のPowerPoint操作に備える				60	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
8	PowerPoint：訴求力の高い資料作成 (書式の工夫・箇条書きによる表現・表の効果的な使い方・データに合うグラフの利用・図解で示す方法・色による表現方法)	事前学修：教科書②の第4章を読んでおく 事後学修：授業内で指示するデータを完成させる	30	30
9	プレゼンテーション(グループワーク)：目的の明確化・聞き手の分析・必要な情報を集めてまとめる・グループ内での役割分担	事前学修：教科書②の第1・2章を読んでおく 事後学修：グループで決めたテーマの情報を収集する	30	30
10	プレゼンテーション(グループワーク)：ストーリー構成・本論の組み立て・設計シート作成	事前学修：教科書②の第3章を読んでおく 事後学修：プレゼンテーション資料をグループ内で分担して準備する	30	60
11	プレゼンテーション(グループワーク)：構成シート作成・発表資料や発表原稿作成	事前学修：教科書②の第2～4章を再確認しておく 事後学修：プレゼンテーション資料をグループ内で分担して準備する	30	60
12	プレゼンテーション(グループワーク)：伝える技術・聞き手を引きつける話し方	事前学修：教科書②の第5章を読んでおく 事後学修：プレゼンテーションの発表準備をする	30	60
13	プレゼンテーション(グループワーク)：発表①(前半)・評価シート作成	事前学修：教科書②の第5章をもとに発表のリハーサルしておく 事後学修：他グループの発表についての評価シートを完成させて提出の準備を進める	30	30
14	プレゼンテーション(グループワーク)：発表②(後半)・評価シート作成	事前学修：教科書②の第5章をもとに発表のリハーサルしておく 事後学修：他グループの発表についての評価シートを完成させて提出の準備を進める	30	30
15	プレゼンテーション(グループワーク)：他者からの評価をもとに改善点まとめ・振り返りシート作成	事前学修：発表時の感想・反省点をまとめておく 事後学修：グループワーク・プレゼン実施を終えて、今後どう活かしていくかを考える	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(グループワーク、プレゼンテーション、発表)			
教科書	①『よくわかる Microsoft Excel 2024 応用 Office 2024/Microsoft 365対応』富士通ラーニングメディア著、FOM出版 ②『よくわかる 改訂2版 自信がつくプレゼンテーション』富士通ラーニングメディア著、FOM出版			
参考文献	進行に応じてプリントを配布することもある。			
備考	当科目は2クラスに分けて実施する。 授業内課題は「小テスト：40%」、「提出物：30%」で評価し、適宜フィードバックする。 「小テスト」は、事前に告知した上で、授業で操作した内容を実技や筆記で問う。 「提出物」は、指示した作成ファイルをデータ形式で提出する。 授業は情報処理室で実施する。パソコンの操作手順を示す際に講師の操作画面を各学生のパソコン画面へ映す授業支援システム(SkyClassesMng)を利用する。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力
	●	●		●	

科目ナンバリング
NSLb02

科目名	生命倫理学				単位認定者	飯沼 一字		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内 課題等	20 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	医療は生物、心理、社会的な包括的アプローチが求められる。医学の進歩発展過程や学際的に問われる倫理（生殖技術・移植医療・遺伝子技術）、医療現場で問われている倫理的問題（人工妊娠中絶・安楽死・尊厳死）等を具体的な課題を通して学ぶ。医療従事者として必要とされる、相手を尊重し敬意を持って接する姿勢や、人間の尊厳についての考えを深め、倫理的態度を身につけることを目指す。									
到達目標	生命とは何か、生命科学とは何か、倫理とは何かを考えに入れながら、医療従事者として業務に携わるに当たっての中心になる心構えを培う。著しい医学・科学の発展と倫理との関係を学ぶ。まだ解決されていない課題が多いが、それに対する各人の考えをまとめていくことを努力する。									
学修者への期待等	生命に対して、人間としてのあり方を深く考えながら、受講に臨むこと。自分ならどうするかなど、事柄を他人事ではなく、自身に即した事柄としてとらえていく態度を望む。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	生命倫理学総論				事後学修：生命倫理とは、世の中の出来事での生命と倫理の関わりであることを理解する。				0	30
2	医学・医療の歴史、近代科学の発展と医療倫理				事後学修：近代になり特に科学が著しい発展を見せたことを理解し、それに伴って倫理的課題が生じていることを理解する。				0	30
3	医学関連の出来事（医療事故、医療過誤を含む）				事後学修：20世紀からの医学関連の出来事と医療倫理について理解する。				0	30
4	生命科学の革命的発展と倫理				事後学修：十数年前には考えられなかった医学の発展がある。倫理との兼ね合いについて理解を深める。				0	30
5	生命倫理の歴史と現代への連携				事後学修：人権がどう守られるようになったか。その思想的根拠について理解する。				0	30
6	大災害と医療の関わり				事後学修：今でもしばしば起きる大災害に際して、医学・医療がどうかかわるかを理解する。				0	30
7	生命の始まりとつなぎ				事後学修：生命誕生に係る倫理的考察、生命をいかにつなぐかの理解を深める。				0	30
8	死の医学				事後学修：生命の終わりである死について考える。				0	30
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	特になし									
参考文献	特になし									
備考	授業内課題については適宜フィードバックする。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLb03				
	●	●		●						
科目名	心理学				単位認定者	真覚 健		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	心理学とは、人間の心と行動を学び、科学的に検証する学問である。心理学の基礎知識である「感覚・知覚、学習・記憶、感情、動機・欲求、性格、社会・集団」を学び、人間の行動や心理過程の理解に必要な基礎的知識を身につける。また、社会に対する心理学の役割、心理学の対象となる日常生活上の問題やこころの健康にも触れて学修する。									
到達目標	1：心理学の基礎的知識について説明できる。 2：心理学的な見方や考え方を理解し、説明できる。 3：社会に対する心理学の役割について説明できる。									
学修者への期待等	資料をあらかじめUNIPA上にアップするので事前に読んで学修すること。 日常生活で経験する事象と結びつけて理解するよう期待します。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1	心理学とは（心理学と自然科学）				事前学修：資料を読んで、心を科学的に扱うための工夫について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30	
2	感覚・知覚・認知				事前学修：資料を読んで、感覚・知覚・認知について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30	
3	学習・記憶				事前学修：資料を読んで、随伴性学習、短期記憶と長期記憶の特徴について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30	
4	感情				事前学修：資料を読んで、基本的感情、表情について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30	
5	動機・欲求				事前学修：資料を読んで、内発的動機づけ、適応機制について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30	
6	性格				事前学修：資料を読んで、類型論と特性論について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30	
7	社会・集団				事前学修：資料を読んで、集団の種類、集団規範、リーダーシップについて学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30	
8	心理学の対象となる日常生活上の問題				事前学修：資料を読んで、ルッキズムと容貌についてのステレオタイプについて学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ペアディスカッション）									
教科書	資料を配付する。									
参考文献	『新心理学ライブラリ1 心理学への招待』梅本堯夫他編、サイエンス社									
備考	資料は事前にUNIPA上にアップする。 第1回、8回の授業でペアディスカッションを行う。 毎回事後学修としてUNIPAでのレスポンスシートの提出を求め、次回の授業でフィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力
	●				

科目ナンバリング
NSLb05

科目名	宗教と民族				単位認定者	徳田 幸雄		評価の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内 課題等	40 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	国際社会の中で、他者を理解するためには、宗教や民族、思想、歴史、文化への理解が重要である。世界の主要宗教（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教）を取り上げ、思想と歴史に触れることで、世界に対する自己見解を持ちながらも、他者の思想等を尊重できる姿勢を学ぶ。また、地域紛争の背景となる民族問題、紛争により起こる難民問題等を取り上げ、現在起きている国際的な問題と日本の関係についても学び、幅広い視野を持てるよう学修する。									
到達目標	国際化時代に相応しい他者理解の素養を身につけるとともに、自己理解を深める。									
学修者への期待等	日頃から宗教が絡む国際情勢や時事問題に関心を持ち、自身で情報収集するなどして主体的な取り組みをしたうえで授業に臨むことが望ましい。									
回	授業計画					準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	古代イスラエルの宗教					事前学修：ネット検索し、予備知識を得る 事後学修：チェックテストの復習			30	30
2	ユダヤ教：「遵守する」宗教					事前学修：ネット検索し、予備知識を得る 事後学修：チェックテストの復習			30	30
3	キリスト教：「信じる・愛する」宗教					事前学修：ネット検索し、予備知識を得る 事後学修：チェックテストの復習			30	30
4	イスラーム：「服従する」宗教					事前学修：ネット検索し、予備知識を得る 事後学修：チェックテストの復習			30	30
5	インドの諸宗教：「祭る」宗教					事前学修：ネット検索し、予備知識を得る 事後学修：チェックテストの復習			30	30
6	仏教：「悟る」宗教					事前学修：ネット検索し、予備知識を得る 事後学修：チェックテストの復習			30	30
7	日本仏教（13宗）					事前学修：ネット検索し、予備知識を得る 事後学修：チェックテストの復習			30	30
8	神道：「清める」宗教					事前学修：ネット検索し、予備知識を得る 事後学修：チェックテストの復習			30	30
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	使用しない									
参考文献	なし									
備考	授業内課題はチェック・テストで評価し、次回の授業冒頭にてフィードバックする。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLb06				
	●	●		●						
科目名	人間関係論				単位認定者	真覚 健		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	日々の生活において、他者と良好な関係を築くことは重要なことであり、その場面は家庭、学校、職場、地域等と多岐に渡り、他者（対象者）によっても、築くべき人間関係は大きく異なる。他者との良好な関係を築くために必要なことは何か、対人認知のプロセスやメカニズム、対人関係の理論と技法を学修し、コミュニケーション能力の向上を図る。									
到達目標	1：看護業務における人間関係の機能について説明できる。 2：対人認知のプロセスやメカニズムについて説明できる。 3：看護職者として必要なコミュニケーション能力を理解し、説明できる。									
学修者への期待等	資料をあらかじめUNIPA上にアップするので事前に読んで学修すること。 学んだ知識を活かしたコミュニケーションができるよう実践することを期待します。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	看護における人間関係				事前学修：資料を読んで、人間関係のとらえかたについて学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30	
2	対人認知①（対人印象の形成）				事前学修：資料を読んで、対人印象の形成について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30	
3	対人認知②（対人魅力にかかわる要因）				事前学修：資料を読んで、対人魅力について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30	
4	交流分析の理解				事前学修：資料を読んで、自我状態について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30	
5	コミュニケーションプロセスとミスコミュニケーション				事前学修：資料を読んで、ミスコミュニケーションについて学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30	
6	非言語コミュニケーションの理解				事前学修：資料を読んで、非言語コミュニケーションについて学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30	
7	コミュニケーションのスキル①（話を聴くスキル）				事前学修：資料を読んで、傾聴について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30	
8	コミュニケーションのスキル②（アサーティブ・コミュニケーション）				事前学修：資料を読んで、アサーティブコミュニケーションについて学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ペアディスカッション）									
教科書	資料を配布する。									
参考文献	『ナースのための臨床社会心理学：看護場面の人間関係のすべて』 C. アブラハム他著、北大路書房									
備考	資料は事前にUNIPA上にアップする。 第1回、8回の授業でペアディスカッションを行う。 毎回事後学修としてUNIPAでのレスポンスシートの提出を求め、次回の授業でフィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLc05				
	●			●						
科目名	社会学				単位認定者	小野寺 修		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	この科目は、社会学の理念・理論・全体構造といった基礎的な知識を学び、現代において多様化する社会的諸問題について考える。身近な問題として、ジェンダー、子どもの貧困、多様化する家族、難民、多文化、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）等をテーマに、幅広く学び、社会問題について、自ら考える力を養う。									
到達目標	社会とは何か。社会の変化や人々の生活を社会的な視点から検討し、論理的に説明することができる。									
学修者への期待等	社会は日々動いています。この講義を通して、みなさんが普段暮らしている社会をじっくり見つめるきっかけにしてください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	社会とは何か（基礎理論・用語）				事後学修：講義内容の復習			0	60	
2	多文化共生①（多民族国家日本の姿）				事前学修：前回提示したキーワードの下調べ 事後学修：講義内容の復習			30	60	
3	多文化共生②（戦後日本の外国人政策）				事前学修：前回提示したキーワードの下調べ 事後学修：講義内容の復習			30	60	
4	多文化共生③（多文化社会の課題について考える） ～グループワーク～				事前学修：前回提示したキーワードの下調べ 事後学修：講義内容の復習			30	60	
5	ジェンダー①（男らしさ・女らしさ）				事前学修：前回提示したキーワードの下調べ 事後学修：講義内容の復習			30	60	
6	ジェンダー②（多様な性のあり方）				事前学修：前回提示したキーワードの下調べ 事後学修：講義内容の復習			30	60	
7	現代日本のすがた①（都市部と地方部）				事前学修：前回提示したキーワードの下調べ 事後学修：講義内容の復習			30	60	
8	現代日本のすがた②（防災大国日本）				事前学修：前回提示したキーワードの下調べ 事後学修：講義内容の復習			30	60	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）									
教科書	特に指定しません。必要な教材はこちらで準備します。									
参考文献	『よくわかる社会学』宇都宮京子他編、ミネルヴァ書房 『大学生のための社会学入門』篠原清夫他編、光洋書房 『社会学』奥井智之著、東京大学出版会									
備考	・受講者の理解度および講義の進度によって、内容を変更することがあります。 ・課題に対する講評等は講義内またはUNIPAにて全体にフィードバックします。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLc06				
	●			●						
科目名	社会保障論				単位認定者	青山 美智子		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	15 %
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間	授業後課題
				授業回数			8 回			
授業の概要	<p>社会保障とは何か、社会保障制度を成り立たせている基本的な考え方を理解する。社会保障が誕生した歴史的背景、生存権を規定し国民の生活の保障を具体化した社会保障制度の内容を理解する。また、医療を取り巻く環境や少子高齢社会で人口減少が進む我が国で、どのような問題が生じているのか、現実社会の変化に対応すべく、どのような制度改革やサービス改革が行われようとしているのか、身近な問題と制度を結びつけ基本的な知識を身につける。</p>									
到達目標	<p>社会保障制度の体系と概要を理解し説明できる。 統計データからわが国の社会的背景と医療保障制度の関係性を理解し説明できる。 社会生活の中での社会保障の役割について理解し説明できる。</p>									
学修者への期待等	<p>社会保障関連の統計データ、新聞、ニュースに対して、日頃から関心をもつことが望ましい。 社会変遷との関連性を理解し、社会保障制度を複眼的な考え方で理解することが望ましい。 国家試験対策も併せて行うので積極的な授業参加を期待する。</p>									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	<p>社会保障の理念、憲法第25条、社会保障制度の構成、わが国の人口構造と人口ピラミッド、少子高齢社会、平均寿命、出生率、一次資料の活用について本時の単元に関する国試問題傾向</p>				<p>事前学修：シラバス内容を確認する 事後学修：配布レジュメを読み込む 本時の課題を完成させる</p>			30	30	
2	<p>社会保障制度1【健康と公衆衛生】 1. 健康とは、2. 公衆衛生とは、3. 健康日本21 4. 公衆衛生に関係する行政組織 〔医療を取り巻く環境〕 1. 国民の受療状況、2. 社会保険給付費、3. 平均在院日数、本時の単元に関する国試問題傾向</p>				<p>事前学修：資料を復習し授業に臨む 事後学修：図表やデータ、資料を読む 本時の課題を完成させる</p>			30	30	
3	<p>〔医療供給体制〕 医療法、医療圏、医療計画、病床の種類、保険医療機関(病院・診療所)、病院機能の分類 本時の単元に関する国試問題傾向</p>				<p>事前学修：資料を復習し授業に臨む 事後学修：図表やデータ、資料を読む 本時の課題を完成させる</p>			30	30	
4	<p>社会保障制度2【社会保険】 1. 社会保険とは、2. 公保険と私保険、 (1) 医療保険制度、医療給付、現金給付 本時の単元に関する国試問題傾向</p>				<p>事前学修：資料を復習し授業に臨む 事後学修：図表やデータ、資料を読む 本時の課題を完成させる</p>			30	30	
5	<p>(2) 労災保険制度、(3) 雇用保険制度、(4) 年金保険制度、(5) 介護保険制度 社会保障制度3【老人保健】 高齢者保健医療(後期高齢者保健医療制度) 本時の単元に関する国試問題傾向</p>				<p>事前学修：資料を復習し授業に臨む 事後学修：図表やデータ、資料を読む 本時の課題を完成させる</p>			30	30	
6	<p>社会保障制度4【社会福祉】 (1) 児童福祉、(2) 母子・父子・寡婦福祉等 本時の単元に関する国試問題傾向</p>				<p>事前学修：資料を復習し授業に臨む 事後学修：図表やデータ、資料を読む 本時の課題を完成させる</p>			30	30	
7	<p>(3) 障害者福祉、(4) 高齢者福祉、 〔地域包括ケアシステム〕システムのしくみ 本時の単元に関する国試問題傾向</p>				<p>事前学修：資料を復習し授業に臨む 事後学修：図表やデータ、資料を読む 本時の課題を完成させる</p>			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
8	社会保障制度5【公的扶助】 1. 貧困とは, 2. 生活保護法の実施体制, 3. 生活保護の種類と内容, 4. 生活保護の原理原則 本時の単元に関する国試問題傾向	事前学修：資料を復習し授業に臨む 事後学修：図表やデータ, 資料を読む 本時の課題を完成させる	30	30
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）			
教科書	テキストは使用しない。毎時 授業資料を配布する。			
参考文献	一次資料を確認しながら進める。文献は必要に応じて授業内で紹介する。			
備考	授業内容や順序は単元の関連性により調整する場合がある。 授業内課題は小テスト等で評価する。 小テストや国試対策は適宜行う。小テストの解答・解説（フィードバック）はUNIPAに掲載するので必ず確認すること。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLd01				
	●		●	●						
科目名	物理学				単位認定者	本田 俊夫		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	<p>人体の動きから人体内部の生命現象まで、物質が関与する現象はすべて物理学の原理に従っている。物理の基礎として力学、温度と熱、音と光、電気と磁力、原子と放射線について学修し、医療に携わる者として、人間生活と物理的事象との関わりを科学的に理解する。</p>									
到達目標	<p>日常生活や体とかかわる身近な物理的事象の基礎原理について理解し、それをわかりやすく説明し、応用することができる。医療にかかわる者として、物理学全般の基礎的な教養と知識を身につける。</p>									
学修者への期待等	<p>教科書に基づいて準備学修で指定された箇所を必ず予習してください。また、授業後はよく復習して理解を深めてください。</p>									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	「力のつり合い」力のはたらき・つり合い				事前学修：第1章力のつり合いp.2～7を読んでおくこと。			60	0	
2	「力のつり合い」剛体にはたらく力				事後学修：授業後に復習し理解を深める。			0	60	
3	運動の表し方と運動の法則				事前学修：第2章p.10～13、第3章p.18～23を読んでおくこと。			60	0	
4	圧力				事後学修：別途資料を配布する。復習をして理解を深めること。			0	60	
5	熱とエネルギー				事前学修：第7章熱とエネルギーp.50～55を読んでおくこと。			60	0	
6	波の性質 音と光				事前学修：第10章音p.78～83、第11章音p.87～89を読んでおくこと。			60	0	
7	電磁気				事前学修：第12章音p.94～97を読んでおくこと。			60	0	
8	原子と放射線				事前学修：第15章音p.118～123を読んでおくこと。			60	0	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ()									
教科書	『基礎と演習 大学生の物理入門』高橋正雄著、共立出版									
参考文献	なし									
備考										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLd02				
	●		●	●						
科目名	生物学				単位認定者	石澤 公明		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	10 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	生命現象、生命の尊厳、生物の多様性と、生命現象の普遍性を学ぶことにより、ヒトの存在への理解を深める。生物学の基礎として、生命現象・遺伝・細胞・発生・免疫・環境を学修し、医療に携わる者として、現在急速に解明されつつある生命現象や生命科学を科学的に理解する。									
到達目標	①生物を構成する細胞の構造と働きについて、特に生体膜・核・ミトコンドリアについて説明できるようになる。 ②タンパク質、核酸、糖類の構造を説明できるようになる。 ③生体の環境刺激応答に関わる神経伝達系及び免疫の仕組みを概説することができるようになる。 ④遺伝子発現の仕組みを説明できるようになる。									
学修者への期待等	事前に配布した講義資料を必ず予習してください。講義中に要点をノートに記入しながら受講し、不明な点は、質問として配付する用紙に記入してください。質問に対しては、次の講義で回答します。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	生物とは？（自然分類・原核生物・真核生物）				事後学修：配布資料（生物とは？）を復習する。			0	30	
2	細胞の構造と分裂（細胞小器官・体細胞分裂・減数分裂）				事前学修：前回配布した資料（細胞の構造と分裂）を予習する。 事後学修：資料（細胞の構造と分裂）を復習する。			30	30	
3	タンパク質の構造と機能（ペプチド結合・酵素・生体膜・能動輸送・受動輸送）				事前学修：前回配布した資料（タンパク質の構造と機能）を予習する。 事後学修：資料（タンパク質の構造と機能）を復習する。			30	30	
4	生体エネルギーと代謝（呼吸・糖・解糖系・クエン酸回路・化学浸透圧説）				事前学修：前回配布した資料（生体エネルギーと代謝）を予習する。 事後学修：資料（生体エネルギーと代謝）を復習する。			30	30	
5	神経伝達系（環境刺激・神経細胞・活動電位・神経伝達物質）				事前学修：前回配布した資料（神経伝達系）を予習する。 事後学修：資料（神経伝達系）を復習する。			30	30	
6	免疫及び細胞分化（自然免疫・適応免疫・抗体・幹細胞）				事前学修：前回配布した資料（免疫及び細胞分化）を予習する。 事後学修：資料（免疫及び細胞分化）を復習する。			30	30	
7	遺伝（メンデル遺伝・対立遺伝子・DNA・RNA）				事前学修：前回配布した資料（遺伝）を予習する。 事後学修：資料（遺伝）を復習する。			30	30	
8	遺伝情報の発現（DNAの複製・ゲノム・遺伝情報の中心教義・遺伝暗号表）				事前学修：前回配布した資料（遺伝情報の発現）を予習する。 事後学修：資料（遺伝情報の発現）を復習する。			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	なし									
参考文献	『サイエンスビュー 生物総合資料』長野敬他監、実教出版									
備考	授業内課題（レポート）は、最初の講義で課題を提示します。紙媒体（A4レポート用紙一枚）で、期日内に提出して下さい。これとは別に、毎回講義の最後に課題（小テスト）を出します。その解答及び質問等は、毎回配布する用紙に記入し、講義終了時に提出して下さい。その課題解答や質問等のフィードバックは、次回以降の講義中に行います。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFa01				
			●							
科目名	人体構造と機能 I				単位認定者	大和田 宏美		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位			
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	人間の健康障害をきたす疾患を理解する上では、正常な体の構造とその機能を理解する必要がある。人体構造と機能 I では、人体を構成する細胞から結合組織、骨の構造と連結の状態、筋組織など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 人体を構成する細胞から結合組織、骨の構造と連結の状態、筋組織の構造と機能が説明できる。 2. 骨格系では骨の名称、筋系では筋の名称や運動について説明できるようになる。									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> 解剖学を学ぶことは自分の体を知ることにつながります。興味をもって取り組んでください。 解剖学の基本である、骨と筋の名称を覚えて医学用語が使えるようになりましょう。 									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	解剖学総論				事前学修：解剖学とは何かについて考える 事後学修：配付資料をまとめて復習すること。		30	30	山本 由似	
2	解剖学の基礎知識 人体の骨格				事前学修：第1章P8～15を読んでおくこと。 事後学修：授業内容をまとめて復習すること。		30	30	山本 由似	
3	骨の形態と構造、骨組織・骨の種類、関節の構造と種類				事前学修：第7章P292～302を読んでおくこと。 事後学修：授業内容をまとめて復習すること。		30	30	山本 由似	
4	筋の種類・骨格筋の構成・筋の機能				事前学修：第7章P302～306を読んでおくこと。 事後学修：授業内容をまとめて復習すること。		30	30	山本 由似	
5	上肢の骨格：骨模型に触れる				事前学修：UNIPAでの配付資料を見ておくこと。 事後学修：骨課題について復習すること。		30	30	大和田 宏美	
6	上肢の骨と筋（上肢帯・上腕）				事前学修：第7章316～330を読んでおくこと。 事後学修：上肢帯の骨と筋について復習すること。		30	30	大和田 宏美	
7	上肢の骨と筋（前腕）				事前学修：第7章316～330を読んでおくこと。 事後学修：前腕の骨と筋について復習すること。		30	30	大和田 宏美	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	上肢の骨と筋（手部）	事前学修：第7章316～330を読んでおくこと。 事後学修：手部の骨と筋について復習すること。	30	30	大和田 宏美
9	体幹の骨格	事前学修：第7章307～310を読んでおくこと。 事後学修：体幹の骨について復習すること。	30	30	大和田 宏美
10	体幹の筋（背部・腹部・胸部）	事前学修：第7章310～316を読んでおくこと。 事後学修：体幹の筋について復習すること。	30	30	大和田 宏美
11	下肢の骨格と動き	事前学修：第7章330～342を読んでおくこと。 事後学修：下肢帯の骨について復習すること。	30	30	大和田 宏美
12	下肢の骨と筋（骨盤帯）	事前学修：第7章330～342を読んでおくこと。 事後学修：下肢帯の筋について復習すること。	30	30	大和田 宏美
13	下肢の骨と筋（大腿・下腿・足部）	事前学修：第7章330～342を読んでおくこと。 事後学修：下肢の骨と筋について復習すること。	30	30	大和田 宏美
14	頭頸部の骨格と筋	事前学修：第7章342～349を読んでおくこと。 事後学修：頭頸部の骨と筋について復習すること。	30	30	大和田 宏美
15	筋収縮・運動と代謝・筋の病気	事前学修：第7章349～365を読んでおくこと。 事後学修：授業内容をまとめて復習すること。	30	30	山本 由似
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）				
教科書	『系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能1』坂井建雄他著、医学書院 『解剖生理学ワークブック<2026年版>』坂井 建雄他著、医学書院				
参考文献	『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系』坂井建雄他監、医学書院 『ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能①解剖生理学』林正健二編、メディカ出版				
備考	授業内で課題を提示した場合は、UNIPAあるいは授業内でフィードバックを行います。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験や研究活動を活かし、学生が解剖学について理解を深め、解剖学の知識が身につくような授業を行います。（大和田）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFa02				
			●							
科目名	人体構造と機能Ⅱ				単位認定者	田林 暁一		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
							授業時間数		30 時間	
				授業形態	講義	授業回数			15 回	
授業の概要	人間の健康障害をきたす疾患を理解する上では、正常な体の構造とその機能を理解する必要がある。人体構造と機能Ⅱでは、循環器、呼吸器、消化器、腎・泌尿器、生殖器の構造と機能など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心臓の構造、機能、および主症状が説明できる。 2. 血管系の構造と機能が説明できる。 3. 気道の構造と機能が説明できる。 4. 肺の構造、機能、および主症状が説明できる。 5. 消化器系の構造、機能、および主症状が説明できる。 6. 泌尿器系の構造、機能、および主症状が説明できる。 7. 生殖器系の構造と機能が説明できる。 									
学修者への期待等	第1回から第15回講義に際し、授業計画の予習、及び講義後の復習をしてください。予習、及び復習は反転授業で活用し、理解を深めていきたいと考えているので、予習・復習の習慣をつけてください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	医学への関心度（一般的な医学に関する質問）				事前学修：第1回講義内容の予習 事後学修：第1回講義内容の復習			30	30	
2	心臓・血管系の構造と機能				事前学修：第2回講義内容の予習 事後学修：第2回講義内容の復習			30	30	
3	循環器総論（胸痛、動悸）				事前学修：第3回講義内容の予習 事後学修：第3回講義内容の復習			30	30	
4	循環器総論（ショック）				事前学修：第4回講義内容の予習 事後学修：第4回講義内容の復習			30	30	
5	循環器総論（救急）				事前学修：第5回講義内容の予習 事後学修：第5回講義内容の復習			30	30	
6	気道・肺の構造と機能				事前学修：第6回講義内容の予習 事後学修：第6回講義内容の復習			30	30	
7	呼吸の仕組み（生理・生物学的動態）				事前学修：第7回講義内容の予習 事後学修：第7回講義内容の復習			30	30	
8	呼吸器総論（喀血、咳、呼吸困難）				事前学修：第8回講義内容の予習 事後学修：第8回講義内容の復習			30	30	
9	呼吸器総論（呼吸不全）				事前学修：第9回講義内容の予習 事後学修：第9回講義内容の復習			30	30	
10	消化器系の構造と機能				事前学修：第10回講義内容の予習 事後学修：第10回講義内容の復習			30	30	
11	消化器総論（悪心・嘔吐、吐血、腹痛）				事前学修：第11回講義内容の予習 事後学修：第11回講義内容の復習			30	30	
12	消化器総論（食欲不振、黄疸、下血、便秘）				事前学修：第12回講義内容の予習 事後学修：第12回講義内容の復習			30	30	
13	泌尿器系の構造と機能				事前学修：第13回講義内容の予習 事後学修：第13回講義内容の復習			30	30	
14	泌尿器総論（血尿、蛋白尿、頻尿）				事前学修：第14回講義内容の予習 事後学修：第14回講義内容の復習			30	30	
15	生殖期系の構造と機能				事前学修：第15回講義内容の予習 事後学修：第15回講義内容の復習			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（反転授業）									
教科書	『系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能1』坂井建雄他著、医学書院									
参考文献	『ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能①解剖生理学』林正健二編、MCメディカ出版									
備考	UNIPA上に送信された資料は各自、コンピュータにダウンロードしてきてください。授業内で施行した小テストは授業中に解答・解説を行う。									
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										
医師として5年以上の臨床経験があり、それを活かし、呼吸器、循環器、消化器、泌尿器、及び生殖器の構造と機能を理解させる。										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFa03				
			●							
科目名	人体構造と機能Ⅲ				単位認定者	小野寺 健		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	人間の健康障害をきたす疾患を理解する上では、正常な体の構造とその機能を理解する必要がある。人体構造と機能Ⅲでは、中枢神経系、末梢神経系、感覚器系、内分泌系、血液、免疫系の構造と機能など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 中枢神経系（大脳、間脳、脳幹、小脳、脊髄）の構造と機能を理解できる。 2. 末梢神経系（脳神経、脊髄神経、体性神経、自律神経）の構造と機能を理解できる。 3. 感覚器系（視覚、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、内臓感覚）の構造と機能を理解できる。 4. 内分泌器官の構造とホルモン作用を理解できる。									
学修者への期待等	分からない単語、漢字の読みは教科書、レジメに記すこと。授業後に必ず授業内容に目を通し、復習すること。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	神経の構造・機能				事後学修：解剖学用語、生理学用語が多く出るので授業後に復習すること。			0	30	
2	髄膜、脳室、脳幹				事後学修：解剖学用語、生理学用語が多く出るので授業後に復習すること。			0	30	
3	大脳、脳神経、末梢神経				事後学修：解剖学用語、生理学用語が多く出るので授業後に復習すること。			0	30	
4	脊髄、神経叢				事後学修：解剖学用語、生理学用語が多く出るので授業後に復習すること。			0	30	
5	大脳地図1（前頭葉、運動野と感覚野、ブローカ野）				事後学修：解剖学用語、生理学用語が多く出るので授業後に復習すること。			0	30	
6	大脳地図2（頭頂葉、側頭葉、後頭葉、大脳辺縁系）				事後学修：解剖学用語、生理学用語が多く出るので授業後に復習すること。			0	30	
7	大脳基底核、白質				事後学修：解剖学用語、生理学用語が多く出るので授業後に復習すること。			0	30	
8	脳神経1（Ⅰ（嗅神経）～Ⅵ（外転神経））				事後学修：解剖学用語、生理学用語が多く出るので授業後に復習すること。			0	30	
9	脳神経2（Ⅶ（顔面神経）～Ⅻ（舌下神経））				事後学修：解剖学用語、生理学用語が多く出るので授業後に復習すること。			0	30	
10	画像診査				事後学修：解剖学用語、生理学用語が多く出るので授業後に復習すること。			0	30	
11	皮膚と粘膜				事後学修：解剖学用語、生理学用語が多く出るので授業後に復習すること。			0	30	
12	感覚系				事後学修：解剖学用語、生理学用語が多く出るので授業後に復習すること。			0	30	
13	内分泌系				事後学修：解剖学用語、生理学用語が多く出るので授業後に復習すること。			0	30	
14	血液1（成分と機能）				事後学修：解剖学用語、生理学用語が多く出るので授業後に復習すること。			0	30	
15	血液2（血液凝固、血液型）				事後学修：解剖学用語、生理学用語が多く出るので授業後に復習すること。			0	30	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『系統解剖学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1』坂井建雄他著、医学書院									
参考文献	『からだが見える 人体の構造と機能』医療情報科学研究所編、メディックメディア									
備考	授業内課題はレポートで評価し、適宜フィードバックする。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFa04				
			●							
科目名	生化学				単位認定者	岩間 正典		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	生化学とは、生命の現象において、科学的に理解・解明をしようとする学問である。本科目では、生体内でのたんぱく質、アミノ酸、酵素、糖質、脂質、核酸等の性質や働き、代謝等を学ぶ。食事で得る栄養が、体内で消化されてから代謝されていくプロセスを含め、生化学的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な栄養素の分類ができる。 2. 酵素の作用について説明できる。 3. 糖質・脂質・アミノ酸の代謝が説明できる。 4. 核酸について説明できる。 									
学修者への期待等	「生化学」は人間の身体について理解する上での基礎となる科目です。8回の授業で広範囲の内容を学ぶことになるので、わからないところは自分で確認し、疑問点は積極的に質問して、きちんと理解するようにしてください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	生化学とは 身体の構成成分、細胞の構造				事後学修：「細胞の構造と機能」について復習すること。			0	30	
2	酵素、補酵素、ビタミン				事後学修：酵素と補酵素、主なビタミン欠乏症について復習すること。			0	30	
3	糖質とは				事後学修：主な糖質の種類について復習すること。			0	30	
4	糖質の代謝				事後学修：糖質の代謝について復習すること。			0	30	
5	脂質とは、脂質の代謝				事後学修：脂質及びその代謝について復習すること。			0	30	
6	タンパク質・アミノ酸とは				事前学修：タンパク質を構成するアミノ酸をその性質で分類できること。授業の最初に理解したことの確認テストをして、それに基づいて授業を進める。（一部反転授業）			60	0	
7	アミノ酸の代謝、窒素源としてのアミノ酸				事後学修：アミノ酸代謝について復習しておくこと。			0	30	
8	核酸・遺伝子について				事後学修：全8回の授業内容をまとめておくこと。			0	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（反転授業）									
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学』畠山鎮次著、医学書院									
参考文献	なし									
備考	授業内課題としてその回のまとめを提示し、次回小テストをする。小テストは次の授業で返却・解説する。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFa05				
			●							
科目名	微生物学				単位認定者	岩間 正典		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
				授業形態	講義	授業時間数	15 時間			
						授業回数	8 回			
授業の概要	微生物学の基本知識を学ぶと共に、多くの病原微生物が宿主・環境とどのように関わり合いながら人に感染症を引き起こすのか、その過程を学修する。病原微生物の種類と特徴、感染に対する生体防御機構、微生物感染のしくみなどについて学ぶ。また、看護職として感染予防の観点からも、正しい知識と合理的な対応、対策を行うための基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主な感染微生物について説明できる。 2. 生体防御機構の概要が説明できる。 3. 主な感染治療薬、ワクチンについて説明できる。 4. 基本的な滅菌・消毒法について説明できる。 									
学修者への期待等	眼に見えない微生物の重要性を十分に理解してもらいたい。授業回数が少ないので、各自で自主的に理解を深める努力をすることを期待します。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	微生物学とは、微生物の分類				事前学修：原核生物と真核生物の違いについて理解しておくこと。			30	0	
2	細菌、ウイルス、真菌の性質				事後学修：細菌、ウイルス、真菌の違いについて復習すること。			0	60	
3	主な細菌感染症				事後学修：主な病原性のグラム陽性菌、グラム陰性菌について復習すること。			0	60	
4	主なウイルス感染症				事前学修：資料をもとに提示したウイルスをDNAウイルスとRNAウイルスに分け、エンベロープの有無も調べておくこと。授業の最初に理解度確認テストを実施し、それをもとに授業を進める。（一部反転授業）			60	0	
5	その他の感染症（原虫、蠕虫、プリオン等）				事後学修：主な病原性真菌、原虫、蠕虫およびプリオン病について復習すること。			0	30	
6	生体防御反応とワクチン				事後学修：生体防御とワクチンについて復習すること。			0	60	
7	抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬				事後学修：授業で取り上げた抗菌薬について復習すること。			0	60	
8	滅菌・消毒法				事後学修：滅菌と消毒について復習すること。			0	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（反転授業）									
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学』南嶋洋一他著、医学書院									
参考文献	なし									
備考	授業内課題としてその回のまとめを提示し、次回小テストをする。小テストは次の授業で返却・解説する。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力
			●		

科目ナンバリング
NSFa06

科目名	栄養学			単位認定者	岩間 正典 高泉 佳苗	評価の方法	試験(筆記)	80 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期		単位数	1 単位	授業内課題	20 %
							授業時間数	15 時間		
				授業形態	講義		授業回数	8 回		
授業の概要	栄養素の種類と働き、エネルギー代謝、食品の成分と栄養素など、栄養学の基礎を理解する。その上で、ライフステージに対応した栄養・食生活、患者の栄養状態の評価判定、栄養管理や食事療法など、看護実践に必要な知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養素の種類と働き、消化・吸収について説明できる。 2. 食事摂取基準、健康な食生活について説明できる。 3. 栄養ケア・マネジメントの概要が説明できる。 4. ライフステージ別、主な病態における栄養について説明できる。 									
学修者への期待等	この授業を通じて、栄養学に興味・関心を持ってもらい、看護に必要な栄養学の知識を身につけてください。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	栄養とは 看護と栄養 栄養素の種類				事前学修：教科書第2章「栄養素」について予習すること。		30	0	岩間 正典	
2	栄養素のはたらき 栄養素の消化と吸収				事前学修：消化器系と消化酵素について予習すること。		30	0	岩間 正典	
3	日本人の食事摂取基準				事前学修：教科書第5章にある「日本人の食事摂取基準」が示す5つの指標について、事前にその意味を理解しておくこと。		30	0	岩間 正典	
4	ライフステージと栄養学(1) 妊娠・授乳期、乳幼児期				事後学修：授業内容の復習を行うこと。		0	30	高泉 佳苗	
5	ライフステージと栄養学(2) 学童期、思春期、成人期、高齢期				事後学修：授業内容の復習を行うこと。		0	30	高泉 佳苗	
6	健康づくりと食生活				事後学修：授業内課題に取り組むこと。		0	60	高泉 佳苗	
7	臨床栄養(1) 栄養状態の評価方法、栄養管理				事後学修：授業内容の復習を行うこと。		0	30	高泉 佳苗	
8	臨床栄養(2) 食事療法				事後学修：授業内容の復習を行うこと。		0	30	高泉 佳苗	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ 反転授業 ）									
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3]栄養学』小野章史他著、医学書院									
参考文献	なし									
備考	第3回は一部反転授業とし、事前学修した内容の理解度確認テスト後、解説を行います。第6回に出題する事後学修の課題は、次回の授業で提出してください。提出された課題は内容を評価して返却します。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

【高泉】管理栄養士として病院に勤務した実務経験(4年)を有する。授業では病院での栄養管理業務の経験を活かした授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力
			●		

科目ナンバリング
NSFb01

科目名	病理学				単位認定者	齋木 由利子		評価の方法	試験(筆記)	85 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内 課題等	12 %
						授業時間数	15 時間		グループ発表	3 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	疾病の要因とその発生機序について、細胞障害と生体障害を中心に学修する。細胞障害では、細胞の萎縮、変性、肥大、壊死とアポトーシス、創傷と治癒等について学ぶ。生体障害では、循環障害、臓器不全、炎症、損傷、免疫異常、アレルギー、内分泌・代謝異常、廃用症候群、老年症候群、遺伝子異常、先天異常、腫瘍、中毒等について学修する。									
到達目標	病気が発生するメカニズムを理解する。									
学修者への期待等	単に教科書の内容を覚えるだけでなく、病気がどのようなメカニズムで発症するのかを考えながら修学し、将来の仕事に活かしてほしい。									
回	授業計画					準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	循環障害、小テスト					事前学修：教科書で心・血管の構造を理解する			30	0
2	炎症、小テスト					事前学修：教科書で炎症にかかわる細胞について理解しておく			30	0
3	免疫と免疫異常、小テスト					事前学修：教科書で血球細胞について理解しておく			30	0
4	感染症、小テスト					事前学修：教科書で病原体について理解しておく			30	0
5	代謝異常・先天異常、小テスト					事前学修：教科書でDNA、遺伝について理解しておく			30	0
6	腫瘍、老化、小テスト					事前学修：教科書で癌の特徴について理解しておく			30	0
7	グループワーク（重要なトピックにつき、グループでまとめ、発表する）					事前学修：第6回までの授業の復習			30	0
8	グループワーク発表会					事前学修：発表準備			30	0
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、発表）									
教科書	『なるほどなっとく病理学plus』小林正伸著、南山堂									
参考文献	なし									
備考	小テストは授業でフィードバックする。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
病理専門医として5年以上の実務経験を活かし、人体の主要な疾患の病態について概説する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFb02					
			●								
科目名	病態治療学 I				単位認定者	田林 暁一		評価の方法	試験(筆記)	100 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位				
						授業時間数	30 時間				
				授業形態	講義	授業回数	15 回				
授業の概要	病態治療学 I～IVでは、看護の基礎として、疾患の成り立ちと各疾患の病態・診断・治療について学修する。本科目では、疾患の診断に必要な臨床検査方法と造血機能障害、免疫機能障害の病態と診断・治療を学ぶ。また、廃用症候群予防、日常生活動作・活動範囲の拡大に向けた援助方法など、リハビリテーションについても理解を深め、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な臨床検査値の評価と疾病の診断に必要な検査方法について説明できる。 2. 放射線診断・治療、手術療法、リハビリテーション、理学療法、作業療法の概要を説明できる。 3. 造血機能障害（血液・造血器の疾患）の病態と診断・治療の概要について説明できる。 4. 免疫機能障害（自己免疫疾患、アレルギー性疾患、免疫低下に関連する疾患）の病態と診断・治療の概要について説明できる。 										
学修者への期待等	さまざまな領域の知識を学び、今後の看護実践に適應できるよう教科書、また配布資料を読んで予習・復習をしてください。										
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員		
1	臨床検査①：検体検査①の実際（臨床検査の基礎、血液学検査、化学検査、免疫血清学検査、尿検査、微生物学的検査）				事前学修：臨床検査の基礎と検体検査について、教科書の該当するページを予習する。 事後学修：配布資料を用いて復習する。		30	60	千葉 美紀子		
2	臨床検査②：検体検査②と生体検査の実際（臨床検査の基礎、輸血検査、病理学的検査、生体機能検査）				事前学修：臨床検査の基礎と生体検査について、教科書の該当するページを予習する。 事後学修：配布資料を用いて復習する。		30	60	千葉 美紀子		
3	放射線医学①：放射線診断（X線撮影、CT、MRI）				事前学修：講義資料をUNIPAで配信するので事前に確認し、理解を深める。 事後学修：授業後には内容の復習、課題への取り組みを行う。		30	30	小山 周樹		
4	放射線医学②：核医学診断・放射線治療				事前学修：講義資料をUNIPAで配信するので事前に確認し、理解を深める。 事後学修：授業後には内容の復習、課題への取り組みを行う。		30	30	小山 周樹		
5	手術療法：手術侵襲と生体反応、創傷の治癒過程等				事前学修：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修：看護における観察・援助の要点を復習する。		30	30	中野 徹		
6	手術療法：麻酔				事前学修：麻酔について、教科書の該当するページを予習する。 事後学修：配付資料を用いて復習する。		30	30	長屋 慶		

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
7	血液成分、血液の流動性	事前学修：血液成分や血液の流動性について、教科書の該当するページを予習する。 事後学修：配布資料を用いて復習する。	20	20	中川 國利
8	出血と止血、出血性疾患と造血器腫瘍	事前学修：出血と止血、出血性疾患と造血器腫瘍について、教科書の該当するページを予習する。 事後学修：配布資料を用いて復習する。	20	20	中川 國利
9	浮腫	事前学修：9回資料を予習する。 事後学修：9回資料を復習する。	30	30	田林 暁一
10	免疫の仕組みと花粉症、食物アレルギー	事前学修：10回資料を予習する。 事後学修：10回資料を復習する。	30	30	田林 暁一
11	自己免疫疾患、川崎病と老化	事前学修：11回資料を予習する。 事後学修：11回資料を復習する。	30	30	田林 暁一
12	リハビリテーション総論	事前学修：リハビリテーションについて、調べ、まとめる。 事後学修：授業内容を整理してまとめる。	30	30	酒井 弘美
13	リハビリテーション：理学療法	事前学修：理学療法について調べ、まとめる。 事後学修：授業内容を整理してまとめる。	30	30	酒井 弘美
14	リハビリテーション：作業療法	事前学修：作業療法について調べ、まとめる。 事後学修：授業内容を整理してまとめる。	30	30	酒井 弘美
15	リハビリテーション：言語療法	事前学修：言語聴覚士の仕事に関する内容について調べる（書籍・インターネットなど）。 事後学修：配布した資料を復習する。	30	30	渡邊 弘人
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ 反転授業 ）				
教科書	『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』池上徹他編、医学書院 『系統看護学講座 別巻 臨床検査』奈良信雄他編、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症』岩田健太郎他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 血液・造血器』飯野京子他著、医学書院				
参考文献	なし				
備考	UNIPA上に送信された資料は各自、コンピュータにダウンロードしてきてください。授業中に施行した小テストは授業中に解答・解説を行います。 第9回～11回は反転授業を行います。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

医師として5年以上の臨床経験があり、それを活かし放射線、麻酔法、血液系、免疫系疾患の病態と治療について講義する。（田林、小山、長屋、中川）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFb03				
			●							
科目名	病態治療学Ⅱ				単位認定者	田林 暁一		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	病態治療学Ⅰ～Ⅳでは、看護の基礎として、疾患の成り立ちと各疾患の病態・診断・治療について学修する。本科目では、循環障害、呼吸器障害、感覚器系機能障害の病態と診断・治療など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	循環器疾患、呼吸器疾患、高血圧・低血圧症、大動脈瘤、感覚器系疾患（視覚障害、鼻・咽頭・喉頭障害、耳・聴覚障害、皮膚障害）の病態と診断・治療について理解できる。									
学修者への期待等	教科書、また講義資料の予習、及び復習をしてください。循環器・呼吸器疾患、血圧疾患、および大動脈疾患では前・前々回の講義内容について復習小テストを実施します。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	先天性心疾患（単純心奇形）の病態と診断・治療				事前学修：1回資料の予習 事後学修：1回資料の復習		30	30	渡辺 卓	
2	先天性心疾患（複雑心奇形）の病態と診断・治療				事前学修：2回資料の予習 事後学修：2回資料の復習		30	30	渡辺 卓	
3	心臓弁膜症の病態と診断・治療				事前学修：3回資料の予習 事後学修：3回資料の復習		30	30	渡辺 卓	
4	虚血性心疾患の病態と診断・治療				事前学修：4回資料の予習 事後学修：4回資料の復習		30	30	渡辺 卓	
5	不整脈（上室性不整脈）の病態と診断・治療				事前学修：5回資料の予習 事後学修：5回資料の復習		30	30	渡辺 卓	
6	不整脈（心室性不整脈）の病態と診断・治療				事前学修：6回資料の予習 事後学修：6回資料の復習		30	30	渡辺 卓	
7	心不全の病態と診断・治療				事前学修：7回資料の予習 事後学修：7回資料の復習		30	30	渡辺 卓	
8	高血圧症、および低血圧症の病態と診断・治療				事前学修：8回資料の予習 事後学修：2回資料の復習		30	30	渡辺 卓	
9	大動脈瘤の病態と診断・治療				事前学修：9回資料の予習 事後学修：9回資料の復習		30	30	渡辺 卓	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
10	肺疾患（肺感染症）の病態と診断・治療	事前学修：10回資料の予習 事後学修：10回資料の復習	30	30	田林 暁一
11	肺疾患（閉塞性・拘束性障害）の病態と診断・治療	事前学修：11回資料の予習 事後学修：11回資料の復習	30	30	田林 暁一
12	肺疾患（肺腫瘍）の病態と診断・治療	事前学修：12回資料の予習 事後学修：12回資料の復習	30	30	田林 暁一
13	視覚障害（白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症）の病態と診断・治療	事前学修：視機能障害と疾患（白内障、緑内障、網膜疾患等）について、教科書を予習 事後学修：講義内容の復習	30	60	布施 昇男
14	鼻・咽頭・喉頭障害（鼻出血、扁桃炎、副鼻腔炎、腫瘍）、耳・聴覚の障害（中耳炎）の病態と診断・治療	事前学修：耳（聴覚含む）、鼻、咽頭、喉頭について教科書の該当ページを予習	30	0	橋本 省
15	皮膚障害（湿疹、アトピー性皮膚炎、蜂窩織炎、腫瘍）病態と診断・治療	事前学修：講義資料の予習 事後学修：講義資料の復習	30	30	高橋 隼也
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ 反転授業 ）				
教科書	『系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論』丸光惠著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器』川村雅文著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器』吉田俊子著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[12] 皮膚』多田弥生著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[13] 眼』大鹿哲郎著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[14] 耳鼻咽喉』小島博己著、医学書院				
参考文献	『標準外科学』北島政樹監、医学書院				
備考	UNIPA上に送信された資料は各自、コンピュータにダウンロードしてきてください。授業中に施行した小テストは授業中に解答・解説を行う。 第10回～12回は反転授業を行う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

医師として5年以上の臨床経験があり、それに基づいて循環、呼吸、眼科、耳鼻科、及び皮膚科疾患の原因、病態、及び治療法について講義する。（田林、渡辺、布施、橋本、高橋）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFb04				
			●							
科目名	病態治療学Ⅲ				単位認定者	湯田 健太郎		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	病態治療学Ⅰ～Ⅳでは、看護の基礎として、疾患の成り立ちと各疾患の病態・診断・治療について学修する。本科目では、栄養の摂取・消化・吸収・代謝機能の障害、内部環境調節機能障害、排泄機能障害、男性生殖器の機能障害の病態と診断・治療など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔の疾患の病態と診断・治療について説明できる。 2. 上部消化管・下部消化管の疾患の病態と診断・治療について説明できる。 3. 肝臓・胆・膵臓の疾患の病態と診断・治療について説明できる。 4. 腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態と診断・治療について説明できる。 5. 内分泌系・代謝異常・体液調節の疾患の病態と診断・治療について説明できる。 6. 泌尿器系・男性生殖器の疾患の病態と診断・治療について説明できる。 									
学修者への期待等	範囲としては広く、覚える事項も多いですが、現場に出た時に出くわすことの多い重要な分野です。よく復習しながら授業に臨んでください。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	口腔疾患、上部消化管疾患（炎症系疾患、潰瘍性疾患）				事後学修：配布資料を復習すること		0	30	湯田 健太郎	
2	上部消化管疾患（腫瘍）、下部消化管疾患（炎症性疾患、イレウス）				事後学修：配布資料を復習すること		0	30	湯田 健太郎	
3	下部消化管疾患（腫瘍）				事後学修：配布資料を復習すること		0	30	湯田 健太郎	
4	肝臓疾患（炎症性疾患、脂肪肝、アルコール性肝炎）				事後学修：配布資料を復習すること		0	30	湯田 健太郎	
5	肝臓疾患（肝硬変、腫瘍）				事後学修：配布資料を復習すること		0	30	湯田 健太郎	
6	胆道系疾患（炎症性疾患、腫瘍、胆石症）				事後学修：配布資料を復習すること		0	30	長谷川 喬彦	
7	膵臓疾患（炎症性疾患、腫瘍）				事後学修：配布資料を復習すること		0	30	長谷川 喬彦	
8	腹壁・腹膜・横隔膜の疾患（腹膜炎、横隔膜ヘルニア、吃逆）				事後学修：配布資料を復習すること		0	30	長谷川 喬彦	
9	内分泌系疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、甲状腺炎、腫瘍）				事後学修：配布資料を復習すること		0	30	長谷川 喬彦	
10	内分泌系疾患（副甲状腺疾患、副腎皮質・髄質疾患、腫瘍）				事後学修：配布資料を復習すること		0	30	長谷川 喬彦	
11	代謝異常の疾患（糖尿病、脂質異常症）				事後学修：配布資料を復習すること		0	30	田子 竜也	
12	体液調節の疾患（水・電解質の異常、酸塩基平衡の異常）				事後学修：配布資料を復習すること		0	30	田子 竜也	
13	泌尿器系疾患（腫瘍、腎・尿路結石、過活動膀胱）				事後学修：配布資料を復習すること		0	30	田子 竜也	
14	泌尿器系疾患（腎不全）				事後学修：配布資料を復習すること		0	30	田子 竜也	
15	男性生殖器系疾患（前立腺炎、前立腺肥大、前立腺癌）				事後学修：配布資料を復習すること		0	30	田子 竜也	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFb06			
			●						
科目名	看護薬理学				単位認定者	木村 勝彦		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	
						授業時間数	30 時間		
				授業形態	講義	授業回数	15 回		
授業の概要	疾病に対する薬物療法、主要な薬物の作用機序とその管理等の知識を学び、薬物の生体内動態、有効性、安全性等、薬理学的知識とその活用を学修する。また、薬の種類及び効果、副作用、与薬方法、管理方法について学び、看護に必要な薬物療法の基礎的知識を学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病に対する薬物療法について看護学生らしく説明できる。 2. 主な薬物の作用機序・治療機序と副作用について説明できる。 3. 薬物の管理について説明できる。 								
学修者への期待等	教科書を必ず読んで受講してください。薬の作用機序は講義を聞かないとなかなか理解できません。わかりやすく説明しますので、まず、薬理学に親しみをもち、好きな教科となるよう期待します。								
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	第1章総論 薬の作用点、薬の生体内運命について説明する。				事前学修：教科書を読んで予習する。 事後学修：配布した参考プリントを活用し、授業内容の理解を高める。			30	30
2	第10章抗炎症薬・鎮痛薬							30	30
3	第11章免疫・アレルギー系疾患治療薬							30	30
4	第15章中枢神経系疾患治療薬 ①統合失調症治療薬、抗うつ薬							30	30
5	第15章中枢神経系疾患治療薬 ②抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬							30	30
6	第2章自律神経に作用する薬 ①交感神経系							30	30
7	第2章自律神経に作用する薬 ②副交感神経系							30	30
8	第3章心臓血管系治療薬							30	30
9	第4章血液・造血器疾患治療薬							30	30
10	第5章消化器系疾患治療薬							30	30
11	第6章呼吸器系疾患治療薬、 第7章腎臓・尿路・生殖器疾患治療薬							30	30
12	第8章ホルモンと関連薬							30	30
13	第9章代謝系疾患治療薬、 第12章骨・関節系疾患							30	30
14	第13章抗感染症薬							30	30
15	第14章抗がん薬							30	30
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ()								
教科書	『看護学テキストNICE 薬理学』萩田喜代一他編、南江堂								
参考文献	『はじめる!つかえる!看護のための薬理学』時政孝行著、南山堂 『薬がみえる vol.1、2、3』医療情報科学研究所編、メディックメディア								
備考									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

薬剤師として30年以上の実務経験があり、それを活かして薬理学的知識とその活用、看護に必要な薬物療法について講義する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa01					
	●		●								
科目名	看護学概論				単位認定者	木下 美佐子		試験（筆記）	50	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	50	%
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間		
				授業回数		15 回					
授業の概要	看護専門職の基盤となる、看護に関する基本的概念、主要な看護理論と歴史の変遷、看護の対象である人間と健康、生活・環境、看護活動の場やその仕組み、看護に関連する法規などを学ぶ。さらに、現代の保健・医療・福祉のシステムを学修する。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の定義や概念、看護に関連する法規について説明できる。 2. 看護の対象である人間の成長発達、健康や生活・環境と看護の関連性について説明できる。 3. 看護の歴史の変遷と看護実践における主要な理論について説明できる。 4. 保健・医療・福祉における看護の特徴と役割について説明できる。 										
学修者への期待等	看護学概論は看護学の導入として専門領域を学ぶ上での土台となる科目です。ポートフォリオ作成や授業内課題を作成・提出し、主体的学習態度を身につけ、看護の基盤となる思考が深まることを期待します。										
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	授業ガイダンス：看護を学ぶことについて				事前学修：看護について考えをまとめておく 事後学修：課題の作成・提出				30	30	
2	看護の誕生と発展				事前学修：教科書①P43～P51予習 事後学修：課題の作成・提出				30	30	
3	日本における看護の変遷				事前学修：教科書①P51～P54予習 事後学修：課題の作成・提出				30	30	
4	看護の対象理解と倫理				事前学修：教科書①P70～P90予習 事後学修：課題の作成・提出				30	30	
5	ライフサイクルと健康				事前学修：教科書①P70～P90予習 事後学修：課題の作成・提出				30	30	
6	看護理論の理解(1)：ナイチンゲール				事前学修：教科書③ナイチンゲール予習 事後学修：課題の作成・提出				30	30	
7	看護理論の理解(2)：ヘンダーソン				事前学修：教科書③ヘンダーソン予習 事後学修：課題の作成・提出				30	30	
8	看護理論の理解(3)：ペプロウ				事前学修：教科書③ペプロウ予習 事後学修：課題の作成・提出				30	30	
9	看護理論の理解(4)：オレム				事前学修：教科書③オレム予習 事後学修：課題の作成・提出				30	30	
10	看護理論の理解(5)：トラベルビー				事前学修：教科書③トラベルビー予習 事後学修：課題の作成・提出				30	30	
11	看護ケアの基本的役割				事前学修：教科書①P184～P204予習 事後学修：課題の作成・提出				30	30	
12	看護に関連する法規				事前学修：教科書②保助看法予習 事後学修：課題の作成・提出				30	30	
13	専門職としての看護と教育				事前学修：教科書①P55～P65予習 事後学修：課題の作成・提出				30	30	
14	保健・医療・福祉のシステムと看護				事前学修：教科書①P236～P274予習 事後学修：課題の作成・提出				30	30	
15	国際看護や災害看護とこれからの看護				事前学修：教科書①P296～P314予習 事後学修：課題の作成・提出				30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、ポートフォリオ作成）										
教科書	<ol style="list-style-type: none"> ①『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学①：看護学概論』志田岐康子他編、メディカ出版 ②『看護職の基本的責務2026年版』手島恵監、日本看護協会出版会 ③『新訂版 実践に生かす看護理論19』城ケ端初子編、サイオ出版 										
参考文献	『看護覚え書一看護であること看護でないこと』ナイチンゲール著、現代社 『看護の基本となるもの』V.ヘンダーソン著、日本看護協会出版会										
備考	第6～10回はグループワークを行う。 科目ポートフォリオを作成し、筆記試験終了時に提出を求める。 授業内課題は、ポートフォリオ(10%)、授業時に指示する課題(40%)で評価し、授業内課題は前回課題を授業内でフィードバックする。 ※この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師と、認定看護管理者としての5年以上の実務経験を活かし、学生が看護に関する基本的概念、看護実践における主要な看護理論について理解が深められるよう授業展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa02				
	●		●							
科目名	看護倫理				単位認定者	木下 美佐子		試験（筆記）	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	看護倫理は、質の高い看護を提供するための指針であり、患者を中心とした、看護における理想的な考え方である。本科目では、看護実践の場で必要な倫理的判断の基盤となる倫理原則や、看護倫理に関する重要な用語等を学ぶ。また、医療現場で生ずる倫理的諸問題についての知識とその解決方法を、具体的事例の検討を通して学修する。									
到達目標	1. 倫理とは何か、価値とはなにかについて説明できる。 2. 倫理原則の意義および問題点について説明できる。 3. 看護倫理に関係する用語について理解する。 4. 看護における倫理の重要性について説明できる。									
学修者への期待等	看護倫理は、看護師のアイデンティティを確認する拠り所となるものです。多様化する社会の中にある倫理的な問題に関心を向け、基礎的な知識が身につくための自発的な学修態度を期待します。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	倫理の基礎：倫理とは、価値とは何か				事前学修：教科書①P2～P16予習 事後学修：課題作成、提出する			30	30	
2	倫理原則の意義と問題点とケアの倫理				事前学修：教科書①P35～P47予習 事後学修：課題作成、提出する			30	30	
3	看護倫理に関係する用語：尊厳、権利、アドボカシー、インフォームド・コンセント、プライバシーと守秘義務等				事前学修：教科書①P49～P127予習 事後学修：課題作成、提出する			30	30	
4	倫理的意思決定のステップとさまざまな視点による事例検討				事前学修：教科書①P135～P142予習 事後学修：課題作成、提出する			30	30	
5	さまざまな看護活動と倫理①：人生の最後を生きる人々への看護と倫理				事前学修：教科書①P145～P153予習 事後学修：課題作成、提出する			30	30	
6	さまざまな看護活動と倫理②：社会的配慮者（認知症・難病・障害者等）への看護と倫理				事前学修：教科書①P199～P220予習 事後学修：課題作成、提出する			30	30	
7	さまざまな看護活動と倫理③：小児看護と倫理、地域看護と倫理				事前学修：教科書①P155～P167予習 事後学修：課題作成、提出する			30	30	
8	看護活動と倫理：看護師の倫理綱領、看護研究における倫理				事前学修：教科書①P223～P247予習 事後学修：課題作成、提出する			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ディスカッション ）									
教科書	①『看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ』小西恵美子編、南江堂 ②『看護職の基本的責務 2026年版』手島恵編、日本看護協会出版会									
参考文献	『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学①：看護学概論』志自岐康子他著、MCメディア出版									
備考	第4回～7回の授業はディスカッションを行います。授業内課題は授業時に指示する課題で評価します。講義の復習として毎回課題提出を求め前回課題のフィードバックを授業内で行います。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師と、認定看護管理者としての5年以上の実務経験を活かし、看護実践における看護倫理について理解が深められるよう授業展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa03			
			●	●	●				
科目名	看護過程論				単位 認定者	木下 美佐子		試験（筆記）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	授業内課題	40 %
					授業形態	講義	授業時間数	30 時間	
				授業回数		15 回			
授業の概要	適切な看護実践のためには、看護を受ける対象のニーズや強みについて、系統的に収集した情報を批判的思考を用いて理解し、実践につなげていくことが重要である。本科目では、基本的欲求に基づくアセスメントから、看護問題を明確にし、看護計画を立案、実施、評価の過程をたどることで、看護実践に用いられる看護過程の意義と方法について学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 対象理解と看護実践の基礎となる看護過程について、V.ヘンダーソンの理論を活用し説明できる。 看護過程の展開に必要な系統的思考プロセスを理解する。 紙上事例の看護問題を明確にすることができる。 看護問題から看護計画を考えることができる。 								
学修者への期待等	看護実践に欠かせない、看護の展開に必要な知識と技術の習得を目指します。看護理論や基礎看護技術と結び付け、看護の対象理解と援助ができる基盤としての思考過程が身につくことを期待します。								
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	看護過程の構成要素、クリティカルシンキング・ポートフォリオの使用について				事前学修：教科書① P18～P35予習 事後学修：課題の作成・提出		30	30	木下 美佐子
2	V.ヘンダーソンの「看護の基本となるもの」と看護過程				事前学修：教科書① P36～P67予習 事後学修：課題の作成・提出		30	30	木下 美佐子
3	アセスメント（情報収集、情報の分類、整理）				事前学修：教科書① P70～P83予習 事後学修：課題の作成・提出		30	60	木下 美佐子
4	アセスメント（情報の分析、解釈）				事前学修：教科書① P84～P103予習 事後学修：課題の作成		30	60	木下 美佐子
5	看護上の問題点（看護問題の明確化・全体像と関連図）				事前学修：教科書① P112～P115予習 事後学修：課題の作成		30	60	木下 美佐子
6	看護上の問題点（看護問題の明確化・看護診断）				事前学修：教科書① P116～P129予習 事後学修：課題の作成		30	60	木下 美佐子
7	事例展開（情報収集～看護上の問題点まで）				事前学修：A事例展開のまとめ 事後学修：課題の作成・提出		60	30	木下 美佐子 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖
8	看護計画（優先順位・目標の設定）				事前学修：教科書① P116～P129予習 事後学修：課題の作成		30	30	木下 美佐子
9	看護計画（具体的援助方法）				事前学修：教科書① P116～P129予習 事後学修：課題の作成		30	30	木下 美佐子
10	事例展開（目標の設定・看護計画の立案）				事前学修：A事例展開のまとめ 事後学修：課題の作成・提出		60	30	木下 美佐子 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
11	看護介入の実施、評価	事前学修：教科書① P116～P129予習 事後学修：課題の作成・提出	30	30	木下 美佐子
12	看護過程と看護記録（SOAP）	事前学修：教科書① P116～P129予習 事後学修：課題の作成	30	30	木下 美佐子
13	事例展開（アセスメント）	事前学修：B事例を展開する 事後学修：B事例を展開する	30	30	木下 美佐子 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖
14	事例展開（看護計画の立案）	事前学修：B事例を展開する 事後学修：B事例を展開する	30	30	
15	看護過程のまとめ	事前学修：B事例を展開する 事後学修：B事例のまとめ	30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、ポートフォリオ、プレゼンテーション）				
教科書	①『看護がみえる4 看護過程の展開』医療情報科学研究所編、メディックメディア ②『ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術I』松尾ミヨ子他編、メディカ出版				
参考文献	『看護の基本となるもの』ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯楨ます他訳、日本看護協会出版会				
備考	第7、10、13～14回の授業は事例を用いたグループワーク、15回はプレゼンテーションを行う。 科目ポートフォリオを作成し筆記試験終了時に提出。 授業内課題は、授業内で提示した課題と展開事例の提出を求め、授業内で前回課題のフィードバックを行う。 ポートフォリオ10%、課題30%で評価する。 ※この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師と、認定看護管理者としての5年以上の実務経験を活かし、看護実践における看護過程展開について理解が深められるよう授業展開する。（木下）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa04				
			●							
科目名	基礎看護技術 I				単位認定者	竹田 理恵 二口 尚美		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	看護実践に必要な共通看護技術の修得を目指す。具体的には、コミュニケーション、感染防止、安全確保、学習支援などを学び、科学的根拠に基づく看護の実践に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術に共通する考え方について説明できる。 2. 看護における関係形成・対人技法の基本を理解して、良好なコミュニケーションを図る方法を説明できる。 3. 感染予防のための基本について理解し、演習を通して正しい方法で実施できる。 4. 医療における安全確保の技術を理解し、説明できる。 5. 看護における学習支援について説明できる。 6. 看護技術向上のために、自己目標を立てて臨み振り返りができる。 									
学修者への期待等	教科書の該当箇所を必ず予習すること。「看護技術とは何か」「看護とは何か」「なぜそうするのか/なぜそうしてはいけないのか(根拠)」など常に考えながら、講義・演習に臨んで欲しい。特に演習では、学内の「医療施設」に入る気持ちで臨んでほしい。さらに、確実に理解・習得して次に学ぶ技術と統合して実践できるよう心掛けてほしい。									
回	授業計画・学修の主題			準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員		
1	看護技術を学ぶ(看護技術とは何か、看護技術の根拠をなすものとは何か)			事前学修:教科書①序章を読む		30	0	木下 美佐子		
2	看護におけるコミュニケーション			事前学修:教科書①第1部、教科書②第1部2章3を読む 事後学修:確認テストに取り組む		30	30	竹田 理恵		
3	感染防止の技術 I (基礎知識、標準予防策、感染経路別予防策、感染管理)			事前学修:教科書②第1部4章を読み配布課題レポートに取り組む 事後学修:確認テストに取り組む		30	30	二口 尚美		
4	感染防止の技術の基礎(スタンダードプリコーションの実際)			事後学修:課題に取り組み提出する		0	30	二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖		
5	感染防止の技術 II (洗浄・消毒・滅菌、無菌操作、感染性廃棄物の取り扱い)			事前学修:教科書②第1部4章を読み配布課題レポートに取り組む 事後学修:確認テストに取り組む		30	30	二口 尚美		
6	感染防止の技術の実際(無菌操作・感染性廃棄物の取り扱いの実際)			事後学修:課題レポートに取り組み提出する		0	30	二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖		
7	安全確保の技術(医療事故防止、針刺し防止策)			事前学修:教科書②第1部3章を読む 事後学修:確認テストに取り組む		30	30	竹田 理恵		

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	看護における学習支援	事前学修：教科書① 第1部1章5と6を読む 事後学修：確認テストに取り組む	30	30	竹田 理恵
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ 演習 ）				
教科書	①『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版				
参考文献	必要時授業内で提示する				
備考	*非常勤助手：高栖希美子、浜野圭、他1名 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。(第4,6回) *授業内課題は、レポート(10%)、学習カード(10%)、確認テスト(10%)等で評価し、授業内で総括してフィードバックする。 *この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、看護師として5年以上の実務経験を有し、学生が科学的根拠に基づく看護の実践に必要な基礎的知識について理解を深め、看護技術を修得し看護実践能力の基盤をつくることのできるよう、実践的な授業を行います。(竹田)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング						
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa05						
			●									
科目名	基礎看護技術Ⅱ				単位認定者	竹田 理恵		試験(筆記)	50 %			
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	試験(実技)	20 %		
						授業時間数	60 時間		授業内課題	30 %		
				授業形態	演習	授業回数	30 回					
授業の概要	看護実践の基礎となる基本的な日常生活援助技術の修得を目指す。具体的には、生活環境、活動と休息、清潔と衣生活、食事と排泄を整える知識と技術を学ぶ。また、リスクマネジメント・安全確保等の知識と技術についても併せて学修し、科学的根拠に基づく看護の基礎的知識と実践能力を演習を通して身につける。											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境調整に関する看護上の意義を理解し、環境調整に関連した技術を修得する。 2. 活動と休息に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 3. 清潔と衣生活に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 4. 食事に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 5. 排泄に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 6. 看護技術向上のために、自己目標を立てて臨み、演習後は振り返りができる。 											
学修者への期待等	身だしなみを整える、時間やルールを守る、事前・事後学修を主体的に行う、グループメンバーと協力するなど、授業をとおして看護学生として必要な態度を身につけることを期待しています。演習には指定のユニフォーム、シューズ、ナースウォッチ、クリップボード、メモ帳、ヘアゴム(必要時)等が必要です。											
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員			
1	環境調整：援助の基礎知識				事前学修：教科書② 第1部1章・2章を読む		30	30	佐藤 由記子			
2	環境調整：援助の方法 (ベッドメイキング ベッド周囲の環境整備)				事後学修：確認テストに取り組む		30	30	佐藤 由記子			
3	環境調整の実際「ベッドメイキング① デモンストレーション・実習室ガイダンス」：グループワーク				事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む 事後学修：事後課題に取り組む提出する		30	30	佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖			
4	環境調整の実際「ベッドメイキング② ベッドメイキングの実施方法」：グループワーク						30	0				
5	環境調整の実際「ベッドメイキング③ リネン類の交換、シーツ交換」：グループワーク						0	30				
6	環境調整の実際「ベッド周囲の環境整備① デモンストレーション、基本的な方法」：グループワーク				事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む 事後学修：事後課題に取り組む提出する		30	0				
7	環境調整の実際「ベッド周囲の環境整備② 事例検討」：グループワーク						0	30				
8	活動・休息：基本的活動の援助				事前学修：教科書② 第2部7章を読む 事後学修：確認テストに取り組む		60	30			佐藤 清湖	
9	活動・休息：睡眠・休息の援助				事前学修：教科書② 第2部8章を読む 事後学修：確認テストに取り組む		60	30			佐藤 清湖	
10	活動・休息の援助の実際「体位変換・歩行介助」：グループワーク				事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む 事後学修：事後課題に取り組む提出する		30	0	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子			
11	活動・休息の援助の実際「移乗・移送」：グループワーク						0	30				

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
12	清潔・衣生活：援助の基礎知識	事前学修：教科書② 第2部9章を読む	60	0	竹田 理恵
13	清潔・衣生活：援助の方法 (手浴 足浴とフットケア 陰部洗浄)	事後学修：確認テ ストに取り組む	0	30	竹田 理恵
14	清潔・衣生活の援助の実際「足浴とフットケア」： グループワーク	事前学修：講義で学 修した内容を復習 し、事前課題に取り 組む 事後学修：事後課題 に取り組む提出する	30	30	竹田 理恵 佐藤 由記子 二口 尚美 佐藤 清湖
15	清潔・衣生活：病床での衣生活の援助	事前学修：教科書② 第2部9章を読む 事後学修：確認テ ストに取り組む	30	30	佐藤 清湖
16	清潔・衣生活の援助の実際「病衣・寝衣の交換」： グループワーク	事前学修：講義で学 修した内容を復習 し、事前課題に取り 組む 事後学修：事後課題 に取り組む提出する	30	30	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子
17	清潔・衣生活：援助の方法（口腔ケア）	事前学修：教科書② 第2部9章を読む 事後学修：確認テ ストに取り組む	30	30	佐藤 由記子
18	清潔・衣生活：援助の方法 (入浴 シャワー浴 全身清拭)	事前学修：教科書② 第2部9章を読む 事後学修：確認テ ストに取り組む	30	30	佐藤 由記子
19	清潔・衣生活の援助の実際「全身清拭① デモン ストレーション・使用物品の使い方」：グループワ ーク	事前学修：講義で学 修した内容を復習 し、事前課題に取り 組む	30	0	佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美
20	清潔・衣生活の援助の実際「全身清拭② 全身清拭 の実施方法」：グループワーク	事後学修：事後課題 に取り組む提出する	0	30	佐藤 清湖
21	清潔・衣生活：援助の方法（洗髪 整容）	事前学修：教科書② 第2部9章を読む 事後学修：確認テ ストに取り組む	30	30	竹田 理恵
22	清潔・衣生活の援助の実際「洗髪① デモン ストレーション・使用物品の使い方」：グループワ ーク	事前学修：講義で学 修した内容を復習 し、事前課題に取り 組む	30	0	竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 由記子
23	清潔・衣生活の援助の実際「洗髪② 洗髪の実施 方法」：グループワーク	事後学修：事後課題 に取り組む提出する	0	30	佐藤 清湖
24	食事：援助の基礎知識 食事摂取の介助	事前学修：教科書② 第2部5章を読む	60	0	佐藤 由記子
25	食事：摂食・嚥下訓練 非経口的栄養摂取の援助	事後学修：確認テ ストに取り組む	0	30	佐藤 由記子
26	食事の援助の実際「食事摂取の介助」：グルー プワーク	事前学修：講義で学 修した内容を復習 し、事前課題に取り 組む 事後学修：事後課題 に取り組む提出する	30	30	佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖
27	排泄：自然排尿および自然排便の基礎知識	事前学修：教科書② 第2部6章を読む	60	0	竹田 理恵
28	排泄：自然排尿および自然排便の介助の方法（お むつによる排泄援助）	事後学修：確認テ ストに取り組む	0	30	竹田 理恵

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
29	排泄の援助の実際「床上排泄援助」：グループワーク	事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む 事後学修：事後課題に取り組み提出する	30	0	竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 由記子 佐藤 清湖
30	排泄の援助の実際「おむつによる排泄援助」：グループワーク		0	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ 演習、グループワーク ）				
教科書	①『ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナースング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版				
参考文献	『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア				
備考	*非常勤助手：高栖希美子、浜野圭、他1名 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。(第3, 4, 5, 6, 7, 10, 11, 14, 16, 19, 20, 22, 23, 26, 29, 30回) *授業内課題は、演習レポート課題(25%)、確認テスト(5%)で評価し、授業内で総括してフィードバックする。 *この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、看護師として5年以上の実務経験を有し、学生が日常生活援助技術の基礎的知識について理解を深め、科学的根拠に基づく看護実践能力を修得できるよう、実践的な授業を行います。(竹田)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa06				
			●		●					
科目名	基礎看護技術Ⅲ				単位認定者	二口 尚美		評価の方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		試験（技術）	20 %
						授業時間数	30 時間		授業内課題	30 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	看護実践の基礎となるヘルスアセスメント技術の修得を目指す。具体的には、バイタルサイン測定やフィジカルアセスメント等の知識と技術を学ぶ。ヘルスアセスメントの意義、バイタルサイン測定、フィジカルアセスメントといった症状・生体機能管理技術を学ぶことにより、科学的根拠に基づく看護の基礎的技術を身につける。									
到達目標	1.ヘルスアセスメントに必要なバイタルサイン測定、フィジカルアセスメントの技術を理解し、実施できる。 2.看護技術の向上に向けて、振り返りや自己のもつ課題、改善課題を説明できる能力を身につける。									
学修者への期待等	解剖生理学知識と五感を活用して授業を展開する。正確・安全・安楽に実施できる技術を修得してほしい。事前課題に取り組んで参加すること。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	ヘルスアセスメント				事前学修：テキストP 事後学修：メルクマールの確認方法		30	30	二口 尚美	
2	フィジカルアセスメント バイタルサインの観察とアセスメント				事前学修：呼吸器・循環器の解剖学復習 事後学修：上肢の血管と神経系の走行、器具の使い方（課題用紙あり）		30	60	二口 尚美	
3	バイタルサイン測定① 血圧計、体温計、聴診器の使い方：実技、グループワーク				事前学修：バイタルサインの正しい測定方法 事後学修：バイタルサイン測定方法の各項目の自己課題実施		30	30	二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖	
4	バイタルサイン測定② 血圧測定：実技、グループワーク				事前学修：単位の読み方 事後学修：一連のバイタルサイン測定の安全で適切な実施のための根拠と留意点		30	60		
5	バイタルサイン測定③ 体温、脈拍、呼吸の測定：実技、グループワーク				事前学修：経過表読み方 事後学修：安全で円滑なバイタルサイン測定実施のための練習		30	60		
6	バイタルサイン測定④ 正確な測定の方法と一連の技術実施、アセスメント：実技、グループワーク				事前学修：経過表の記載方法 事後学修：適切で安全な実施方法の練習		30	30		
7	計測の実際：グループワーク				事前学修：身体計測の内容目的留意事項 事後学習：身体計測の目的と方法		30	30		

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“腹部、感覚器”	事前学修：腹部臓器、感覚器の解剖生理学復習 事後学修：アセスメントと解剖生理学	30	30	佐藤 清湖
9	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“筋・骨格系、神経系”	事前学修：関節・筋、脳神経の解剖生理学 事後学修：アセスメントと解剖生理学	30	30	佐藤 清湖
10	フィジカルアセスメント① 腹部、筋・骨格系、感覚器、神経系：実技、グループワーク	事前学修：腹部、筋力、関節、反射等のアセスメント 事後学修：各視診・聴診・触診方法と評価	30	30	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子
11	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“呼吸器”	事前学修：呼吸器の解剖生理学復習 事後学修：アセスメントと解剖生理学	30	30	二口 尚美
12	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“循環器”	事前学修：循環器の解剖生理学復習 心不全 事後学修：アセスメントと解剖生理学	30	30	二口 尚美
13	フィジカルアセスメント② 呼吸器系、循環器系：実技、グループワーク	事前学修：心不全のフィジカルアセスメント 事後学修：聴診音	30	30	二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖
14	心理・社会状態のアセスメント	事前学修：ストレスコーピング、自己知覚等のアセスメント方法 事後学修：事例に応じたヘルスアセスメント	30	30	佐藤 清湖
15	ヘルスアセスメントの実際：グループワーク	事前学修：グループワークへの取り組み課題（課題用紙あり） 事後学修：グループワークの振り返り	30	30	二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ 実技、グループワーク ）				
教科書	①『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント』医療情報科学研究所編、メディックメディア				
参考文献	『フィジカルアセスメントと画像の図鑑』後藤順一他編、南江堂 『はじめてのフィジカルアセスメント』横山美樹著、メジカルフレンド社 『解剖生理学ワークブック<2026年版>』坂井建雄他著、医学書院				
備考	*非常勤助手：高栖希美子、橋本久子、浜野圭 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。（第3,4,5,6,7,10,13,15回） *基礎看護学実習室のほか、シミュレーションセンターを活用する。 *授業内課題はレポート（10%）、確認テスト（10%）、学習カード（10%）で評価し、授業の中でフィードバックする。 *この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

消化器・血液内科で10年の実務経験と看護師資格を有しており、その経験を活かした実践的な授業を行います。
(二口)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa07				
			●		●					
科目名	基礎看護技術Ⅳ				単位認定者	佐藤 由記子 佐藤 清湖		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	診療に伴う看護実践に必要な基礎的技術の修得を目指す。具体的には排泄援助技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬の技術、症状・生体機能管理技術(採血・検体検査)を学ぶ。また、状況設定場面に応じた診療援助技術についての演習を通して実践能力を身につける。									
到達目標	1. 診療の補助技術として排泄援助技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬の技術、症状・生体機能管理技術を理解し、実施できる。 2. 看護技術の向上に向けて、振り返りや自己のもつ課題、改善課題を説明できる能力を身につける。									
学修者への期待等	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲはもちろんのこと、人体構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの知識を必要とする科目であり、講義・演習前後の学修が不可欠です。事前・事後課題に取り組むほかに、自己学修・自己練習を行い、知識・技術を身につけてください。効果的な演習とするために、主体的に行動し、グループメンバーと協力しながら取り組みましょう。									
回	授業計画				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	排泄援助技術 「自然排尿ができない場合・医療上の処置(一時的導尿・持続的導尿)」				事前学修：教科書②第2部6章を読む 事後学修：確認テストに取り組む		30	30	竹田 理恵	
2	排泄援助技術 「自然排便ができない場合・医療上の処置(浣腸・摘便・ストーマケア)」				事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む 事後学修：事後課題に取り組む		30	30	竹田 理恵	
3	排泄援助技術の実際 「持続的導尿(処置)」：グループワーク				事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む 事後学修：事後課題に取り組む		30	0	竹田 理恵 二口 尚美	
4	排泄援助技術の実際 「持続的導尿(患者の観察)」：グループワーク				事後学修：事後課題に取り組む		0	30	佐藤 由記子 佐藤 清湖	
5	呼吸・循環を整える技術 「体温管理の技術、罨法、末梢循環促進ケア」				事前学修：教科書②第3部11章を読む 事後学修：確認テストに取り組む		30	30	佐藤 清湖	
6	呼吸・循環を整える技術 「酸素療法、排痰ケア」				事前学修：教科書②第3部10章を読む 事後学修：確認テストに取り組む		30	30	佐藤 清湖	
7	呼吸・循環を整える技術の実際 「酸素療法、口腔・鼻腔内吸引」：グループワーク				事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む 事後学修：事後課題に取り組む		30	30	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子	
8	創傷管理技術 「創傷管理、創傷処置」				事前学修：教科書②第4部12章を読む 事後学修：確認テストに取り組む		30	0	佐藤 由記子	
9	創傷管理技術 「褥瘡予防」						30	30	佐藤 由記子	
10	創傷管理技術の実際 「創傷の観察と創処置」：グループワーク				事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む 事後学修：事後課題に取り組む		30	0	佐藤 由記子 二口 尚美 竹田 理恵	
11	創傷管理技術の実際 「体圧分散、体位変換、包帯法」：グループワーク				事後学修：事後課題に取り組む		0	30	佐藤 清湖	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
12	与薬の技術 「与薬の基礎知識、経口与薬」	事前学修：教科書② 第4部13章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	30	0	佐藤 由記子
13	与薬の技術 「吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬」	事前学修：教科書② 第4部13章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	30	30	佐藤 由記子
14	与薬の技術 「注射の基礎知識／針刺し防止策」	事前学修：教科書② 第4部13章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	30	30	佐藤 清湖
15	注射の準備の実際 「注射針と注射筒の取り扱い」：グループワーク	事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む	30	0	佐藤 清湖 二口 尚美
16	注射の準備の実際 「薬液の取り扱い」：グループワーク	事後学修：事後課題に取り組み提出する	0	30	竹田 理恵 佐藤 由記子
17	与薬の技術 「注射の実施法（皮下注射・皮内注射・筋肉内注射）」	事前学修：教科書② 第4部13章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	30	30	佐藤 清湖
18	筋肉内注射の実際：グループワーク	事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む	30	0	佐藤 清湖 二口 尚美
19	筋肉内注射の実際（患者の観察）：グループワーク	事後学修：事後課題に取り組み提出する	0	30	竹田 理恵 佐藤 由記子
20	与薬の技術 「静脈内注射（ワンショット、点滴静脈内注射）」	事前学修：教科書② 第4部13章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	30	30	佐藤 由記子
21	点滴静脈内注射の実際：グループワーク	事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む	30	0	佐藤 由記子 二口 尚美
22	点滴静脈内注射の実際（患者の観察）：グループワーク	事後学修：事後課題に取り組み提出する	0	30	竹田 理恵 佐藤 清湖
23	与薬の技術 「中心静脈カテーテル留置の管理、輸血管理」	事前学修：教科書② 第4部13章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	30	30	二口 尚美
24	症状・生体機能管理技術 「血液検査（静脈血採血、動脈血採血、血糖測定）」	事前学修：教科書② 第4部14章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	30	30	二口 尚美
25	静脈血採血の実際：グループワーク	事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む	30	0	二口 尚美 竹田 理恵
26	静脈血採血の実際（検体の取り扱い、患者の観察）：グループワーク	事後学修：事後課題に取り組み提出する	0	30	佐藤 由記子 佐藤 清湖
27	症状・生体機能管理技術 「検体検査（尿・便・喀痰検査）、生体情報のモニタリング（心電図検査、心電図モニター、血管留置カテーテルモニター）」	事前学修：教科書② 第4部14章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	30	0	二口 尚美
28	診察・検査・処置における技術 「診察の介助、検査・処置の介助」	事前学修：教科書② 第4部14章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	0	30	二口 尚美

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
29	状況設定場面に応じた診療援助技術（排泄、酸素療法、与薬、検査等）の実際1：グループワーク、ディスカッション	事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む 事後学修：事後課題に取り組み提出する	30	30	佐藤 由記子 佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵
30	状況設定場面に応じた診療援助技術（排泄、酸素療法、与薬、検査等）の実際2：プレゼンテーション、ディスカッション		0	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、演習、ディスカッション、プレゼンテーション）				
教科書	①『ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナースング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版				
参考文献	『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア				
備考	*非常勤助手：高栖希美子、浜野圭、他1名 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。（第3, 4, 7, 10, 11, 15, 16, 18, 19, 21, 22, 25, 26, 29, 30回） *授業内課題は、確認テスト（15%）、演習レポート課題（25%）で評価し、次回授業時等にフィードバックする。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、看護師資格を有し、臨床の看護師としての5年以上の実務経験を活かして学生が診療援助技術を理解し、技術を修得できるよう、実践的な視点を踏まえて指導します。（佐藤清）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMc01				
	●		●							
科目名	成人看護学概論				単位認定者	佐藤 富美子		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	看護学における成人期は、心身が成熟した時から老いが始まるまでの期間であり、人生の中で最も長い時期として過ごすことになる。本科目では、成人看護学の理念、成人期の発達段階の特徴、成人の生活を理解し、成人における健康の保持増進や疾病の予防、生活習慣・ストレスに関連する健康課題について学修し、成人看護学に関する基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学の理念及び成人期の発達段階の特徴、成人の生活と健康について説明できる。 2. 成人期における健康の保持増進や疾病の予防、生活習慣・ストレスに関連する健康課題について説明できる。 3. 成人看護学に活用できる理論について説明できる。 									
学修者への期待等	今後、成人看護学を学ぶ上での基礎となる科目です。毎回の授業内容をあらかじめ定めているので、授業に臨む前に必ず教科書、UNIPAの配布資料を読んでおくこと。グループワーク前の課題にはしっかり取り組み、自分の考えを積極的に発言すること。授業後には授業であげたトピックに関する文献を検索、読み込んで理解を深めること。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	成人看護学の理念				事前学修：教科書①第I章、UNIPA配布資料を読んで予習する 事後学修：教科書・配布資料で復習する				30	30
2	成人期にある人の成長・発達① 発達における文化と統合 成人期の特徴				事前学修：教科書①第1章、UNIPA配布資料を読んで予習する 事後学修：教科書・配布資料で復習する				30	30
3	成人期にある人の成長・発達② 青年期の身体的・心理社会的特徴				事前学修：青年期の身体的・心理社会的特徴についてレポートし、グループワークの準備をする 事後学修：教科書・配布資料で復習する				90	30
4	成人期にある人の成長・発達③ 壮年期・向老期の身体的・心理社会的特徴				事前学修：壮年期・向老期の身体的・心理社会的特徴についてレポートし、グループワークの準備をする 事後学修：教科書・配布資料で復習する				90	30
5	成人の生活と健康① 生活と健康 成人各期の健康課題と健康な生活の目標				事前学修：教科書①第2章、教科書②(死因・有病率)、UNIPA配布資料を読んで予習する 事後学修：教科書・配布資料で復習する				30	30
6	成人の生活と健康② 生活習慣病の動向と対策				事前学修：教科書①第2章、教科書②(健康日本21など)、UNIPA配布資料を読んで予習する 事後学修：教科書・配布資料で復習する				30	30
7	成人保健の動向と健康問題の予防および保健対策				事前学修：教科書①第3章、教科書②(健康日本21など)、UNIPA配布資料を読んで予習する 事後学修：教科書・配布資料で復習する				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
8	成人看護学に活用できる理論 ストレス理論 危機理論 健康信念モデル 変化のステージモデルなど	事前学修：基礎看護学の「看護学概論」 で学修した看護理論およびUNIPA配布資料 を読んで予習する 事後学修：教科書・配布資料で復習する	60	30
アクティブ・ ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）			
教科書	①『成人看護学』黒田裕子編、医学書院 ②『国民衛生の動向 2026/2027』厚生労働統計協会著、厚生労働統計協会			
参考文献	授業内で随時紹介する			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題は「成人期の身体的・心理社会的特徴」についてレポートで評価し、各自にコメントしてフィードバックする。なお、この授業内課題は第3回、第4回の授業やグループワークに活かすための事前準備でもあり、授業・グループワークの内容も含めて提出してもらおう。 ・授業に関する質問は主に各授業終了時に提出するミニットペーパーで確認し、次回授業内でフィードバックする。 			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師としての5年間の臨床における実務経験を活かして、成人期の発達課題、生活と健康について理解を深められるよう授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMi05				
	●	●		●						
科目名	スタートアップセミナー				単位認定者	桑田 恵美子		試験 (レポート)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	50 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	初年次教育科目として、大学における学修に必要な基礎の修得を目指す。大学生活における時間管理や学修習慣等を身につけ、学ぶことの目的や目標を明確にする。自ら学修するための文献・資料収集方法、web検索方法、レポートやプレゼンテーション資料作成方法等、大学生としての学びに欠かすことのできないスキルを学修する。また、グループワーク等の演習を通じて、意欲と探究心を高め、協調性や自主性の伸長も目指す。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学生活における時間管理や学修習慣等を身につけ、学ぶことの目的や目標を明確にできる。 2. 自ら学修するための文献・資料収集方法、web検索方法、レポートやプレゼンテーション、資料作成方法等、大学生としての学びに欠かすことのできないスキルを理解できる。 3. グループワークを通じて、意欲と探究心を高め、協調性や自主性を高める態度を養う。 4. 自分自身の未来に向けてキャリアを積んでいく態度を養う。 									
学修者への期待等	大学での学びは、高校までの学びと異なり、一定の知識を獲得するだけではなく、あなたの未来に向けて、自ら学び方を学び、新しい知識を吸収し、疑問を持ち、自分の力でその問題を解き明かす。そして、他者からの批判を受け入れ、自分の考え方を磨いていくプロセスです。自分自身の未来に向けてキャリアを積んでいく学び方の基礎を身につけましょう。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	大学で学ぶとは 教育理念・目標 カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー						0	0	桑田 恵美子	
2	- スタディ・スキル1 - 教養科目・専門基礎科目・専門科目 カリキュラムツリー						0	0	二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖	
3	- スタディ・スキル2 - PCを使用する大学の講義・遠隔授業						0	0		
4	- スタディ・スキル3 - 図書館の利用法、文献・資料収集、Web検索方法				事後学修：授業内の 学びの提出		0	30		
5	- スチューデント・スキル1 - 学生生活、学生支援体制						0	0		
6	- スチューデント・スキル2 - 健康管理				事後学修：授業内の 学びの提出		0	30		
7	- スチューデント・スキル3 - こころの健康・ストレス対処スキル				事前学修：事前に UNIPA上に資料をアップ するので、資料を 読んで対人関係のスキ ルについて学修し ておくこと。 事後学修：レスポ ンスシートを提出す ること。		30	30	真覚 健	
8	- スチューデント・スキル4 - 対人関係スキル・伝える・聴く・関わる				事前学修：事前に UNIPA上に資料をアップ するので、資料を 読んでストレスにつ いて学修しておくこ と。 事後学修：レスポ ンスシートを提出す ること。		30	30	真覚 健	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
9	- スタディ・スキル4 - 効果的な学習の方法	事後学修：授業内の 学びの提出	0	30	二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖
10	- スタディ・スキル5 - プレゼンテーションスキル	事後学修：授業内の 学びの提出	0	30	
11	- スタディ・スキル6 - 仲間と学ぶ、チームの一員としての役割 (グループワーク)	事後学修：授業内の 学びの提出	0	30	
12	- スタディ・スキル7 - ディスカッション・スキル				
13	看護のキャリアとキャリア・デザイン	事後学修：授業内課 題「自分を分析して みよう」をまとめる	0	60	桑田 恵美子
14	将来の職業生活・進路選択	事後学修：授業内課 題「理想の看護師像 とキャリアデザイン」	0	60	桑田 恵美子
15	目指す看護師像・多職種連携における看護職の役割	事後学修：レポート 課題「私の理想の看 護師像と今後のキャ リアデザインを考察 する」	0	90	桑田 恵美子
アクティブ・ ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション、課題解決）				
教科書	適時、資料を配付する。				
参考文献	『看護学生のためのよくわかる大学での学び』前原澄子他著、金芳堂				
備考	* 第9回目はSAを活用して「効果的な学習方法」を学ぶ内容とする。 * 第10回目は入学前教育課題「読書感想文」をもとに各自がまとめた内容をプレゼンテーションする。 * 第11・12回目はグループワーク、ディスカッションを通してグループで課題解決する内容とする。 * 授業内課題は、各回の「授業内の学び」で評価し、次回授業時にフィードバックする。 * レポート課題「私の理想の看護職像と今後のキャリアデザインを考察する」				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMj01				
	●	●	●	●	●					
科目名	基礎看護学実習 I				単位 認定者	木下 美佐子		認知領域 (知識)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の 方法	精神運動領域 (技術)	20 %
						授業時間数	40 時間		情意領域 (態度)	30 %
				授業形態	実習	授業回数	集中			
授業の概要	病院や地域における看護実践活動を見学し、看護の対象としての人間と看護の場、看護の役割や機能の実際について理解を深める。また、各健康段階にある生活者とコミュニケーションをとり、看護の対象としての人について身体的・心理的・社会的・文化的側面を理解し、看護実践能力の基盤を修得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康生活を支える活動の場（施設・病院）の環境を知ることができる。 2. 利用者・患者の思いに関心を向け、対象理解をすると共に、人間関係構築の重要性がわかる。 3. 看護実践活動を見学し、看護がどのように実践されているのかがわかる。 4. 看護学生として責任ある態度で行動し、自己の課題がわかる。 									
学修者への期待等	臨地での見学や体験を通して、看護の対象を理解し、看護の魅力や難しさ等を発見して、自身が看護を学ぶ動機を明確にし、学修意欲つながることを期待する。									
授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
I. 実習期間 1週間 II. 実習施設 病院 老人福祉センター III. 実習計画 1. 学内 1) オリエンテーションで実習の全体を把握し、事前学修を行う。 2. 病院 1) 患者1名を受け持ち、患者の療養生活の見学やコミュニケーションを通して学ぶ。 2) 看護師の行う援助を見学し、看護の役割や機能について学ぶ。 3) 毎日のカンファレンスを通して、学修内容の共有と整理・理解を深める。 3. 老人福祉センター 1) 利用者とのコミュニケーションを通して健康を支える活動について理解を深める。 2) 活動の場の環境を知ることができる。 4. 実習のまとめ 1) 実習で学んだことをまとめ、振り返りを通して看護の対象、役割や機能について理解を深める。					事前学修：実習の事前学習では、実習上で必要な基礎的な看護技術としての手指衛生、標準予防策に基づく個人防護具の着脱、コミュニケーション技術、環境整備、ベッドメイキング、配膳について授業内容を復習してから実習に臨むこと。 ・学生オリエンテーション、実習記録の配布時間を別途開講するので必ず参加し、実習準備を整えること。 事後学修：実習終了後は実習振り返り時間を設けるので、必ず参加し、実習での学びを確認すること。			90	60	
教科書	①『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術 I』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 II』松尾ミヨ子他編、メディカ出版									
参考文献	『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア その他オリエンテーションおよび実習中に適宜提示する									
備考	*ルーブリック評価表を用いて、認知、精神運動、情意領域を評価する。 担当：木下美佐子、阿部春美、岡崎優子、菅原尚美、二口尚美、竹田理恵、伊藤茉莉子、佐藤由記子、遠藤美穂子、岡崎草代夏、東海林美幸、泉田さとみ、佐藤清湖、小倉真紀、遠藤理加、非常勤助手：江口美知子、橋本久子、浜野圭、横尾みどり ※この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師、認定看護管理者としての5年以上の実務経験を活かし、看護が実感できる実習展開をする。(木下)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMJ02				
	●	●	●	●	●					
科目名	基礎看護学実習Ⅱ				単位認定者	木下 美佐子		認知領域 (知識)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	精神運動領域 (技術)	20 %
					授業形態	実習	授業時間数		80 時間	情意領域 (態度)
							授業回数		集中	
授業の概要	患者の療養環境を理解し、健康問題を持つ対象理解に向けた情報を収集した上で、日常生活における問題を論理的に捉え援助することを学ぶ。また、対象者のニーズを捉え、情報の持つ意味を考えた看護計画を立案し、適切な看護が実践できるための基礎的な知識・技術・態度を修得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患者の情報を収集・把握してアセスメントができる。 2. 受け持ち患者の看護計画が立案できる。 3. 受け持ち患者の看護計画に沿って、援助できる。 4. 看護過程の重要性が理解できる。 5. 看護学生として責任ある態度で行動できる。 									
学修者への期待等	学内で学んだ看護学概論、看護倫理、基礎看護技術Ⅰ～Ⅳ、看護過程および基礎看護学実習Ⅰでの学びを振り返り、患者理解が深まる積極的な姿勢で、実習に臨むことを期待する。									
授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
I. 実習期間 2週間 II. 実習施設 病院 III. 実習計画 1. 学内 1) オリエンテーションで実習の全体を把握する。 2) 事前学修、技術の再確認を行う。 3) 受け持ち患者の看護過程に関するカンファレンスを行う。 4) 実習の振り返りを行う。 2. 病院 1) 患者1名を受け持ち、看護過程を展開する。 2) 看護過程の展開を通し、適切な援助方法を学ぶ。 3) 毎日のカンファレンスを通し、学修内容の共有と整理・理解を深める。 3. まとめ 1) 実習で学んだことをまとめ、振り返りを通して「看護」についての自分の考えを深める。 2) 実習に臨む態度を振り返り、今後の課題を明確にする。					事前学修：①実習の事前学習では、実習要項にある「学生が実施できる看護技術」に記載のある基礎的な看護技術について授業内容を復習してから実習に臨むこと。 ②受け持ち患者に対して初めて看護過程を展開するので、展開に必要な「看護過程展開技術」や病態、薬理等の専門基礎知識についても復習しておくこと。 ③学生オリエンテーション、実習記録の配布時間を別途開講するので必ず参加し、実習準備を整えること。 事後学修：実習を振り返り、看護に関する考えを深め、レポートを作成する。			90	90	
教科書	①『看護がみえる4 看護過程の展開』医療情報科学研究所編、メディックメディア ②『看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント』医療情報科学研究所編、メディックメディア									
参考文献	①『ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナースング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 その他、オリエンテーションおよび実習中に適宜提示する									
備考	＊ルーブリック評価表を用いて、認知、精神運動、情意領域を評価する。 担当：木下美佐子、高橋由美、桑田恵美子、阿部幹佳、菅原尚美、二口尚美、竹田理恵、佐藤由記子、岡崎草代夏、坂村佐知、東海林美幸、佐藤清湖、小倉真紀、遠藤理加、 非常勤助手：江口美知子、橋本久子、佐々木ゆみ子、大石慶子、松田郷子、赤間美恵子、他1名									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師、認定看護管理者としての5年以上の実務経験を活かし、根拠を持った看護実践に取り組み看護師としての基本的態度が身につく実習展開をする。(木下)

看護学部 看護学科

2年生

- 年間予定表
- シラバス

2026年度 看護学科2年生 年間予定表

前期

		日	月	火	水	木	金	土				
4月					1		2	オリエンテーション	3	(入学式)	4	
	5	6	1	7	1	8	1	9	健康診断 1	10	1	11
	12	13	2	14	2	15	2	16	2	17	2	18
	19	20	3	21	スポーツ大会	22	3	23	3	24	3	25
	26	27	4	28	3	29		30	4	1	4	2
5月	3	4		5		6		7	5	8	5	9
	10	11	5	12	4	13	4	14	6	15	6	16
	17	18	6	19	5	20	5	21	7	22	7	23
	24	25	7	26	6	27	6	28	8	29	8	30
	31	1	8	2	7	3	7	4	9	5	9	6
6月	7	8	9	9	8	10	8	11	10	12	10	13
	14	15	10	16	9	17	9	18	11	19	11	20
	21	22	11	23	10	24	10	25	12	26	12	27
	28	29	12	30	11	1	11	2	13	3	13	4
7月	5	6	13	7	12	8	12	9	14	10	14	11
	12	13	14	14	13	15	13	16	15	17	15	18
	19	20		21	14	22	14	23	月15	24	火15	25
	26	27		28		29		30	定期試験	31	定期試験	1
8月	2	3	定期試験	4	定期試験	5	定期試験	6		7		8
	9	10		11		12		13		14		15
	16	17		18		19		20		21	成績発表	22
	23	24		25		26		27	再試験	28	再試験	29
	30	31	再試験	1		2		3		4		5
9月	6	7		8		9		10		11		12
	13	14		15		16		17		18		19
	20	21		22		23		24	オリエンテーション 1	25	1	26
	27	28	地域・在宅看護学実習Ⅰ	29	地域・在宅看護学実習Ⅰ	30	地域・在宅看護学実習Ⅰ					

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2026年度 看護学科2年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土					
10月						1	地域・在宅看護学実習Ⅰ	2	地域・在宅看護学実習Ⅰ	3			
	4	5	1	6	1	7	1	8	2	9	2	10	(保護者会)
	11	12		13	2	14	2	15	3	16	3	17	
	18	19	2	20	3	21	3	22	4	23	4	24	
	25	26	3	27	4	28	4	29	5	30	⁵ せいよう祭準備	31	せいよう祭
11月	1	2	4	3		4	5	5	6	6	6	7	
	8	9	5	10	5	11	6	12	7	13	7	14	
	15	16	6	17	6	18	7	19	8	20	領域横断看護実習	21	
	22	23		24	領域横断看護実習	25	領域横断看護実習	26	領域横断看護実習	27	領域横断看護実習	28	
	29	30	領域横断看護実習	1	領域横断看護実習	2	領域横断看護実習	3	領域横断看護実習	4	領域横断看護実習	5	
12月	6	7	領域横断看護実習	8	領域横断看護実習	9	領域横断看護実習	10	領域横断看護実習	11	領域横断看護実習	12	
	13	14	7	15	7	16	8	17	9	18	8	19	
	20	21	8	22	8	23	9	24	10	25	9	26	
	27	28		29		30		31		1		2	
1月	3	4	9	5	9	6	10	7	11	8	10	9	
	10	11		12	10	13	11	14	12	15	11	16	
	17	18	10	19	11	20	12	21	13	22	12	23	
	24	25	11	26	12	27	13	28	14	29	13	30	
	31	1		2	13	3	14	4	15	5	14	6	
2月	7	8	12	9	14	10	15	11		12	15	13	
	14	15		16		17	定期試験	18	定期試験	19	定期試験	20	
	21	22		23		24		25		26	成績発表	27	
	28	1		2		3	再試験	4	再試験	5	再試験	6	
3月	7	8		9		10		11		12		13	
	14	15		16		17	(卒業式)	18		19		20	
	21	22		23		24		25		26		27	
	28	29		30		31							

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※2月1日(月)は入試のため、土日・祝日と同様、五橋キャンパス構内への立入りは一切できません。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLa07				
	●			●						
科目名	ICT活用技術				単位認定者	佐々木 仁		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	<p>情報通信技術（ICT）の発展により、将来、医療従事者となる学生にとって、ICTを活用する基礎的能力を身につけていることが重要となる。</p> <p>ICT活用技術では、ICTの特徴的な内容について理解を深め、医療福祉分野においてもICTの進化に対応し、活用できる技術を、具体的な事例を通して学修する。さらに、ICTを活用したグループワーク等を行い、ICT活用技術の修得を目指す。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 医療情報の特徴と種類について説明できる。 電子カルテを中心とした病院情報システムの意義と役割を説明できる。 医療機関における個人情報保護・情報セキュリティーを理解し、医療従事者としての情報倫理を身につける。 医療福祉分野におけるICTの活用について説明できる。 									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> 主体性・協調性・マナーを重要視しており、積極的にペア・グループワークに取り組む姿勢に期待する。 毎回レジュメを配布するので、A4ポケットファイルを準備すること（授業内で指示） レポート等の課題提出は期限を厳守し、欠席時の資料・課題はTeamsより各自出力し、取り組むこと。 									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	<ul style="list-style-type: none"> 授業ガイダンス 情報の概念 保健医療情報システムの発達 				事前学修：シラバスをよく読んでおくこと 事後学修：講義内容の復習				30	30
2	<ul style="list-style-type: none"> 医療資源（物的資源、人的資源、財的資源、情報資源） 				事前学修：「医療資源」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習				30	30
3	<ul style="list-style-type: none"> 医療情報の特徴と種類 診療情報の一次利用と二次利用 				事前学修：「医療情報と診療情報」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習				30	30
4	<ul style="list-style-type: none"> チーム医療と多職種連携の情報管理 医療機関の組織と情報 				事前学修：「医療機関の組織」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習				30	30
5	<ul style="list-style-type: none"> 行政が求める保健医療の情報化政策 保健医療の情報化政策の歴史と関連法令 				事前学修：「行政で扱う医療情報」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習				30	30
6	<ul style="list-style-type: none"> 病院情報システムの概要と院内ネットワーク 部門業務を支えるシステム 医療費の仕組み 				事前学修：「医療費の仕組み」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習				30	30
7	<ul style="list-style-type: none"> その他の診療部門システム オーダーリングシステムと電子カルテシステム 電子カルテシステムのメリット・デメリット 				事前学修：「電子カルテ」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習				30	30
8	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療情報システムと遠隔医療システム 個人番号制度と医療等ID、HPKI 				事前学修：「遠隔医療システム」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習				30	30
9	<ul style="list-style-type: none"> 診療情報の二次利用 データウェアハウスと医療ビッグデータ 				事前学修：「医療情報の一次利用と二次利用」について復習しておくこと 事後学修：講義内容の復習				30	30
10	<ul style="list-style-type: none"> 次世代医療基盤法 EHRとPHRの実装の動向、電子版お薬手帳等 				事前学修：「お薬手帳」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習				30	30
11	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護法 個人情報の定義と取り扱い 個人情報漏洩・流失の原因 				事前学修：「個人情報漏洩のニュース」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
12	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ 医療情報システムにおけるセキュリティ対策 医療情報システムの安全管理 	事前学修：「身近なセキュリティシステム」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習	30	30
13	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関における情報倫理 ペア・グループワーク 	事前学修：「第11, 12回の授業」について復習しておくこと 事後学修：講義内容の復習	30	30
14	<ul style="list-style-type: none"> 災害時における情報管理 	事前学修：「医療機関と災害に関するニュース」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習	30	30
15	<ul style="list-style-type: none"> 授業の振り返り ペア・グループワーク 	事前学修：「第14回までの授業」について復習しておくこと 事後学修：講義内容の復習	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ペアワーク、グループワーク）			
教科書	なし（毎回レジュメを配布）			
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 『医療情報 医療情報システム編』一般社団法人日本医療情報学会医療情報技師育成部会編、篠原出版新社 『新 医療秘書実務シリーズ 3 三訂 医療情報管理』医療秘書教育全国協議会編、建帛社 			
備考	<ul style="list-style-type: none"> 選択者数や、理解度により授業内容の一部や順番を変更する場合がある。 授業内課題（70%）はレポート・小テスト（3回予定）で評価し、次回授業内でフィードバックする。 授業内課題は指示したプリント、又はファイル等のデータ形式で提出（授業内で指示） 			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLc01				
	●									
科目名	法学入門				単位認定者	鈴木 一樹		授業内課題等	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	社会生活上で必要な知識として、「日本国憲法」「民法」「刑法」を取り上げ、「法」の基礎を学修する。とりわけ最も身近な法律のひとつである「民法」を中心に学び、日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げ、法の観点から問題点、解決方法、回避方法を検討する。具体的な事例を基に、法と照らし合わせて学修することで、学修者自身が適切な選択・判断ができることを目指す。									
到達目標	社会問題を考える際の土台となる法律の基本的な用語や概念を理解し、説明できる。身近な法律問題の学習を通じて、自ら問題を解決するための思考方法を養う。									
学修者への期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思いますので、復習を中心に取り組んで下さい。法律用語と日常用語の違い、授業内で扱った事例や問題は、重点的に復習すること。その際、結論だけでなく理由も説明できるようにしておくこと。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	法律の意義と学ぶ意味				事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください。				0	30
2	憲法（1）基本的人権				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください。				30	30
3	憲法（2）統治機構				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください。				30	30
4	民法（1）総則、物権				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください。				30	30
5	民法（2）債権				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください。				30	30
6	民法（3）親族・相続				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください。				30	30
7	刑法（1）総論				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください。				30	30
8	刑法（2）各論				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください。				30	30
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	特に指定しない。									
参考文献	必要に応じて講義内で紹介する。									
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。講義内容は、進捗に応じて変更する場合がある。各回の授業内課題については、その回で学んだことや印象に残ったことを記述したものとする。課題については、講義内でフィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

公認会計士として5年以上、企業等の会計監査、税理士として税務業務、不動産鑑定士として鑑定評価業務に従事。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLc03				
	●									
科目名	経済と政策				単位認定者	岩 渕 修		試験(レポート)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
							授業回数		8 回	
				授業形態	講義					
授業の概要	<p>一国の経済全体の動きのメカニズムを分析するマクロ経済学の基本的な概念や考え方を学び、経済を見る視点の基礎的な素養を身につける。財政政策、金融政策、産業政策、社会保障制度改革等をキーワードに日本経済の現状や課題を理解し、さらに、世界全体が直面するエネルギー・資源・環境問題や国際社会の動向についても取り上げ、日本経済の展望について考える。</p>									
到達目標	<p>マクロ経済学とマクロ経済政策についての基本的知識を理解すること。その上で、日本経済の長期停滞、デフレ、人口減少、少子高齢化といった厳しい現実の下で、「政策」がどのような可能性を秘めているかを自分で考える。</p>									
学修者への期待等	<p>日常のニュースに関心を持ち、日本の戦後の経済史や時事問題、経済データに興味を持つこと。</p>									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	「経済」と「経済学」の関係、ストックとフローや国民所得概念				事前学修：日本や世界各国の経済データを調べる。			15	0	
2	ケインズ経済学の単純なモデルである45度線分析				事前学修：経済学説上でのケインズについて調べる。			15	0	
3	IS-LM分析モデルと経済政策の効果				事前学修：基本的な財政政策と金融政策について調べる。			15	0	
4	AD-AS分析モデルと物価				事前学修：現在のデフレと失業率について調べる。			15	0	
5	戦後日本経済史とバブル				事前学修：バブル時代の日本の状況について調べる。			15	0	
6	バブルの崩壊と日本の長期停滞				事前学修：「失われた30年」の経済成長率とデフレについて調べる。			15	0	
7	伝統的金融政策と異次元の金融政策				事前学修：異次元の金融政策について調べる。			15	0	
8	財政政策と日本の累積国債残高				事前学修：現在の日本の財政状況を調べる。			15	0	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ()									
教科書	なし									
参考文献	『ケインズ』伊東光晴著、岩波新書 『マクロ経済学』斎藤誠他著、有斐閣									
備考										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLd03				
	●				●					
科目名	自然環境と災害				単位認定者	江川 新一		試験(筆記)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	事前課題	30 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	<p>自然環境と災害は、深く関係している。産業の発展に伴う地球温暖化は、気候変動を起こし、災害となって新たな問題を引き起こす。</p> <p>この科目では、環境問題と自然災害の関連性を学び、過去の歴史から、土砂災害、水害（洪水・浸水）、震災（地震・津波）、火山災害等の自然災害を学修する。災害発生のメカニズムや防災対策、災害時の生命の維持を学び、災害時に対応するための知識を身につける。また、自然エネルギーの現状や今後について理解を深める。</p>									
到達目標	さまざまなハザードにより起きる災害において、災害リスクと、その低減（＝防災）について述べることができる。わが国をとりまく自然環境との共生についてアイデアを述べるができる。									
学修者への期待等	災害リスク低減の一翼を担える保健医療人材として防災に関わり続けてほしい。とくに、リハビリテーションや看護を必要とする人々の個別防災計画立案や災害ケースマネジメントに関わることができるように地域と連携しながら活動できる人材になってほしい。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	災害医学の基礎知識				事前学修：事前に教科書35章を読んでくること。 事後学修：授業終了時に概要レポートを提出すること。				60	30
2	東日本大震災とは何だったのか？				事前学修：報告会を行うので学籍番号下1桁と同じ下1桁の章からの学びと課題発見をスライドで授業前日の決められた時間までに提出すること。(学籍番号〇〇〇7の学生は17章、27章、37章、47章から選ぶ) 事後学修：選ばなかった他の章を少なくとも2つ読む。				60	30
3	気候変動				事前学修：事前に気候変動に起因する災害について予習。 事後学修：授業後に能登半島地震・豪雨災害に関する資料についてレポートを作成すること。				30	60
4	避難所運営ゲーム(HUG)（参加型カード演習）				事前学修：ロールプレイ、グループワークを行うので、避難所のあり方について予習してくること。 事後学修：自治体の避難所運営マニュアルを読む。				60	30
5	災害リスクと仙台防災枠組				事前学修：事前に災害リスクの振り返りを行ってくる。 事後学修：講義終了後に「高齢化社会のレジリエンス」についてレポートを作成すること。				30	60
6	災害と向き合ってきた歴史と伝承				事前学修：教科書第14-34章のうち2つ読んでくる。 事後学修：さまざまな災害をどう伝承するか、思いつく好事例についてレポートを作成すること。				30	60

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
7	Psychological First Aid (ロールプレイ)	事前学修：ロールプレイングを行うので、サイコロジカルファーストエイド日本語版で災害におけるメンタルヘルスの問題について予習しておくこと。 事後学修：教科書第36章を読む。	60	30
8	学修成果発表会	事前学修：保健医療従事者として災害にどのように対応し、事前に防災への貢献ができるかをスライド3枚以内でまとめること。(1時間程度) 事後学修：提出分をまとめた資料(配布)を読む。	60	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(ロールプレイング、グループワーク、成果発表、課題発見)			
教科書	『東日本大震災からのスタート ―災害を考える51のアプローチ―』東北大学災害科学国際研究所編、大学出版部協会			
参考文献	サイコロジカル・ファーストエイド：PFA(https://www.mhlw.go.jp/content/000805675.pdf) 未来へつなごう私たちのBOSAI 2020(https://sendai-resilience.jp/media/pdf/bosai2020.pdf)			
備考	提出したスライドはいくつか授業中に匿名で提示し、Slideなどを用いた匿名性の双方向性議論の対象にします。また、個別にもフィードバックします。 なお、3回目・5回目・6回目はオンデマンド形式にて実施します。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLd04				
	●			●						
科目名	統計学入門				単位認定者	菅原 由美		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	統計学の入門として、情報化社会の中で公表されている数字・データを正しく読み解き、理解する基礎的知識を身につける。統計学を学ぶ上で必要な、分布、分散、標準偏差、確率等を利用して、身近な数字・データを基に統計の基礎を学ぶ。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計データの種類とグラフについて理解し、データや目的に合わせた選択をすることができる。 2. 平均値、中央値、最頻値、標準偏差、分散、箱ひげ図の概念を理解する。 3. 正規分布を理解し、これをもとにカイ2乗分布、t分布の違いとそれぞれが適応可能な実例が区別できる。 4. 検定の基本的な考え方が理解できた上で、母集団の平均値や分散の検定を行うことができる。 									
学修者への期待等	統計学の知識を学び、実際の看護現場でのデータ分析や研究に役立てることを期待しています。事前にUNIPAに講義資料を掲載しますので、予習として講義資料を確認し、授業に臨んでください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	統計データの種類とグラフ・データの代表値（平均値・中央値・最頻値）				事前学修：講義資料を読んでくること。 事後学修：講義資料や確認テストを用いて復習すること。			30	60	
2	データの散布度（標準偏差と分散）				事前学修：講義資料を読んでくること。 事後学修：講義資料や確認テストを用いて復習すること。			30	60	
3	正規分布の定義と特徴				事前学修：講義資料を読んでくること。 事後学修：講義資料や確認テストを用いて復習すること。			30	60	
4	基準値と偏差値				事前学修：講義資料を読んでくること。 事後学修：講義資料や確認テストを用いて復習すること。			30	60	
5	相関係数と回帰係数				事前学修：講義資料を読んでくること。 事後学修：講義資料や確認テストを用いて復習すること。			30	60	
6	統計的仮説検定と推定				事前学修：講義資料を読んでくること。 事後学修：講義資料や確認テストを用いて復習すること。			30	60	
7	χ^2 （カイ2乗）検定とt検定				事前学修：講義資料を読んでくること。 事後学修：講義資料や確認テストを用いて復習すること。			30	60	
8	統計学入門まとめ				事前学修：講義資料を読んでくること。 事後学修：講義資料や確認テストを用いて復習すること。			30	60	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『楽しく学べる！看護学生のための疫学・保健統計』 浅野嘉延著、南山堂									
参考文献	『基本からわかる看護統計学入門』 大木秀一著、医歯薬出版									
備考	授業内課題については確認テストで評価し、適宜フィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLd05				
	●									
科目名	健康スポーツ I				単位認定者	菅原 一昭		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間	
						授業回数	8 回			
授業の概要	健康であることは、生活の質を上げるために不可欠な要素である。さらに、健康の維持・増進には、生涯にわたって運動(スポーツ)を生活に取り入れることが重要である。健康スポーツ I では、健康を維持するために必要な食生活と運動(スポーツ)の重要性を学ぶ。生活習慣病と運動・食生活の関係、疾病と健康状態、体力に応じた運動方法を学ぶ。									
到達目標	日常の生活の中で、「運動」や「スポーツ」を習慣化することで、生涯にわたって健康の維持・増進に繋げて継続していくことの大切さを理解すること。									
学修者への期待等	日頃から体調管理に努め、欠席・遅刻のないよう万全の態勢で授業に臨むことを期待します。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	生活習慣病と健康 I (生活習慣病・健康寿命・食事)				事前学修：本時内容の予習 事後学修：本時プリント内容の復習			30	30	
2	生活習慣病と健康 II (運動・喫煙・飲酒)				事前学修：本時内容の予習 事後学修：本時プリント内容の復習			30	30	
3	スポーツの概念と歴史				事前学修：本時内容の予習 事後学修：本時プリント内容の復習			30	30	
4	文化としてのスポーツ				事前学修：本時内容の予習 事後学修：本時プリント内容の復習			30	30	
5	体力の概念(行動体力・防衛体力)				事前学修：本時内容の予習 事後学修：本時プリント内容の復習			30	30	
6	トレーニングの進め方 (トレーニングの原理・原則種類)				事前学修：本時内容の予習 事後学修：本時プリント内容の復習			30	30	
7	文部科学省(スポーツ庁)施策 主なスポーツ関係府省庁及び施策				事前学修：本時内容の予習 事後学修：本時プリント内容の復習			30	30	
8	総括、試験対策				事前学修：全プリントのまとめ 事後学修：全プリントの復習			30	90	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード()									
教科書	授業時に資料を配布する。									
参考文献	特に指定しない。									
備考	第8回は第1回～第7回までの資料を持参すること。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLd06				
	●									
科目名	健康スポーツⅡ				単位認定者	菅原 一昭		試験(実技)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	実技	授業回数	15 回			
授業の概要	健康であることは、生活の質を上げるために不可欠な要素である。さらに、健康の維持・増進には、生涯にわたって運動(スポーツ)を生活に取り入れることが重要である。 健康スポーツⅡでは、実技を通して健康増進や体力増進等を行う知識と方法を学ぶ。また、実際に体験することにより、運動(スポーツ)の意義・目的を理解し、教育者・指導者としての能力の向上を目指す。									
到達目標	日常の生活の中で、「運動」や「スポーツ」を習慣化することで、生涯にわたって健康の維持・増進に繋げて継続していくことの大切さを理解すること。									
学修者への期待等	チームの一員としてチームプレーを心掛けると共に、ルールを守ることの大切さを理解し、公正なプレーを心掛けること。実技の上手い、下手での評価ではなく、個々の取り組み姿勢、審判・準備・片付け等を積極的に行うことを評価対象とする。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	体育館での授業についての説明。アンケート				事前学修：健康・体力についての理解 事後学修：体操・ストレッチを習慣化			60	30	
2	体育館 準備運動(ペアストレッチⅠ) ①ドッジビー				事前学修：競技の歴史とルールについての理解 事後学修：就寝前のストレッチを実施			30	30	
3	②バレーボール									
4	体育館 準備運動(ペアストレッチⅡ) ①ミニソフトバレー				事前学修：競技の歴史とルールについての理解 事後学修：就寝前のストレッチを実施			30	30	
5	②インディアカ									
6	体育館 準備運動(ペアボールランニング) ①ユニホック				事前学修：競技の歴史とルールについての理解 事後学修：就寝前のストレッチを実施			30	30	
7	②バドミントン									
8	体育館 準備運動(スポーツ競技ストレッチ) ①ゴールボール(視覚体験)				事前学修：競技の歴史とルールについての理解 事後学修：就寝前のストレッチを実施			30	30	
9	②ソフトバレーボール									
10	体育館 準備運動(ランニングドリル) ①ポッチャ				事前学修：競技の歴史とルールについての理解 事後学修：就寝前のストレッチを実施			30	30	
11	②ソフトバレーボール									
12	体育館 準備運動 ①フットサル				事前学修：競技の歴史とルールについての理解 事後学修：就寝前のストレッチを実施			30	30	
13	②卓球									
14	体育館 準備運動(各自) ①実技試験(ハンマー投げ)				事前学修：競技の歴史とルールについて 事後学修：就寝前のストレッチを実施			30	30	
15	②バスケットボール									
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード()									
教科書	なし。									
参考文献	授業時に資料を配布する。									
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目に出席しないとバスの乗車時間・場所等が分からなくなりますので必ず出席すること。 ・第2回目以降は体育館にて実施。(上下運動着、上靴持参、タオル持参)。 ・土足厳禁。バス内での飲食禁止。事前に着替えてくること。 ・授業内課題は適宜フィードバックする 									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFb05			
			●						
科目名	病態治療学IV				単位 認定者	平山 和美 日下部 隆		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	
						授業時間数	30 時間		
				授業形態	講義	授業回数	15 回		
授業の概要	病態治療学 I～IVでは、看護の基礎として、疾患の成り立ちと各疾患の病態・診断・治療について学修する。本科目では、運動機能障害、神経機能障害の病態と診断・治療など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。								
到達目標	1. 中枢神経系の疾患の病態と診断・治療について説明できる 2. 末神経系の疾患の病態と診断・治療について説明できる 3. 骨・関節の疾患の病態と診断・治療について説明できる 4. 筋肉・神経筋接合部の疾患の病態と診断・治療について説明できる								
学修者への期待等	教科書、配布資料で予習、復習を行い授業内容を十分に理解することを望みます。								
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	中枢神経解剖の総復習・脳画像の見方				事前学修：事前に資料を配布するので、読んで予習する		30	0	平山 和美
2	中枢神経系の疾患の病態と診断・治療 (脳血管障害:脳内出血、クモ膜下出血、脳梗塞)				事前学修：成人看護学[7] 第5章：B①を読んで予習する		30	0	平山 和美
3	中枢神経系の疾患の病態と診断・治療 (頭蓋内圧亢進症、頭部外傷)				事前学修：成人看護学[7] 第3章：B⑥、第5章：B③を読んで予習する		30	0	平山 和美
4	中枢神経系の疾患の病態と診断・治療 (腫瘍、てんかん)				事前学修：成人看護学[7] 第5章：B②、Iを読んで予習する		30	0	平山 和美
5	中枢神経系の疾患の病態と診断・治療 (感染症：髄膜炎、脳炎、脳膿瘍、真菌、細菌、ウイルス、プリオンによる感染。)				事前学修：成人看護学[7] 第5章：Jを読んで予習する		30	0	平山 和美
6	中枢神経系の疾患の病態と診断・治療 (変性疾患：パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脱髄疾患：多発性硬化症)				事前学修：成人看護学[7] 第5章：Gを読んで予習する		30	0	平山 和美
7	末神経系の疾患の病態と診断・治療 (ギラン・バレー症候群、圧迫性神経障害、顔面神経麻痺)				事前学修：成人看護学[7] 第5章：Eを読んで予習する		30	0	平山 和美
8	筋肉・神経筋接合部の疾患の病態と診断・治療 (筋ジストロフィー、重症筋無力症)				事前学修：成人看護学[7] 第5章：Fを読んで予習する		30	0	平山 和美
9	骨・関節の疾患の病態と診断・治療 (骨粗鬆症、骨折)				事前学修：成人看護学[10] 第2章：A、第4章：C(関連事項)、第5章：B・Jを読んで予習する。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認を行うこと。		30	30	日下部 隆

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
10	骨・関節の疾患の病態と診断・治療 (脱臼、捻挫)	事前学修：成人看護学[10] 第2章：B・D、第4章：C (関連事項)、第5章：C・Dを読んで予習する。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	30	30	日下部 隆
11	骨・関節の疾患の病態と診断・治療 (変形性関節症)	事前学修：成人看護学[10] 第2章：B、第4章：C (関連事項)、第5章：G 2・H 3を読んで予習する。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	30	30	日下部 隆
12	骨・関節の疾患の病態と診断・治療 (腫瘍：骨肉腫、軟部組織腫瘍)	事前学修：成人看護学[10] 第5章：I を読んで予習する。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	30	30	日下部 隆
13	骨・関節の疾患の病態と診断・治療 (腰痛症：椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症)	事前学修：成人看護学[10] 第2章：C、第4章：C (関連事項)、第5章：Nを読んで予習する。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	30	30	日下部 隆
14	骨・関節の疾患の病態と診断・治療 (炎症性疾患：骨炎、骨髄炎、関節炎)	事前学修：成人看護学[10] 第5章：H 1・H 2を読んで予習する。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	30	30	日下部 隆
15	中枢神経系の疾患の病態と診断・治療 (脊髄損傷)	事前学修：成人看護学[10] 第3章：D、第5章：B (関連事項)・Eを読んで予習する。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	30	30	日下部 隆
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ()				
教科書	『系統看護学講座 成人看護学[7] 脳・神経』井手隆文他著、医学書院 『系統看護学講座 成人看護学[10] 運動器』田中栄他著、医学書院				
参考文献	なし				
備考					

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

医師として5年以上の臨床経験があり、それに基づいて運動、神経疾患の病態と治療について講義する。
(平山、日下部)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFc01				
		●	●		●					
科目名	公衆衛生学				単位認定者	菅原 由美		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	疫学調査等の知見に基づく予防医学的視点を理解する。具体的には、疾病の予防・早期発見・早期治療やリハビリテーションも含む予防活動や、国・地方自治体などの行政や市民組織といった集団・組織的努力により実施する公衆衛生活動について学ぶ。また、関連法規や施策とその運用として地域保健、母子保健、精神保健、学校保健、産業保健等の保健活動について学び、実際の公衆衛生活動に対応できる基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康問題を把握し、問題解決に必要な疫学的手法や公衆衛生活動の方法論、健康行動変容理論などの基礎を説明できる。 健康事象を人間集団の特性(性・年齢・職業・教育など)と環境(地域・所属社会・自然環境など)との関わりから説明できる。 関連法規や施策とその運用について実際の公衆衛生活動に活用・対応できる基礎知識を修得する。 									
学修者への期待等	公衆衛生学では、個人だけではなく地域社会全体の健康課題を多角的に捉える視点を養います。学習を通じて看護師の役割を明確にし、社会の多様な健康課題に対応できる能力が養われることを期待しています。事前に教科書を熟読し、授業に臨んでください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	公衆衛生学とは - 概念・目的・活動理論と健康問題(国内外の歴史と現状)				事前学修：教科書「第1章 公衆衛生学序論」を読んでくること。 事後学修：授業内容の復習、関連資料の確認を行うこと。			60	60	
2	法律と地域保健活動 - 地域住民の健康と行政の役割				事前学修：教科書「第2章 地域保健 - 地域住民の健康と行政の役割」を読んでくること。 事後学修：授業内容の復習、関連資料の確認を行うこと。			60	60	
3	環境と健康 - 生活環境・地域環境・地球環境と健康問題				事前学修：教科書「第3章 環境保健 - 環境と健康」を読んでくること。 事後学修：授業内容の復習、関連資料の確認を行うこと。			60	60	
4	保健統計 - 健康・疾病・行動に関わる統計資料				事前学修：教科書「第4章 保健統計 - 健康・疾病・行動に関わる統計資料」を読んでくること。 事後学修：授業内容の復習、関連資料の確認を行うこと。			60	60	
5	疫学 - 健康状態・疾病の測定と評価/倫理				事前学修：教科書「第5章 疫学 - 健康状態・疾病の測定と評価」を読んでくること。 事後学修：授業内容の復習、関連資料の確認を行うこと。			60	60	
6	健康管理・主要疾患の疫学と予防 - 生活習慣病(非感染性疾患NCD)・感染症・精神保健の現状と対策				事前学修：教科書「第6章 疾病予防と健康管理 - 生活習慣の現状と対策」「第7章 主要疾患の疫学と予防」を読んでくること。 事後学修：授業内容の復習、関連資料の確認を行うこと。			60	60	
7	保健・医療・福祉の制度 - 社会保障・医療・福祉・介護				事前学修：教科書「第8章 保健・医療・福祉の制度 1社会保障の概念 2医療制度 3福祉制度 4母子保健」を読んでくること。 事後学修：授業内容の復習、関連資料の確認を行うこと。			60	60	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
8	ライフステージと健康 - 母子保健・学校保健・産業保健・成人保健の現状と対策	事前学修：教科書「第8章保健・医療・福祉の制度 5成人保健・高齢者保健・介護 6産業保健 7学校保健」を読んでくること。 事後学修：授業内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	60	60
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）			
教科書	『新編 衛生・公衆衛生学』山本玲子監、アイ・ケイコーポレーション			
参考文献	『国民衛生の動向2025/2026』厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会			
備考	授業内課題については確認テストで評価し、適宜フィードバックを行う。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力
			●		●

科目ナンバリング
NSFc02

科目名	疫学				単位認定者	中塚 晴夫		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
		*保健師選択制 必修				授業形態	講義		授業時間数	15 時間
									授業回数	8 回
授業の概要	人間の集団で起きている健康に関する様々な出来事の頻度や分布を測定し、それに関わる要因を推測し、疾病の予防・健康の増進に応用する疫学的な考え方の基礎を学ぶ。集団を対象とした健康や病気に関する情報と統計的な調査を正しく理解する力を養い、健康課題を解決するために、地域をアセスメントして疾病予防・健康増進対策を立案して結果を評価する能力に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 公衆衛生看護の根拠となる疫学の考え方を理解できる。 2. 疫学で使用される数値の算出方法とその意味を理解できる。 3. 疫学的手法で得られた結果を活用した実践計画を立てられる。									
学修者への期待等	知識の羅列と暗記で終わる分野ではなく、数式・数値の理解が必要なので講義中は気を抜かず、またノートは板書の単語を写すのではなく、数式数値の示す意味を自分の言葉で書きとめる。復習を講義当日に行い、自分の言葉で内容を説明できるようにする。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	疫学とは何か。基本概念、疫学の方法・種類を学び、病因と疾患の関連(モデル)を理解する。				事後学修：集団を対象する考えを理解し、自分の言葉で説明する復習。				0	60
2	集団を対象として疾病の頻度を表す指標・数値の種類、算出方法とその性質と使用目的を学ぶ。				事後学修：数式を、公式の暗記ではなく、式の成り立ち、算出結果は何を示すかを理解する復習。				0	120
3	特に罹患をもたらす要因(曝露)の効果・危険の程度を示す指標について。				事後学修：式の構造、結果の意味をよく理解するための復習。				0	60
4	疫学調査法の概要。対象集団の選定、調査のデザイン(コホート・症例対照研究等)。				事後学修：異なる調査方法の特徴を、理解して、自分の言葉で理解し表現する復習。				0	60
5	誤差の種類、要因、防止方法。交絡、年齢調整。				事後学修：多くの用語の個別の意味、使い分けを、理解したうえで自分の言葉に直す復習。				0	60
6	スクリーニング法。目的。集団の性質の把握する必要性、予防における意義、個人への還元の意味。				事後学修：集団の調査の目的と、裏付けとなる原理を理解して、自分の言葉で記録する復習。				0	60
7	スクリーニング結果を示す数値、特に陽性、陰性の精度。				事後学修：各数値が何を意味し、何に利用するのかを理解して、他人に説明できる言葉にする。				0	60
8	スクリーニングの結果の評価、最適な方法の決定法。疫学の実績例の紹介。				事後学修：第8回の授業内容を確実に理解し、自分の言葉での説明を作る。上記全過程の内容を総復習。				0	60
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード()									
教科書	使用しない									
参考文献	『シンプル衛生公衆衛生学』小山洋他、南江堂 『新編 衛生・公衆衛生学』山本玲子監、アイ・ケイコーポレーション									
備考	授業内課題は、次の授業で評価、添削し返却する。 この科目は公衆衛生看護学実習Ⅰの履修要件となっている。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFc03				
			●		●					
科目名	保健情報論				単位認定者	真覚 健 中塚 晴夫		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
		*保健師選択制 必修			授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	根拠に基づく看護を実践するため、患者や地域のデータを集め整理し、統計学的に分析して、根拠にできる資料作成の立案から結論に至るまでを修得する。さらに、社会の状況を掴む能力を得るため、人口統計、主要な健康指標、保健統計調査について理解し、健康に関する統計情報を正しく読み取り、活用するための知識を学修する。									
到達目標	1. 健康に関するデータを収集し、統計的に処理・分析して、判断の根拠とできる。 2. 健康に関する統計情報を正しく読み取り、公衆衛生活動に活用できる。 3. 人口統計、健康指標、保健統計調査結果の意味を理解し、理解・説明・活用できる。									
学修者への期待等	“数”を扱うことになるが、苦手意識を持たずに取り組んでください。 事前学修として教科書・資料を熟読して授業に参加してください。 事後学修として授業で学修した内容について当日中に復習をして身につけてください。									
回	授業計画				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	データ・情報の種類と性質および処理方法				事後学修：自分の言葉で書き留める。		0	60	中塚 晴夫	
2	調査の企画立案				事後学修：調査票作成方法の資料を配布するので、熟読する。		0	60	中塚 晴夫	
3	調査票の作成・実施方法				事後学修：講義内容を配布資料と照合し、理解しノートを整理。		0	60	中塚 晴夫	
4	数値データの集計法				事後学修：多数の項目を、記憶が明確なうちに自分の言葉に直す。		0	60	中塚 晴夫	
5	文字データ、自由回答項目の集計法				事後学修：内容を自分の言葉にする努力をする。		0	60	中塚 晴夫	
6	多次元(クロス)集計法				事後学修：内容が複雑なので、自分の言葉にする復習をする。		0	60	中塚 晴夫	
7	結果の表示法、数値、比率、比率の標準化				事後学修：内容を復習して、自分の言葉で書き留める。		0	60	中塚 晴夫	
8	結果の表示法、数表とグラフの使い方				事後学修：内容を理解し、自分の言葉で書き留める。		0	60	中塚 晴夫	
9	健康に関する統計解析の理解				事前学修：資料を読んで、代表値と散布度について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。		30	30	真覚 健	

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
10	データの一次集計の理解	事前学修：資料を読んで、保健情報について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。	30	30	真覚 健
11	データによる推測	事前学修：資料を読んで、標本から母集団を推測することについて学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。	30	30	真覚 健
12	データの二次集計の理解① (パラメトリック検定)	事前学修：資料を読んで、t検定について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。	30	30	真覚 健
13	データの二次集計の理解② (ノンパラメトリック検定)	事前学修：資料を読んで、 χ^2 検定について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。	30	30	真覚 健
14	多変量データの統計解析による結果の理解	事前学修：資料を読んで、多変量データの分析について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。	30	30	真覚 健
15	保健情報論まとめ	事前学修：これまでの授業の中で、十分理解できていない内容を確認しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。	30	30	真覚 健
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ペア・ディスカッション）				
教科書	使用しない				
参考文献	『新編 衛生・公衆衛生学』山本玲子監、アイ・ケイコーポレーション 『国民衛生の動向2025/2026』厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会				
備考	資料は事前にUNIPA上にアップする。 第9回、15回はペア・ディスカッションを行う。 授業内課題は中塚担当分20%、真覚担当分20%とする。 ・真覚担当分：毎回事後学修としてUNIPAでのレスポンスシートへの提出を求め、次回の授業でフィードバックを行う。 ・中塚担当分：講義内容に関するレポートを課す。添削後、再提出を求め、内容の良否を評価の一部に加える。 この科目は公衆衛生看護学実習Ⅰの履修要件となっている。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFc04				
		●	●		●					
科目名	保健医療福祉行政論				単位認定者	佐藤 英仁		授業内課題	100 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法		
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	保健・医療・介護・福祉施策の企画及び評価について、人々の生活を支える保健医療福祉サービスの変遷、保健医療福祉制度の概要を学ぶ。また、人々の健康に影響する社会問題を解決するために、健康と生活環境との関連に係る疫学調査等の知見に基づき、政策を形成する過程について学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 保健・医療・介護・福祉に関連する主要な制度と規制法について説明できる。 保健医療福祉における行政・財政のしくみの概要について説明できる。 保健医療福祉制度・政策が形成される基本的なプロセスを説明できる。 									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> 看護の視点や問題意識を持って、保健・医療・介護・福祉制度の全体像を理解する。 地域の健康課題に取り組む保健医療福祉専門職の実践事例から看護職の役割を理解する。 									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	さまざまな指標でみる医療・福祉の現状と課題				事前学修：授業資料を用いて予習する。 事後学修：授業資料を用いて復習し、関連する内容を新聞やインターネットでリサーチする。				30	30
2	医療制度（診療報酬制度）の概要と実際				事前学修：授業資料を用いて予習する。 事後学修：授業資料を用いて復習し、関連する内容を新聞やインターネットでリサーチする。				30	30
3	医療保険制度の概要と実際				事前学修：授業資料を用いて予習する。 事後学修：授業資料を用いて復習し、関連する内容を新聞やインターネットでリサーチする。				30	30
4	介護保険制度のしくみと課題				事前学修：授業資料を用いて予習する。 事後学修：授業資料を用いて復習し、関連する内容を新聞やインターネットでリサーチする。				30	30
5	公共性の高い医療と行政機関の責任				事前学修：授業資料を用いて予習する。 事後学修：授業資料を用いて復習し、関連する内容を新聞やインターネットでリサーチする。				30	30
6	保健医療福祉行政の歴史と変遷				事前学修：授業資料を用いて予習する。 事後学修：授業資料を用いて復習し、関連する内容を新聞やインターネットでリサーチする。				30	30
7	保健医療福祉行政の法的基盤としくみ				事前学修：授業資料を用いて予習する。 事後学修：授業資料を用いて復習し、関連する内容を新聞やインターネットでリサーチする。				30	30
8	社会保障制度の理念としくみ				事前学修：授業資料を用いて予習する。 事後学修：授業資料を用いて復習し、関連する内容を新聞やインターネットでリサーチする。				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
9	地域保健と社会福祉制度の概要	事前学修：授業資料を用いて予習する。 事後学修：授業資料を用いて復習し、関連する内容を新聞やインターネットでリサーチする。	30	30
10	保健医療福祉行政の専門職に期待される役割と課題	事前学修：授業資料を用いて予習する。 事後学修：授業資料を用いて復習し、関連する内容を新聞やインターネットでリサーチする。	30	30
11	保健・医療・福祉の関係者と地域住民との連携	事前学修：授業資料を用いて予習する。 事後学修：授業資料を用いて復習し、関連する内容を新聞やインターネットでリサーチする。	30	30
12	保健医療福祉の計画のプロセス・実施・評価	事前学修：授業資料を用いて予習する。 事後学修：授業資料を用いて復習し、関連する内容を新聞やインターネットでリサーチする。	30	30
13	保健医療福祉政策形成のプロセスと方法	事前学修：授業資料を用いて予習する。 事後学修：授業資料を用いて復習し、関連する内容を新聞やインターネットでリサーチする。	30	30
14	保健医療福祉行政における個別支援の事例検討	事前学修：授業資料を用いて予習する。 事後学修：授業資料を用いて復習し、関連する内容を新聞やインターネットでリサーチする。	30	30
15	保健医療福祉行政における施策化の事例検討	事前学修：授業資料を用いて予習する。 事後学修：授業資料を用いて復習し、関連する内容を新聞やインターネットでリサーチする。	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループ・ペアワーク、プレゼンテーション）			
教科書	使用しない。 必要な資料はすべてUNIPAで配信する。			
参考文献	『国民衛生の動向2026/2027』厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会 『系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障[3] 社会保障・社会福祉』 福田素生著、医学書院			
備考	講義では、グループ・ペアワークやプレゼンテーション、クイズや小テスト等を取り入れる。 事例検討では、講義内容の理解を深めるために保健医療福祉の現場で活動している専門職(GS)による講義を行う。 授業評価は、授業内課題を提示し（小テスト50%、授業後の感想50%）、その結果で評価する。 授業内課題は適宜フィードバックする。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFc05				
		●	●		●					
科目名	チームアプローチ入門				単位認定者	高橋 由美 外里 富佐江		評価の方法	授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	各種医療専門職の協働により患者中心の医療を提供する、チーム医療の概念、チーム医療に参加する専門職の役割、職種間の相互理解の必要性などを学ぶ。特に、看護師、理学療法士、作業療法士の業務や役割と、チーム医療の重要性についての理解を深める。患者中心の医療提供のための、多職種連携の実践につながる基礎的能力を身につける。									
到達目標	1. チーム医療とは何かを説明できる 2. チーム医療における理学療法士、作業療法士、看護師の役割を説明できる 3. 自身の職種の専門性を説明でき、他職種とどのように連携を図る必要があるか理解する									
学修者への期待等	本科目は、看護師、理学療法士、作業療法士を目指す学生が、多職種連携について共に学び合う貴重な機会となります。自身の専門性に加え、他職種の専門性に関する準備学修を充分行い主体的に臨みましょう。									
回	授業計画				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	チーム医療・患者中心の医療とは				事前学修:教科書 第1章 (p1-6) を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30	外里 富佐江	
2	チーム医療におけるコミュニケーション				事前学修:教科書 第1章 (p7-17) 読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30	外里 富佐江	
3	理学療法士の役割・専門性について				事前学修:教科書 第1章 (p21~38) を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30		
4	作業療法士の役割・専門性について				事前学修:教科書第3章 (p103-119) を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30	外里 富佐江	
5	看護師の役割・専門性について				事前学修:教科書3章A~Fを読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30	高橋 由美	
6	チーム医療の実際①:看護師からの視点				事前学修:ユニパにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30	高橋 由美	
7	チーム医療の実際②:理学療法士からの視点				事前学修:ユニパにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30		

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	チーム医療の実際③：作業療法士からの視点	事前学修:ユニバにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する	30	30	外里 富佐江
9	チーム医療の実際④：病院	事前学修:ユニバにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する	30	30	
10	チーム医療の実際⑤：在宅、地域医療	事前学修:ユニバにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する	30	30	外里 富佐江
11	事例検討 [1] 事例提示	事前・事後学修:これまでの授業を十分振り返り、復習して臨む	30	30	高橋 由美 外里 富佐江
12	事例検討 [2] グループワーク		30	30	高橋 由美 外里 富佐江
13	事例検討 [3] 発表準備		30	30	高橋 由美 外里 富佐江
14	事例検討 [4] 発表1	事前学修:グループワーク・発表内容を振り返る 事後学修:グループワーク・発表からの学びについてレポート提出	30	30	高橋 由美 外里 富佐江
15	事例検討 [5] 発表2・まとめ		30	60	高橋 由美 外里 富佐江
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり:キーワード(グループワーク、発表)				
教科書	『医療福祉をつなぐ関連職種連携 講義と実習にもとづく学習のすべて』北島政樹編、南江堂				
参考文献	『はじめてのIP 連携を学びはじめる人のためのIP入門』大嶋伸雄著、協同医書出版社 『リハベリック コミュニケーション論・他職種連携論』内山靖他編、医歯薬出版株式会社 『看護師のための多職種連携 攻略本』中山祐次郎監、CBR出版				
備考	・授業内課題は発表70%、他レポート等30%で評価し、適宜フィードバックします。 ・第1～6回、第11～15回はリハビリテーション学部と合同で実施する予定です。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師、理学療法士、作業療法士(病院等に5年以上勤務)として、チーム医療の実務経験を活かし、学生の理解を深められるような授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMb01				
	●		●							
科目名	地域・在宅看護学概論 I				単位認定者	小林 淳子		試験（筆記）	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	60 %
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	地域看護活動の理念、目的と地域アセスメントについて学び、地域の特性と健康との関連、地域で生活する人々と家族の健康について理解を深める。地域住民の健康を支える保健医療福祉の主要な法制度及び看護が提供される多様な場における地域看護活動について学び、地域・在宅看護学の基盤となる基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護活動の理念・目的を説明できる。 2. 地域の特性と健康との関連、地域で生活する個人と家族の健康について説明できる。 3. 地域住民の健康に関する主要な法と制度について説明できる。 4. 地域における多様な場の特性に応じた看護について説明できる。 									
学修者への期待等	本科目は、人々の健康と看護職の役割について、地域における暮らしと社会とのつながりの中で理解することが求められます。そのため、自分自身の生活や社会情勢の変化、関連する諸制度等に関心を持つよう期待します。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	地域看護活動の理念・目的・倫理				事前学修：地域・在宅看護の背景、地域・在宅看護における倫理について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する				30	30
2	地域アセスメントのモデル 地域の特性と健康との関連				事前学修：地域アセスメント、地域と生活と健康について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する				30	30
3	地域で生活する個人と家族の健康				事前学修：地域・在宅看護の対象者について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する				30	30
4	地域保健に関わる法と制度				事前学修：地域療養を支える法・制度について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する				30	30
5	地域住民の権利保障に関わる法と制度				事前学修：地域療養を支える法・制度について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する				30	30
6	地域の多様な場における看護活動①（行政）				事前学修：地域看護の実践、地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で指摘した内容を復習する				30	30
7	地域の多様な場における看護活動②（産業、学校、在宅）				事前学修：地域看護の実践、地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた重要ポイントについて復習する				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
8	まとめ 地域看護学、在宅看護学と地域・在宅看護学	事前学修：地域看護と在宅看護学、地域・在宅看護の背景について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）			
教科書	『ナースング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』石田千絵他編、メディカ出版			
参考文献	『系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1』川原加代子他著、医学書院			
備考	授業内課題は各回の提出物で評価し、次の授業の中でフィードバックを行います。 第2回の地域アセスメントではグループワークを行います。 この科目は地域・在宅看護学実習Ⅰの履修要件となっている。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
担当教員は看護師・保健師の資格と行政保健師として5年以上の実務経験を有しており、その経験を活かして学生が地域・在宅看護の概要についてイメージできるよう授業を行います。	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMb02				
	●	●	●							
科目名	地域・在宅看護学概論Ⅱ				単位認定者	高橋 由美		試験（筆記）	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	60 %
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	在宅療養を支える看護と、多職種との協働における看護の役割を学ぶ。在宅療養者と家族の様々なケアニーズに対応するため、家族を単位として地域での療養を支える看護の目的、役割・機能、倫理的視点、保健医療福祉等の主要な法制度など、地域・在宅看護学に関する基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養を支える看護の目的、対象、役割・機能を説明できる 2. 在宅療養を支える看護の基本となる理念、倫理的視点を理解できる 3. 地域で療養する様々な対象のケアニーズや必要な看護について理解できる 4. 在宅看護における家族看護の必要性や役割について理解できる 5. 在宅療養を支える諸制度や社会資源について理解し、多職種との協働における看護の役割を説明できる 6. 在宅看護における地域アセスメントの必要性について説明できる 									
学修者への期待等	地域・在宅看護学概論Ⅰに引き続き、在宅療養を支える看護活動の基礎的知識を学びます。さらに、地域・在宅看護学実習Ⅰに関連する科目になりますので、十分に準備学修を行い、主体的に臨みましょう。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	在宅療養を支える看護 ①目的・役割機能・基本理念				事前学修：教科書第3章1.2,3について予習する 事後学修：学修カードに学びをまとめて提出する			30	30	
2	在宅療養を支える看護 ②あらゆる背景を持つ様々な対象のニーズ				事前学修：教科書第4章1.2について予習する 事後学修：学修カードに学びをまとめて提出する			30	30	
3	在宅療養を支える看護 ③家族支援				事前学修：教科書第4章3.4について予習する 事後学修：学修カードに学びをまとめて提出する			30	30	
4	在宅療養を支える諸制度と社会資源 ～地域包括ケアシステムにおける多職種連携と地域共生社会～				事前学修：UNIPAの資料に目を通しておく 事後学修：学修カードに学びをまとめて提出する			30	30	
5	在宅看護に必要な地域アセスメント ①対象の地域生活を把握する「地区視診」の概要				事前学修：概論Ⅰ2回目の授業を復習する 事後学修：授業内課題（既存資料記録）に取り組む			30	30	
6	在宅看護に必要な地域アセスメント ②「地区視診」の実際				事前学修：5回目の授業を復習する 事後学修：授業内課題レポートを提出する			30	30	
7	在宅看護に必要な地域アセスメント ③地域特性が対象の健康ニーズに与える影響							30	30	
8	これからの地域・在宅看護の展望				事前学修：UNIPAの資料に目を通しておく 事後学修：学修カードに学びをまとめて提出する			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（地区視診・グループワーク）									
教科書	『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』石田千絵他編、メディカ出版									
参考文献	『国民衛生の動向 2025/2026』厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会 『看護師のための地域看護学』豊島康子編、ピラールプレス									
備考	授業内課題は、課題レポート（40%）、学修カード（20%）で評価し、適宜フィードバックします。第5回～第7回は地区視診・グループワークを行います。6・7回は2クラスにて実施します。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師（病院等に5年以上勤務）として、地域・在宅看護（訪問看護師・ケアマネジャー）の実務経験を活かし、具体例をあげながらわかりやすく説明する。

科目ナンバリング
NSMc02

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力
			●		●

科目名	成人看護学援助論				単位 認定者	佐藤 富美子		評価の 方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			

授業の概要
慢性的な健康障害を持つ人の看護、急性期・生命危機状態にある人の看護について理解を深める。呼吸機能等の障害により生活習慣の調整が必要な人、体液・電解質等のコントロールを必要とする人の看護、がん患者の看護について学ぶ。また、高度集中治療と倫理、手術療法によって身体の形態・機能に変化が生じた人の看護について学び、成人期の健康課題を有する人を援助するために必要な基礎的知識を学修する。

- 到達目標**
1. 呼吸機能等の障害により生活習慣の調整が必要な人の看護について説明できる。
 2. 体液・電解質等のコントロールを必要とする人の看護について説明できる。
 3. がん患者の看護について説明できる。
 4. 急性期・生命危機状態にある人の看護について説明できる。
 5. 手術療法によって身体の機能・形態に変化が生じた人の看護について説明できる。

学修者への期待等
関連科目である既習の専門基礎科目「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「看護学概論」、「成人看護学概論」および毎回の授業テーマについて教科書、UNIPAの配布資料で予習し、授業に臨むこと。
グループワーク前の課題にはしっかり取り組み、自分の考えを積極的に発言すること。
授業後には、授業であげたトピックに関する文献を検索、読み込んで理解を深めること。

回	授業計画	準備学修	事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	慢性的な健康障害をもつ人の看護 呼吸機能障害により生活習慣の調整が必要な人の看護	事前学修：教科書①第6章、第9章、UNIPA 配布資料を読んで予習する 事後学修：教科書・配布資料で復習する	90	30
2	体液・電解質のコントロールを必要とする人の看護	事前学修：教科書①第19章、UNIPA配布資 料を読んで予習する 事後学修：教科書・配布資料で復習する	60	30
3	血圧のコントロールを必要とする人の看護 循環機能障害により生活習慣の調整が必要な人の看護	事前学修：教科書①第10章、UNIPA配布資 料を読んで予習する 事後学修：教科書・配布資料で復習する	60	30
4	血糖のコントロールを必要とする人の看護 体重のコントロールが必要とする人の看護	事前学修：教科書①第13章、UNIPA配布資 料を読んで予習する 事後学修：教科書・配布資料で復習する	60	30
5	肝機能障害により生活習慣の調整が必要な人の看護 感染により生活習慣の調整が必要な人の看護	事前学修：教科書①第12章、第8章、 UNIPA配布資料を読んで予習する 事後学修：教科書・配布資料で復習する	60	30
6	がん患者の看護 がん化学療法を受ける患者の看護	事前学修：教科書①第7章、UNIPA配布資 料を読んで予習する 事後学修：教科書・配布資料で復習する	60	30
7	がん放射線療法を受ける患者の看護 ケアとしての代替療法(リラクゼーション演習含む)	事前学修：教科書①第7章、UNIPA配布資 料を読んで予習する 事後学修：教科書・配布資料で復習する	60	30
8	急性期・生命危機状態にある人の特徴と看護の役割 高度集中治療と倫理	事前学修：教科書①第4章、UNIPA配布資 料を読んで予習する 事後学修：教科書・配布資料で復習する	60	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
9	生命危機状態にある人の看護	事前学修：教科書①第4章、UNIPA配布資料を読んで予習する 事後学修：教科書・配布資料で復習する	60	30
10	意識障害・循環障害・呼吸障害・栄養障害がある人の看護	事前学修：教科書①第4章、UNIPA配布資料を読んで予習する 事後学修：教科書・配布資料で復習する	60	30
11	紙上事例検討 グループワーク 急性心筋梗塞事例 くも膜下出血事例	事前学修：各事例のアセスメント、看護計画についてレポートし、グループワークの準備をすること 事後学修：レポートをまとめる	90	60
12	手術療法によって身体の形態・機能に変化が生じた人の看護 呼吸機能障害・コミュニケーション障害	事前学修：教科書③第1章、第5章、UNIPA配布資料を読んで予習する 事後学修：教科書・配布資料で復習する	60	30
13	手術療法によって身体の形態・機能に変化が生じた人の看護 ボディイメージの変化	事前学修：教科書③第5章、UNIPA配布資料を読んで予習する 事後学修：教科書・配布資料で復習する	60	30
14	手術療法によって身体の形態・機能に変化が生じた人の看護 栄養摂取・消化吸收障害	事前学修：教科書③第3章、UNIPA配布資料を読んで予習する 事後学修：教科書・配布資料で復習する	60	30
15	手術療法によって身体の形態・機能に変化が生じた人の看護 運動機能障害、性機能障害	事前学修：教科書①第18章、第20章、UNIPA配布資料を読んで予習する 事後学修：教科書・配布資料で復習する	60	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）			
教科書	①『成人看護学』黒田裕子編、医学書院 ②『国民衛生の動向 2025/2026』厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会 ③『系統看護講座 別巻 臨床外科看護各論』北島政樹他編、医学書院			
参考文献	授業内で随時紹介する			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題は生命危機状態にある患者の2事例のアセスメントおよび看護計画についてレポートで評価し、各自にコメントしてフィードバックする。 ・授業に関する質問は主にミニットペーパーで確認し、次回授業内でフィードバックする。 			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

教員は成人看護学分野で5年の実務経験と看護師・保健師資格を有し、その経験を活かした実践的な授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力
			●		●

科目ナンバリング
NSMc03

科目名	成人看護学援助方法				単位認定者	阿部 春美 岡崎 優子	評価の方法	試験(筆記)	30 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数		2 単位	授業内課題	70 %
					授業形態	演習		授業時間数	60 時間	
								授業回数	30 回	

授業の概要
成人看護学援助論の学修を踏まえ、本科目では急性期に必要な医療機器を装着している人の看護、主要病態に対する応急処置と看護技術、自己検脈、血糖自己測定、ペースメーカーの管理、透析内シャントの管理、インスリン自己注射手技等のセルフケアを促進する技術について、演習を通して学ぶ。成人期の健康課題を有する人を援助する基礎的な実践能力を身につける。

- 到達目標**
- 急性期に必要な医療機器を装着している人の看護が説明できる
 - 周術期に必要な看護技術について実践できる
 - 救急・集中治療時に必要な看護技術について実践できる
 - 急性疾患を持つ患者の看護過程展開ができる
 - 慢性疾患を有する患者のセルフモニタリング技術について理解し、実践できる
 - 慢性疾患を有する患者のセルフケア技術について理解し、実践できる
 - 慢性疾患を持つ患者の看護過程展開ができる
 - 病態に合わせた患者指導・退院指導の指導過程を理解し、事例による患者指導が実践できる

学修者への期待等
成人看護学援助方法は看護を実践する力、看護問題を適切に解決する力を目標としており、関連科目の学びを積み重ねた学修が必要となります。シュミレータや看護モデルを有効に活用し、主体的に学修しましょう。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	急性期に必要な医療機器を装着している人の看護	事後学修：授業後学 び	0	30	阿部 春美
2	周術期の看護技術① 術後患者の観察・アセスメント	事前学修：周手術期 看護論「第2・4・5 回」の授業を復習、 教科書②第IV章を予 習 事後学修：課題レ ポート	60	30	阿部 春美 岡崎 優子 伊藤 茉莉子 遠藤 美穂子 泉田 さとみ 小倉 真紀
3	周術期の看護技術② 創管理、ドレーン管理	事前学修：基礎看護 技術IV「第8・10回」 の授業を復習、教科 書①第I章3.D.創管 理、E.ドレーン管理 を予習 事後学修：課題レ ポート	30	30	
4	周術期の看護技術③ 身体保清と寝衣交換	事前学修：教科書② 第2部 第IV章 11.日 常生活の援助と心理 的援助の予習 事後学修：課題レ ポート	30	30	
5	周術期の看護技術④ 早期離床、離床促進のための配慮	事前学修：課題レ ポート 教科書①第 II章3術後の看護技 術Gを予習 事後学修：課題レ ポート	60	30	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
6	周術期の看護技術⑤ ストーマケア、リンパ浮腫のケア	事前学修：課題レポート 病態治療学Ⅲ「第3回」の授業を復習、教科書①第I章3.F.排泄ケア、I.リンパ浮腫のケアを予習 事後学修：課題レポート	60	30	阿部 春美 岡崎 優子 伊藤 茉莉子 遠藤 美穂子 泉田 さとみ 小倉 真紀
7	救急・集中治療時の看護技術① 心肺蘇生法	事前学修：教科書③IX章、(救命救急処置)教科書①Ⅲ章の1.2(BLS,ALS)を予習。ナーシングスキル心肺蘇生を視聴。 トレーニングボトルで胸骨圧迫を練習 事後学修：課題レポート	60	30	
8	救急・集中治療時の看護技術② 気管吸引、止血・異物除去法、熱中症の対応	事前学修：教科書③第2部 第XII章 8.体温異常,9.外傷の予習 事後学修：課題レポート	30	30	
9	急性期疾患を持つ患者の看護展開① ガイダンス	事前学修：看護過程論、看護過程展開方法の授業の復習 事後学修：事例の病態・治療を記入	30	60	
10	急性期疾患を持つ患者の看護展開② アセスメント	事前学修：看護歴を記載 事後学修：看護歴を完成	60	60	
11	急性期疾患を持つ患者の看護展開③ 全体像	事前学修：全体像を記載 事後学修：全体像を完成	60	60	
12	急性期疾患を持つ患者の看護展開④ 看護診断	事前学修：看護問題を記載 事後学修：看護問題リストを完成	60	60	
13	急性期疾患を持つ患者の看護展開⑤ 看護計画	事前学修：看護計画を記載 事後学修：看護計画を完成	60	60	
14	慢性疾患を持つ患者のセルフモニタリング技術① 自己検脈、自己血圧測定、ピークフローモニタリング	事前学修：教科書①IV章1(患者教育が必要なセルフモニタリング技術)を予習 事後学修：課題レポート	30	30	
15	慢性疾患を持つ患者のセルフモニタリング技術② 血糖自己測定	事後学修：授業後学び	0	30	
16	慢性疾患を持つ患者のセルフケア技術① 呼吸・排痰法、吸入・在宅酸素療法(HOT)	事前学修：教科書①第IV章2-1.呼吸管理に関する技術を予習 事後学修：授業後学び	30	30	
17	慢性疾患を持つ患者のセルフケア技術② ペースメーカー植え込み術後の管理	事前学修：教科書①第I章 1-2.循環機能検査の予習、教科書④IV章3(ペースメーカーを装着している患者の援助) 事後学修：課題レポート	30	30	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
18	慢性疾患を持つ患者のセルフケア技術③ 透析内シャント管理、腹膜透析	事前学修：病態治療学Ⅲ「泌尿・生殖器」、周術期看護論を復習 事後学修：課題レポート	30	30	阿部 春美 岡崎 優子 伊藤 茉莉子 遠藤 美穂子 泉田 さとみ 小倉 真紀	
19	慢性疾患を持つ患者のセルフケア技術④ インスリン自己注射	事後学修：授業後学び	0	30		
20	慢性疾患を持つ患者のセルフケア技術⑤ フットケア	事後学修：授業後学び	0	30		
21	慢性疾患を持つ患者の看護展開① アセスメント	事前学修：看護歴を記載 事後学修：看護歴を完成	60	60		
22	慢性疾患を持つ患者の看護展開② 全体像	事前学修：全体像を記載 事後学修：全体像を完成	60	60		
23	慢性疾患を持つ患者の看護展開③ 看護診断	事前学修：看護問題を記載 事後学修：看護問題リストを完成	60	60		
24	慢性疾患を持つ患者の看護展開④ 看護計画	事前学修：看護計画を記載 事後学修：看護計画を完成	60	60		
25	病態に合わせた患者指導・退院指導の指導過程	事後学修：授業後学び	0	30		岡崎 優子
26	事例にみる患者指導の実際① 病態から見た看護の必要性	事後学修：授業後学び	0	30		阿部 春美 岡崎 優子 伊藤 茉莉子 遠藤 美穂子 泉田 さとみ 小倉 真紀
27	事例にみる患者指導の実際② 指導計画	事前・事後学修：指導計画の具体的な方法について検討	30	30		
28	事例にみる患者指導の実際③ グループワーク	事前・事後学修：指導計画の具体的な方法について検討	30	30		
29	事例にみる患者指導の実際④ 患者指導発表準備	事前学修：発表準備	60	0		
30	事例にみる患者指導の実際⑤ 患者指導の発表	事後学修：授業後学び	0	30		
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（反転授業、ディスカッション、実技、シミュレーション演習）					
教科書	①『看護学テキストNiCE 成人看護学 成人看護技術』野崎真奈美他編、南江堂 ②『看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護Ⅰ概論・周手術期看護』林直子他編、南江堂 ③『看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護Ⅱクリティカルケア』佐藤まゆみ他編、南江堂 ④『看護学テキストNiCE 成人看護学 慢性期看護』鈴木久美他編、南江堂 ⑤『看護データブック』神田清子他編、医学書院					
参考文献	なし					
備考	・授業内課題は次回の授業時またはUNIPA上でフィードバックします。 ・授業内課題は、レポート課題（60%）、授業後学び（10%）で評価します。 ・第1回・3回・6回・9回・25回・26回は、講義形式で行います。 ・第3回・4回・6回・8回・16回・17回は、反転授業を行います。 ・第10～13回・21～24回・27回は、反転授業およびディスカッションを行います。 ・第2回・5回・15回・17～20回は、実技・シミュレーション演習を行います。 ・第4回・5回・8回・14回・17回は、実技を行います。 ・第2回・第4回・5回・8回はA/Bの2グループ分けで実施します。 ・第2回、5回、7回、8回、14回～19回は上記の担当教員に加え、以下の教員が担当します。 非常勤助手：大石慶子、松田郷子					

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は成人看護学分野で5年以上の実務経験と、看護師としての資格を有しており、その経験を活かした実践的な授業を行います。（阿部、岡崎、伊藤、遠藤、泉田、小倉）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMd01				
	●		●							
科目名	老年看護学概論				単位認定者	齋藤 美華		試験（筆記）	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	人生100年時代を迎えつつある現代、高齢者は地域や社会の中で多様な価値観を持ち、一人一人異なるライフスタイルで生活している。本科目では、高齢者の生活と加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化や、保健・医療・福祉制度、老年看護の変遷について学修する。さらに、老年看護の特徴と倫理、関係法規など老年看護学に関する基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う高齢者の生活と健康状態の変化を説明できる 2. 老いの意味と老年期の多様性を理解し、高齢者に関心を持つことができる 3. 高齢者の様々な社会的な問題について多角的に捉え、支援の在り方を考察できる 4. 老年看護に関する保健医療福祉制度に関わる関係法規を説明できる 5. 老年看護の特徴と倫理、健康的な生活を支える看護の役割を説明できる 									
学修者への期待等	既習の解剖生理学を復習、確認して臨んでください。また、高齢者の理解を深めるために身近な高齢者へのライフストーリーインタビューを実施し、グループワークを行います。積極的に発表してください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	高齢者の理解－老年期の発達・変化、高齢者人口の推移、健康の指標				事前学修：既習の解剖生理学を復習して授業に臨む 事後学修：ライフストーリーインタビューの実施			60	30	
2	高齢者の理解－生活の視点、エンド・オブ・ライフの視点、生活質保障、家族				事前学修：第1回講義の教科書、配布資料を読んで授業に臨む 事後学修：ライフストーリーインタビューの実施			60	30	
3	加齢に伴う身体機能の生理的变化				事前学修：第2回講義の教科書、配布資料を読んで授業に臨む 事後学修：ライフストーリーインタビューの記録の整理			60	30	
4	加齢に伴う認知機能、精神的・社会的機能変化				事前学修：第3回講義の教科書、配布資料を読んで授業に臨む 事後学修：ライフストーリーインタビューの記録の整理			60	30	
5	高齢者の健康と生活				事前学修：第4回講義の教科書、配布資料を読んで授業に臨む 事後学修：ライフストーリーインタビューレポート作成			60	30	
6	高齢者を支える保健・医療・福祉の制度と変遷				事前学修：第5回講義の教科書、配布資料を読んで授業に臨む 事後学修：ライフストーリーインタビューレポート作成			60	30	
7	老年看護の倫理				事前学修：第6回講義の教科書、配布資料を読んで授業に臨む 事後学修：グループワーク資料を読む			30	30	
8	老年看護の特徴				事前学修：グループワーク資料を読み、自分の考えを整理した上で授業に臨む 事後学修：グループワーク後の学びの提出			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）									
教科書	『ナーシング・グラフィカ 老年看護学①：高齢者の健康と障害』堀内ふき他編、メディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 老年看護学②：高齢者看護の実践』堀内ふき他編、メディカ出版 『国民衛生の動向2025/2026』厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会									
参考文献	『高齢社会白書』内閣府編、内閣府									
備考	第8回は演習形式（グループワーク）で授業を行う。 授業内課題はライフストーリーインタビューを実施してのレポート（30%）、グループワーク後の学び（10%）で評価し、授業内で適宜フィードバックする。									

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

担当教員は老年看護学分野で5年以上の実務経験と、看護師および保健師の資格を有しており、その経験を活かして老年看護学に関する基礎的知識について理解が深められるよう教授します。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMd02				
			●		●					
科目名	老年看護学援助論				単位認定者	齋藤 美華 桑田 恵美子		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	加齢に伴う変化と生活機能への影響を踏まえ、住み慣れた地域で、高齢者が生き生きと生活するための援助方法を学修する。高齢者の生活機能の評価方法、健康維持と介護予防方法、さらに受療状況に応じた看護を学ぶ。高齢者に提供する多様な生活支援・介護予防サービスや看護と介護の協働、多職種連携等の老年看護の実践に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の生活機能の評価と健康維持と介護予防について説明できる。 2. 高齢者の加齢に伴う変化とそれに伴う生活機能への影響について説明できる。 3. 高齢者の健康段階に応じた看護を説明できる。 4. 多様な生活の場における高齢者の健康を支える看護について説明できる。 5. 認知症について理解を深め、当事者、家族をサポートするための看護師の役割について説明できる。 									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護に関する既習の知識を確認して臨んでください。事前に教科書を読んでくること。 ・老年期の看護過程の展開を通して高齢な対象の健康問題を査定し、看護計画立案に必要な基礎的知識を身につけることを期待します。特にアセスメント能力はしっかり身につけましょう。 									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	高齢者の生活— 生活機能と評価と高齢者の健康生活の維持と支援				事前学修：「老年看護学概論」の講義資料と教科書を復習した上で授業に臨む 事後学修：授業後には教科書と配布資料を用いて要点を復習する		60	60	齋藤 美華	
2	高齢者の健康段階に応じた看護— 健康維持・増進と介護予防				事後学修：授業後には教科書と配布資料を用いて要点を復習する		0	60	齋藤 美華	
3	高齢者の健康段階に応じた看護— 受療状況に応じた看護				事後学修：授業後には教科書と配布資料を用いて要点を復習する		0	60	齋藤 美華	
4	高齢者の健康段階に応じた看護— 急性期、回復期				事後学修：授業後には教科書と配布資料を用いて要点を復習する		0	60	齋藤 美華	
5	高齢者の健康段階に応じた看護— 慢性期、薬物療法				事後学修：授業後には教科書と配布資料を用いて要点を復習する		0	60	齋藤 美華	
6	高齢者の健康段階に応じた看護— End-of-life Care				事後学修：授業後の学び「高齢者のEnd-of-life Care」の考察を提出		0	60	齋藤 美華	
7	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護—在宅・介護保険施設・多職種連携 等				事前学修：教科書「地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護」を読んで臨む 事後学修：授業内の学びの提出		30	30	桑田 恵美子	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	地域で暮らす高齢者の生活を支援する地域包括支援センターの役割	事後学修：授業内の学びの提出	0	30	桑田 恵美子
9	認知症の人も家族も安心して暮らせる支援 —認知症当事者と家族、認知症当事者と家族の会から学ぶ—	事後学修：授業後には教科書と配布資料を用いて要点を復習する。授業後の学び「認知症の人への支援」の考察を提出	0	90	齋藤 美華
10	認知症の人も家族も安心して暮らせる支援方法	事後学修：授業後には教科書と配布資料を用いて要点を復習する	0	60	齋藤 美華
11	高齢者の生活機能を整える看護援助の意義—高齢者のもてる力をアセスメントする視点 健康と生活への影響	事後学修：授業後には教科書と配布資料を用いて要点を復習する	0	60	齋藤 美華
12	老年期の看護過程—分析 (問題の原因・援助の必要性・解決の方向性)	事後学修：事例を読み、『情報の解釈』をする	0	60	桑田 恵美子
13	生活機能障害のある高齢者の看護—老年期の看護過程-事例のアセスメント	事前学修：事例を読み、『情報の解釈』をする 事後学修：グループワークで得た学びをもとに加筆・修正する	90	90	桑田 恵美子
14	生活機能障害のある高齢者の看護—看護問題の抽出	事前学修：事例を読み、『情報の解釈』をする 事後学修：グループワークで得た学びをもとに加筆修正。 『看護問題の明確化』の検討	90	90	桑田 恵美子
15	生活機能障害のある高齢者の看護—老年期の看護過程の視点-看護計画の立案・まとめ	事前学修：『看護問題の明確化』と『看護目標』の検討 事後学修：『看護計画の立案』	60	90	桑田 恵美子
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）				
教科書	『ナーシング・グラフィカ 老年看護学①：高齢者の健康と障害』堀内ふき他編、メディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 老年看護学②：高齢者看護の実践』堀内ふき他編、メディカ出版 『国民衛生の動向2025/2026』厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会				
参考文献	『高齢社会白書』内閣府編、内閣府 『生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図』山田律子他編、医学書院				
備考	・授業内課題は、授業後の学び(10%)、看護過程の完成度(30%)で評価する。 ・授業内課題は次回の授業でフィードバックする。 ・第8回はゲストスピーカー（高橋秀仁先生）を招き、講義を展開する。 ・第13～15回はグループワーク形式で授業を行う。 ・第12～15回非常勤助手1名				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は老年看護学分野で5年以上の実務経験と、看護師としての資格を有しており、その経験を活かして老年看護学の実践に必要な基礎的知識・技術が修得できるよう教授します。（齋藤・桑田）

学修成果	1	2	3	4	5
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力
			●		●

科目ナンバリング
NSMd03

科目名	老年看護学援助方法				単位認定者	桑田 恵美子 菅原 尚美		評価の方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	50 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	高齢者に特有な症状・疾患・障害として、廃用症候群・脱水症、低栄養・フレイル、転倒・転落、せん妄等がある。本科目では老年看護学援助論の学修を踏まえ、これらの高齢者特有の症状等に応じた看護の方法を学修する。事例や状況設定等の演習を通して老年看護の基礎的な実践能力を身につける。									
到達目標	1. 高齢者に特有な症状・疾患・障害（廃用症候群・脱水症、低栄養・フレイル、転倒・転落、せん妄等）の病態と要因、日常生活への影響、アセスメント、看護について説明できる。 2. 演習により生活機能障害のある高齢者の強みを活用した支援方法を実施し看護師の役割を説明できる。									
学修者への期待等	高齢者の看護において、高齢者に特有な症状・疾患・障害が生活にどのように影響しているか理解して支援することは重要である。高齢者自身の強みを活用した支援や、高齢者がセルフケア能力を取り戻すための支援について学修していきましょう。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	授業ガイダンス/ 高齢者の生活機能を整える看護援助の意義					事前学修：「老年看護学援助論」の講義資料と教科書を復習した上で授業に臨む		60	0	齋藤 美華
2	高齢者の食生活を支える看護 ：食事、脱水、摂食嚥下障害、低栄養、フレイル					事前学修：授業前に教科書「食生活を支える看護」を読み、基礎的内容を整理した上で授業に臨む		60	0	桑田 恵美子
3	摂食嚥下障害のある高齢者の看護 グループワーク・ディスカッション					事前学修：課題を読み、摂食・嚥下障害のある高齢者の自己学修をする 事後学修：グループワークの学びをもとに課題に取り組む		90	90	齋藤 美華 桑田 恵美子 菅原 尚美
4	高齢者の排泄を支える看護 ：排泄、尿失禁、排便障害（便秘・下痢・便失禁）					事前学修：授業前に教科書「排泄を支える看護」を読み、基礎的内容を整理した上で授業に臨む		60	0	桑田 恵美子
5	排便障害のある高齢者の看護 グループワーク・ディスカッション					事前学修：課題を読み、排便障害のある高齢者の自己学修をする 事後学修：グループワークの学びをもとに課題に取り組む		90	90	齋藤 美華 桑田 恵美子 菅原 尚美
6	高齢者の清潔・衣生活を支える看護 ：掻痒、痛み・しびれ、感染症					事前学修：授業前に教科書「清潔・衣生活を支える看護」を読み、基礎的内容を整理した上で授業に臨む		60	0	桑田 恵美子
7	皮膚掻痒感のある高齢者の看護 グループワーク・ディスカッション					事前学修：課題を読み、皮膚掻痒感のある高齢者の自己学修をする 事後学修：グループワークの学びをもとに課題に取り組む		90	90	齋藤 美華 桑田 恵美子 菅原 尚美

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	高齢者の活動と休息を支える看護 ：活動と休息、視覚・聴覚の障害、睡眠障害、せん妄	事前学修：授業前に教科書「活動と休息を支える看護」「せん妄」「視覚・聴覚障害と看護」を読み、基礎的内容を整理した上で授業に臨む	90	0	桑田 恵美子
9	視覚・聴覚障害のある高齢者の看護 グループワーク・ディスカッション	事前学修：課題を読み、視覚・聴覚障害のある高齢者の自己学修をする 事後学修：グループワークの学びをもとに課題に取り組む	90	90	齋藤 美華 桑田 恵美子 菅原 尚美
10	高齢者の歩行・移動を支える看護 ：歩行・移動、骨粗鬆症、廃用症候群、転倒・転落	事前学修：教科書「歩行・移動を支える看護」を読んで臨む 事後学修：小テストに取り組み授業内容を復習する	30	30	齋藤 美華 菅原 尚美
11	歩行・移動に障害のある高齢者の看護 グループワーク・ディスカッション	事前学修：日常生活の中で高齢者の歩行・姿勢を観察して臨む 事後学修：グループワークの学びをまとめ提出する	30	30	齋藤 美華 桑田 恵美子 菅原 尚美
12	高齢者の呼吸・循環機能障害を支える看護 ：肺炎、COPD、高血圧	事前学修：教科書「呼吸・循環障害と看護」を読み、課題（高齢者の呼吸器感染予防と減塩食等）を調べて臨む 事後学修：小テストと課題に取り組む	60	30	齋藤 美華 菅原 尚美
13	高齢者の呼吸・循環機能障害を支える看護 ：脳卒中、不整脈、心不全	事前学修：教科書「呼吸・循環障害と看護」を読み、課題（高齢者の呼吸器感染予防と減塩食等）を調べて臨む 事後学修：小テストと課題に取り組む	30	30	齋藤 美華 菅原 尚美
14	生活機能障害のある高齢者の看護 グループワーク・ディスカッション	事前学修：倫理的課題について教科書と講義資料を復習した上で授業に臨む	60	0	齋藤 美華 桑田 恵美子 菅原 尚美
15	生活機能障害のある高齢者の看護の実際 グループワーク・プレゼンテーション・ディスカッション	事前学修：グループワークの資料を読み自分の意見を整理する 事後学修：グループワークの学びをもとに課題に取り組む	30	30	齋藤 美華 桑田 恵美子 菅原 尚美
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション）				
教科書	『ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害』堀内ふき他編、メディカ出版 『ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践』堀内ふき他編、メディカ出版				
参考文献	『看護学テキストNiCE 老年看護学技術』正木治恵他編、南江堂 『手技と事例で学ぶ 実践！高齢者のフィジカルアセスメントー老化を理解して、異常を見逃さない！』角濱春美著、メディカ出版 『カラー写真で学ぶ高齢者の看護技術』大塚眞理子著、医歯薬出版				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・第1、2、4、6、8、10、12、13回の授業は講義形式で行う。 ・授業内課題は、小テスト（10%）、レポート課題（40%）で評価する。 ・授業内課題の小テスト、レポート課題については次回授業時にフィードバックする。 				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は老年看護学分野で5年以上の実務経験と、看護師としての資格を有しており、その経験を活かして高齢者及び老年看護の役割の理解、臨床現場に繋げることができるような実践的な授業を行います。（桑田、齋藤、菅原）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMe01				
	●		●							
科目名	小児看護学概論				単位認定者	佐藤 幸子		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
							授業時間数		15 時間	
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	小児看護の特徴と課題、小児各期の発達段階の特徴について学修する。また、小児の健康と周囲の環境との関係性、子どもの権利条約、小児やその家族の人権擁護者としての倫理的判断・行動の根拠を学び、小児看護学に関する基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 小児看護の特徴と課題が説明できる 2. 小児各期の発達段階の特徴を説明できる 3. 小児の健康と環境との関連性について説明できる 4. 子どもの権利条約を基に、看護者としての倫理的判断や行動について説明できる									
学修者への期待等	小児看護学の目的論および対象論を学ぶ科目です。小児看護学援助論や小児看護学援助方法を学ぶ際に必要となる基礎的な知識となります。事前に準備学修に示した教科書等を熟読して授業に臨んでください。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	小児看護学の理念と目標 (小児看護の対象である子どもと家族の特徴)				事前学修：教科書第1章A～Cを予習して臨む 事後学修：講義中の国試問題やUNIPAによる小テストの解答を教科書や資料を基に確認する				30	30
2	小児看護の特徴と課題				事前学修：教科書第1章E第6章を予習して臨む 事後学修：講義中の国試問題やUNIPAによる小テストの解答を教科書や資料を基に確認する				30	30
3	子どもの権利擁護				事前学修：教科書第1章Dを予習して臨む 事後学修：講義中の国試問題やUNIPAによる小テストの解答を教科書や資料を基に確認する				30	30
4	子どもの成長と発達 乳児期にある子どもの成長発達の特徴				事前学修：教科書第2・3章を予習して臨む 事後学修：講義中の国試問題やUNIPAによる小テストの解答を教科書や資料を基に確認する				30	30
5	幼児期にある子どもの成長発達の特徴				事前学修：教科書第4章Aを予習して臨む 事後学修：講義中の国試問題やUNIPAによる小テストの解答を教科書や資料を基に確認する				30	30
6	学童期にある子どもの成長発達の特徴				事前学修：教科書第4章Bを予習して臨む 事後学修：講義中の国試問題やUNIPAによる小テストの解答を教科書や資料を基に確認する				30	30
7	思春・青年期にある子どもの成長発達の特徴				事前学修：教科書第5章を予習して臨む 事後学修：講義中の国試問題やUNIPAによる小テストの解答を教科書や資料を基に確認する				30	30
8	子どもを取り巻く社会と制度				事前学修：教科書第7章を予習して臨む 事後学修：講義中の国試問題やUNIPAによる小テストの解答を教科書や資料を基に確認する				30	30
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論』奈良間美保他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論』奈良間美保他著、医学書院									
参考文献	『保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』本郷一夫編著、建帛社									
備考	授業内課題は、小テスト（20%）、授業后感想（10%）で評価する。 小テストについては、次回授業時にフィードバックする。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
 この授業では、小児看護を実践するために必要な知識・技術・態度を学修する。そのため教員は看護師・保健師としての7年以上の実務経験を活かし、臨床現場で活用できる授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMe02				
			●		●					
科目名	小児看護学援助論				単位認定者	武田 美奈子		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	本科目では、小児看護の実践に必要な知識を学修する。小児特有の疾患の病態・検査・治療に関する基礎的知識と、主な疾患についての基本的な看護を学修する。また、小児患者家族への理解を深めながら、小児患者を持つ家族への看護方法について学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの代表的疾患について、病態・検査・治療が理解できる。 2. 1の知識を基に、子どもによくみられる症状や子どもの特徴に合わせた看護が説明できる。 3. 講義を基に小児特有の援助技術をモデル人形等を使って実施できる。 									
学修者への期待等	この科目は小児看護学概論で修得した知識を基に、健康障がいを持つ子どもへの援助に必要な基礎的知識を学ぶ科目です。事前に教科書などを熟読して授業に臨んでください。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	小児科とは				事前学修：小児が大人(成人)とどのように異なるかを十分に理解し、小児医学の特徴を把握すること。		30	0	飯沼 一字	
2	先天異常・遺伝病 新生児疾患の病態・検査・治療				事前学修：胎児の発達、遺伝の仕組み、新生児特有の生態を理解すること。		30	0	飯沼 一字	
3	免疫・アレルギー疾患の病態・検査・治療				事前学修：基礎医学で学んだ免疫応答の仕組みを十分に理解しておく。		30	0	飯沼 一字	
4	感染症の病態・検査・治療				事前学修：感染症とはなにか。人類と感染症の相互関係について理解しておく。		30	0	飯沼 一字	
5	呼吸器・循環器疾患の病態・検査・治療				事前学修：小児の呼吸機能、循環動態について理解しておく。		30	0	飯沼 一字	
6	消化器・内分泌疾患の病態・検査・治療				事前学修：消化器の構造、機能および内分泌の仕組みについて理解しておく。		30	0	飯沼 一字	
7	血液・腫瘍疾患の病態・検査・治療				事前学修：血液の役割、成分、腫瘍とは何か(悪性と良性の相違)を理解しておく。		30	0	飯沼 一字	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	腎・泌尿器疾患の病態・検査・治療	事前学修：腎臓の構造と機能を理解しておく。	30	0	飯沼 一字
9	神経・筋・運動器疾患の病態・検査・治療	事前学修：】中枢・末梢神経および筋に至る構造と機能を理解しておく。	30	0	飯沼 一字
10	精神疾患・心身症・虐待の病態・検査・治療	事前学修：こころの問題について自分と他人との関係など思いめぐらせておく。	30	0	飯沼 一字
11	子どもによく見られる症状のアセスメントとケア① (呼吸・循環：発熱・呼吸困難・ショック・脱水)	事前学修：教科書[1]総論第5章④⑧⑫⑯を予習して臨む 事後学修：学修カードに学びの整理	30	10	武田 美奈子
12	子どもによく見られる症状のアセスメントとケア② (食・排泄：嘔吐・下痢・便秘)	事前学修：教科書[1]総論第5章⑤⑥⑦を予習して臨む 事後学修：学修カードに学びの整理	30	10	武田 美奈子
13	子どもによく見られる症状のアセスメントとケア③ (神経・運動器：痙攣・痛み)	事前学修：教科書[1]総論第5章③⑫を予習して臨む 事後学修：学修カードに学びの整理	30	10	武田 美奈子
14	子どものフィジカルアセスメント (バイタルサイン測定・身体計測他)	事前学修：教科書[1]総論第4章を予習して臨む 事後学修：学修カードに学び整理	30	10	岡崎 草代夏
15	検査・処置を受ける子どもの看護 (与薬・輸液管理・抑制・検体採取他)	事前学修：教科書[1]総論第6章予習して臨む 事後学修：学修カードに学び整理	30	10	岡崎 草代夏
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）				
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論』 奈良間美保他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論』 丸光恵著、医学書院				
参考文献	『エビデンスに基づく小児看護ケア関連図』山口桂子他編、中央法規 『写真でわかる小児看護技術アドバンス』山元恵子監、インターメディカ				
備考	授業内課題は、小テスト(20%)、授業后感想(10%)で評価します。 小テストについては、次回授業時にフィードバックします。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

- ・教員は小児看護分野において10年以上の実務経験と看護師資格を有しており、その経験を活かしたアセスメントやケアについて実践的な授業を行います。(武田)
- ・教員は看護分野において8年以上の実務経験と看護師資格を有しており、その経験を活かした看護技術について授業を行います。(岡崎)

科目ナンバリング
NSMe03

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力
			●		●

科目名	小児看護学援助方法				単位 認定者	武田 美奈子 岡崎 草代夏		評価の 方法	試験（筆 記）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	40 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	

授業の概要 小児の健康障害の種類と段階に応じた援助方法を学修する。また、特殊な状況でのアセスメントの視点やプレパレーションの意義と目的について学ぶ。小児看護学援助論の学修を踏まえ、小児特有の援助技術の方法を学び、演習を通して小児看護の基礎的な実践能力を身につける。

到達目標

1. 小児の健康障害の種類と段階に応じた経過、特殊な状況によって生じる問題を理解し、その援助方法が説明できる。
2. 知識を統合として事例をもとにアセスメントを行い、子どもとその家族に対しての看護が考えられる。

学修者への期待等 この科目は看護を実践するための方法論を学ぶ科目です。小児看護学概論・小児看護学援助論の知識が関連してくるため、事前学習とともに復習も含め準備して臨んで下さい。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	子どもの入院と看護、外来における看護	事前学修：教科書[1] 総論第1・2章を予習して臨む 事後学修：学修カードへ学びの整理	30	10	佐藤 幸子
2	慢性期にある子どもとその家族への看護 (呼吸器、アレルギー、内分泌疾患、腎疾患のある子どもと家族の看護)	事前学修：教科書[1] 総論第3章Aを予習して臨む 事後学修：学修カードへ学びの整理	30	10	佐藤 幸子
3	急性期にある子どもとその家族への看護 (肺炎、髄膜炎、急性腹症の子どもと家族の看護、一次救急含む)	事前学修：教科書[1] 総論第3章Bを予習して臨む 事後学修：学修カードへ学びの整理	30	10	佐藤 幸子
4	周手術期にある子どもと家族の看護（総論）	事前学修：教科書[1] 総論第3章Cを予習して臨む 事後学修：学修カードへ学びの整理	30	10	岡崎 草代夏
5	周手術期にある子どもと家族の看護 (先天性心疾患、消化器疾患、ヘルニアの子どもと家族の看護)	事前学修：教科書[1] 総論第3章Cを予習して臨む 事後学修：学修カードへ学びの整理	30	10	岡崎 草代夏
6	終末期にある子どもと家族の看護 (小児がんの子どもと家族の看護)	事前学修：教科書[1] 総論第3章Dを予習して臨む 事後学修：学修カードへ学びの整理	30	10	岡崎 草代夏
7	ハイリスク新生児と看護 (先天異常・遺伝病 新生児疾患の子どもと家族の看護)	事前学修：教科書[2] 第1・2章を予習して臨む 事後学修：学修カードへ学びの整理	30	10	武田 美奈子

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	在宅における子どもと家族の看護 (神経筋疾患、染色体異常の子どもと家族の看護)	事前学修：教科書[1] 総論第2章C, 教科書[2] 第1・13章を予習して 臨む 事後学修：学修カード へ学びの整理	30	10	武田 美奈子
9	子どもへの感染症と看護	事前学修：教科書[2] 第6章を予習して臨む 事後学修：学修カード へ学びの整理	30	10	武田 美奈子
10	災害を受けた子どものケア (ASD、PTSD等メンタルケアを含む)	事前学修：教科書[1] 総論第2章Dを予習して 臨む 事後学修：学修カード へ学びの整理	30	10	武田 美奈子
11	子どもへのプレパレーションの実施 (グループワーク・演習)	事前学修：教科書[1] 動画一覧5・6・7を視 聴して臨む 事後学修：学修カード へ学びの整理	30	10	武田 美奈子 岡崎 草代夏
12	看護過程の展開① セルフケア理論の理解	事前学修：1年次に学 修した看護過程の内容 を復習して臨む 事後学修：学修カード へ学びの整理	30	10	武田 美奈子 岡崎 草代夏
13	看護過程の展開② 事例展開の方法	事前学修：なし 事後学修：授業内課題 に取り組む	0	90	武田 美奈子 岡崎 草代夏
14	看護過程の展開実技① 事例を使ってグループワーク (患児のアセスメント)	事前学修：授業内課題 を完了させ臨む 事後学修：学修カード へ学びの整理	90	10	武田 美奈子 岡崎 草代夏
15	看護過程の展開実技② グループワーク内容の発表 (患児のアセスメント) 看護過程の展開のまとめ	事前学修：なし 事後学修：解説・発表 を聴き、授業内課題へ 補足し提出する	0	60	武田 美奈子 岡崎 草代夏
アクティブ・ ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）				
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論』 奈良間美保他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論』 奈良間美保他著、医学書院				
参考文献	『エビデンスに基づく小児看護ケア関連図』山口桂子他編、中央法規 『根拠と事故防止からみた小児看護技術』浅野みどり編、医学書院 『ナーシング・グラフィカ 小児看護学①：小児の発達と看護』中野綾美編、メディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 小児看護学②：小児看護技術』中野綾美編、メディカ出版				
備考	第1～10回、12,13回は、講義形式で行う。 授業内課題は、レポート課題（30%）、授業後感想（10%）で評価し、適宜フィードバックする。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

- ・看護師・保健師としての7年以上の実務経験を活かし、子どもの病棟・外来での看護、慢性期・急性期にある子どもとその家族への看護の実践方法について教授する。（佐藤）
- ・看護師としての10年以上の実践経験を活かし、ハイリスク新生児・在宅・感染症・災害を受けた子どもやその家族への看護の実践方法について教授する。（武田）
- ・看護師としての8年以上の実践経験を活かし、特殊な状況にある子どもやその家族への看護の実践方法について教授する。（岡崎）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMf01				
	●		●							
科目名	母性看護学概論				単位認定者	田辺 圭子		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	50 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	母性看護の基盤であるリプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念、母性看護の意義・特性等、母性看護学に関する基礎的知識を学修する。母性看護の現状と動向、女性のライフステージにおける性と生殖に関する健康の在り方や、家族を含めた女性の生涯にわたる健康支援について基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念を中心に、現状と動向、関連する法や施策について理解できる。 2. 女性のライフサイクル各期の特徴とその支援について理解できる。 3. ウィメンズヘルスに関する健康課題を理解できる。 4. 対象となる個人や家族を支援するために必要な概念や方法を知り、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する自己の考えを深めることができる。 									
学修者への期待等	母性看護にかかわる社会的な事象に興味や関心を持ち、事前に教科書やUNIPAへ掲載した資料に目を通し、セクシャルリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から、母性看護の対象となる人々の健康について考えることができるようにして授業に臨んでください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	母性看護の基盤となる概念Ⅰ (母性とは・母子関係と家族発達・母性看護のあり方)				事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと			30	0	
2	母性看護の基盤となる概念Ⅱ (セクシュアリティ・リプロダクティブヘルス/ライツ)				事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと 事後学修：リプロダクティブヘルス/ライツの概念を復習する			30	30	
3	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状				事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと			30	0	
4	母性看護の対象理解 (女性のライフサイクルと家族・母性の発達・成熟・継承)				事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと 事後学修：性周期についてホルモン動態を含め復習しておくこと			30	30	
5	女性のライフステージ各期における看護 (思春期・成熟期・更年期・老年期)				事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと 事後学修：更年期障害の定義や症状を復習しておくこと			30	30	
6	リプロダクティブヘルスケア (性感染症・家族計画・予期せぬ妊娠)				事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと 事後学修：主な性感染症について復習しておくこと			30	30	
7	リプロダクティブヘルスケア (性暴力・児童虐待)				事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと			30	0	
8	母子保健に関する法律と施策・母子保健統計				事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと 事後学修：関係法規について教科書の付録を参考にして復習しておくこと			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(効果確認)									
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論』森恵美著、医学書院									
参考文献	『母子保健の主なる統計 令和7年刊行』母子衛生研究会編、母子衛生研究会									
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義形式であるが、事象に対する考えや意見をワーク(効果確認)として取り入れる。 ・授業内課題は小テスト(関連する国家試験問題30%)と授業後の学びや感想(20%)で評価する。 ・授業内課題は講義時またはUNIPAにてフィードバックするので確認すること。 									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

教員は母性看護分野で20年の実務経験と看護師・助産師資格を有しており、その経験を生かし母子保健に関する社会に即した授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMF02				
			●		●					
科目名	母性看護学援助論				単位認定者	田辺 圭子		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	10 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	<p>時代の変遷とともに、生涯を通じての性と生殖に関する健康をまもるという観点から、母性看護の対象や母性看護の役割が拡大している。本科目では、母性看護の対象を身体的・心理的・社会的・文化的側面から広範囲にとらえアセスメントする能力を学ぶ。また、妊娠・分娩・産褥・新生児期を中心として、各期の特徴や健康問題に対する看護援助方法を含め、母性看護の実践に必要な基礎的知識を学修する。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期の母体の変化、心理・社会的特性、マイナートラブルやをハイリスク妊娠および異常を理解する。 2. 分娩機序と分娩経過、産婦の身体的、心理・社会的変化やハイリスク分娩および異常を理解する。 3. 産婦の身体的、心理・社会的変化と母乳栄養、乳汁分泌のメカニズムおよび異常を理解する。 4. 胎児の成長発達、新生児の生理的特徴と母体外生活適応過程および異常を理解する。 5. ハイリスク・異常妊産褥婦や異常新生児に対する看護を理解する。 									
学修者への期待等	<p>妊娠期から分娩期、産褥期、新生児期を中心とした母子の健康問題や発達課題と看護について、人体構造と機能Ⅲや母性看護学概論で学んだことを復習するとともに、事前に教科書やUNIPAへの掲載資料を読み、授業に臨むこと。</p>									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化				事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと		30	0	田辺 圭子	
2	妊娠期の看護①：妊娠期の身体的特性				事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと 事後学修：母体の生理的变化について教科書と資料で復習する		30	30	田辺 圭子	
3	妊娠期の看護②：妊娠期の心理的・社会的特性				事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと		30	0	田辺 圭子	
4	妊娠期の看護③：妊婦のアセスメントと看護の実際				事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと		30	0	田辺 圭子	
5	妊娠期の看護④：妊娠期の異常と看護				事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと 事後学修：ハイリスク妊娠や妊娠合併症について教科書と資料で復習する		30	30	田辺 圭子	
6	分娩期の看護①：分娩の要素、分娩の経過				事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと 事後学修：分娩の3要素について教科書と資料で復習する		30	30	田辺 圭子	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
7	分娩期の看護②：分娩が母児に及ぼす影響、産婦・胎児、家族のアセスメントと看護の実際	事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと	30	0	田辺 圭子
8	分娩期の看護③：分娩期の異常と看護	事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと	30	0	田辺 圭子
9	産褥期の看護①：産褥期の母体の生理的变化、産褥経過と褥婦のアセスメントと看護の実際	事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと 事後学修：退行性変化と進行性変化について教科書と資料で復習する	30	30	佐藤 理恵
10	産褥期の看護②：褥婦と家族、退院後の看護	事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと	30	0	佐藤 理恵
11	産褥期の看護③：産褥期の異常と看護	事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと	30	0	佐藤 理恵
12	新生児期の看護①：胎児の発育とその生理、診断とアセスメント	事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと 事後学修：胎外生活への適応について教科書と資料で復習する	30	30	坂村 佐知
13	新生児期の看護②：新生児のアセスメント	事前学修：教科書[2]の第5章を読んで授業に臨む 事後学修：新生児の定義・分類について教科書と資料で復習する	30	0	坂村 佐知
14	新生児期の看護③：新生児の異常と看護	事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと	30	0	坂村 佐知
15	特殊なニーズを持つ妊産婦と家族への支援	事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと	30	0	坂村 佐知
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）				
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論』森恵美他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論』森恵美他著、医学書院				
参考文献	『病気がみえるvol.9 婦人科・乳腺外科』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『病気がみえるvol.10 産科』医療情報科学研究所編、メディックメディア				
備考	授業内課題は、学びや感想（10%）で評価し、講義時またはUNIPAにてフィードバックするので確認すること。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

教員は看護師・助産師（病院等5年以上の実務経験）としての実務経験を活かし、実践的な授業を行います。（田辺、佐藤、坂村）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMF03				
			●		●					
科目名	母性看護学援助方法				単位認定者	田辺 圭子		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	50 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	周産期にある女性とその家族を対象に、発達課題や健康上の諸問題に焦点を当て、より良い健康生活を送れるようウェルネスの視点から看護を展開した援助方法を学修する。また、母性看護における特有な援助技術の修得のため、演習を通じて妊娠・産褥・新生児期に必要な看護技術と実践的なケア、母子保健活動の方法を学び、母性看護の基礎的な実践能力を身につける。さらに次世代の健全育成を目指した実践科学としての母性看護活動を理解する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の生理的な変化及び特徴について、対象のヘルスアセスメントができる。 2. 紙上事例をとおして情報を分析し、ウェルネス診断に基づいて計画立案までの看護過程の展開ができる。 3. 技術演習により、母性看護に特有な看護技術を修得できる。 									
学修者への期待等	母性看護学概論、母性看護学援助論で学んだ知識を統合し、母性看護学特有の看護技術に主体的に取り組み、質問事項や不足な技術を明確にし演習に臨むこと。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	母性看護に必要な技術：母性看護における看護過程				事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと 事後学修：ウェルネス看護診断について資料で確認する		30	30	田辺 圭子	
2	母性看護に必要な技術：情報収集・アセスメント技術				事前学修：教科書の該当ページおよびUNIPA掲載資料を読み授業に臨むこと 事後学修：紙上事例の情報を収集する		30	30	田辺 圭子	
3	事例による看護過程の展開（事例の説明）、グループワーク①（妊娠期のアセスメント）				事前学修：妊娠期のアセスメント項目を考える 事後学修：事例の妊娠期におけるアセスメントを完成する		30	60	田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知	
4	看護過程の展開 グループワーク②（産褥期のアセスメント）				事前学修：産褥期のアセスメント項目を考える 事後学修：事例の産褥期におけるアセスメントを完成する		30	60	田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知	
5	看護過程の展開 グループワーク③（新生児期のアセスメント）				事前学修：新生児期のアセスメント項目を考える 事後学修：事例の新生児期におけるアセスメントを完成する		30	60	田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知	
6	妊産婦の看護に関わる技術と保健指導				事前学修：事例の妊婦健康診査に関連する知識をまとめる		30	0	田辺 圭子	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
7	褥婦と新生児に関わる技術と保健指導	事前学修：事例の保健指導に関連する知識をまとめる	30	0	田辺 圭子
8	看護過程の展開 グループワーク④（看護診断）	事前学修：事例の看護診断を考える 事後学修：事例の看護計画を進める	30	60	田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知
9	母性看護技術演習・看護過程演習オリエンテーション	事後学修：事例の看護計画を完成する	0	60	田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知
10	妊産婦のケア：レオポルド触診法・児心音聴取・妊婦体験	事前学修：該当する演習の教科書の動画を視聴し、事前課題を行い演習に臨む	60	0	田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知
11	褥婦のケア：子宮復古の観察・悪露、浮腫の観察	事前学修：該当する演習の教科書の動画を視聴し、事前課題を行い演習に臨む	60	0	田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知
12	褥婦・新生児のケア：抱き方と更衣・授乳姿勢と排気法	事前学修：該当する演習の教科書の動画を視聴し、事前課題を行い演習に臨む	60	0	田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知
13	新生児のケア：新生児の観察と計測・清潔	事前学修：該当する演習の教科書の動画を視聴し、事前課題を行い演習に臨む	60	0	田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知
14	看護過程の展開 グループ発表（前半グループ）	事後学修：看護過程の課題レポートを作成する	0	60	田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知
15	看護過程の展開 グループ発表（後半グループ・まとめ）	事後学修：看護過程の課題レポートを作成する	0	60	田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク・ペアワーク・発表・技術演習）				
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論』森恵美他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論』森恵美他著、医学書院 『根拠と事故防止からみた母性看護技術』石村由利子編、医学書院				
参考文献	『ウェルネスからみた母性看護過程＋病態関連図』石村由利子他著、医学書院 『ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程』太田操他著、医歯薬出版株式会社 『病気がみえるVol.10 産科』医療情報科学研究所編、メディックメディア				
備考	第1回、2回は講義形式で授業を行う。 第6回は、教員によるデモンストレーション後、ペアワークを行う。 第7回は実際、看護過程の計画を元に紙上事例の保健指導案を考える（個人ワーク）。 第9回目は技術演習説明後に看護過程の展開 グループワーク⑤を実施する。 第10回、11回、12回、13回の技術演習はABの2クラス編成で行う（演習時には身だしなみをチェックする）。 演習の事前・事後課題は、指定された期日までに提出する（提出遅れは減点となる）。 授業内課題は、提出物（40%）と授業後の学びや感想（10%）で評価し、適宜フィードバックする。 非常勤助手：畑中晶子				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

教員は看護師・助産師（病院等5年以上の実務経験）としての実務経験を活かし、臨床に適応できる授業や演習を行います。（田辺、佐藤、坂村）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMg01			
	●		●						
科目名	精神看護学概論				単位 認定者	小松 容子		試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	授業内 課題等	20 %
					後期	授業時間数	15 時間	受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回		
授業の概要	メンタルヘルスの基本概念、精神保健医療福祉の変遷と看護、精神の健康とマネジメントなどの精神看護学に関する基礎を学ぶ。さらに、心のケアが必要な人々への看護を行う上で、看護者自身がメンタルヘルスについて洞察し、倫理的判断と行動をとるための基礎的知識を学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンタルヘルスの基本概念と精神保健医療福祉の歴史の変遷を理解し、現代社会におけるこころの健康課題について理解することができる。 2. 心の機能や人格発達、危機への対応、家族や集団の力動を踏まえて、メンタルヘルスの保持増進に向けた支援の方向性を理解できる。 3. 患者の人権尊重と倫理的行動の重要性を理解し、考察・討議することができる。 								
学修者への期待等	各回の授業テーマの該当部分について、事前にテキストを熟読してくる。								
回	授業計画				準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	こころの健康/現代社会とこころ				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する。 事後学修：授業後には内容の復習を行うこと。			60	60
2	心の機能と危機介入				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する。 事後学修：授業後には内容の復習を行うこと。			60	60
3	精神力動・集団力動・転移感情・支持的面接				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する。 事後学修：授業後には内容の復習を行うこと。			60	60
4	人格の発達とライフサイクルに応じたメンタルヘルス				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する。 事後学修：授業後には内容の復習を行うこと。			60	60
5	リエゾン精神看護				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する。 事後学修：授業後には内容の復習を行うこと。			60	60
6	家族のアセスメントと支援				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する。 事後学修：授業後には内容の復習を行うこと。			60	60
7	精神保健医療福祉に関する法制度				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する。 事後学修：授業後には内容の復習を行うこと。			60	60
8	精神保健医療福祉の歴史と患者の人権擁護				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する。 事後学修：授業後には内容の復習を行うこと。			60	60
アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（反転学習、ディスカッション）								
教科書	ナーシンググラフィカ精神看護学①『情緒発達と精神看護の基本』出口禎子他編、メディカ出版 ナーシンググラフィカ精神看護学②『精神障害と看護の実践』出口禎子他編、メディカ出版								
参考文献	なし								
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中にディスカッション時間を設ける。 ・反転学習を求める授業回がある。 ・知識の確認のための小テストを行い、授業内でフィードバックを行う。 								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、精神科医療の臨床で5年以上の看護師としての実務経験と、専門看護師（精神看護）の資格を有しており、その経験を生かした授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMg02				
			●		●					
科目名	精神看護学援助論				単位認定者	阿部 幹佳		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	精神的な健康問題を持つ人が抱える問題、精神疾患の病態と検査・治療について学ぶ。また、精神看護の展開として、援助関係の基本、患者－看護師関係における看護師の治療的な役割、社会における精神患者への支援等、心のケアが必要な人々に対する精神看護の実践に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 精神的健康問題を持つ人の病態、治療の知識を得、対象者の状態を解釈できるようになる。 2. 精神科疾患を有する人の援助方法について知識を得、状況に応じた援助方法を選択できるようになる。									
学修者への期待等	精神障害(疾患)とそのケアについて学修します。こころの病気は誰でもかかるものです。日頃からこころの病気に興味を持ち、身近な病気だということを授業を通して理解しましょう。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	精神障害の原因と分類				事前学修：教科書① p. 1-23抄読		60	0	村上 佑美	
2	症状性を含む器質性精神障害				事前学修：教科書① p. 37-51抄読		60	0	村上 佑美	
3	精神作用物質使用による精神および行動の障害				事前学修：教科書① p. 59-74抄読		60	0	村上 佑美	
4	統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害				事前学修：教科書① p. 74-88抄読		60	0	村上 佑美	
5	気分(感情)障害				事前学修：教科書① p. 88-98抄読		60	0	村上 佑美	
6	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現障害				事前学修：教科書① p. 99-107抄読		60	0	村上 佑美	
7	生理的障害および身体的要因に関する行動障害				事前学修：教科書① p. 107-112抄読		60	0	村上 佑美	
8	成人のパーソナリティおよび行動の障害／てんかん				事前学修：教科書① p. 112-118, 54-59抄読		60	0	村上 佑美	
9	知的障害／心理発達の障害／小児期及び青年期に発症する行動および情緒の障害				事前学修：教科書① p. 118-130抄読		60	0	村上 佑美	
10	精神科における検査・治療について				事前学修：教科書① p. 145-172抄読		60	0	村上 佑美	
11	精神障害(症状)と看護				事前学修：教科書④ p. 2-23抄読 事後学修：UNIPA小テストに取り組み復習する		30	30	阿部 幹佳	
12	薬物療法と看護				事前学修：教科書③ p. 137-150, 200-209抄読 事後学修：配布資料を用いて復習する		60	30	加藤 真理子	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
13	精神科病棟の環境とリスクマネジメント	事前学修：教科書③ p. 212-223抄読 事後学修：配布資料 を用いて復習する	60	30	加藤 真理子
14	自殺未遂・企図の理解と対応	事前学修：教科書② p. 80-85, ③p. 292- 300抄読 事後学修：UNIPA小テ ストに取り組み復習 する	60	30	阿部 幹佳
15	セルフケア看護理論（オレム/アンダーウッド、ド ロセア・オレム、ジョイス・トラベルビー）	事前学修：教科書④ p. 39-55抄読 事後学修：UNIPA小テ ストに取り組み復習 する	60	30	阿部 幹佳
アクティブ・ ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ディスカッション）				
教科書	①『学生のための精神医学』太田保之他編、医歯薬出版 ②『ナーシング・グラフィカ精神看護学①情緒発達と精神看護の基本』出口禎子他編、メディカ出版 ③『ナーシング・グラフィカ精神看護学②精神障害と看護の実践』出口禎子他編、メディカ出版 ④『精神看護学～学生-患者のストーリーで綴る実習展開～』田中美恵子著、医歯薬出版				
参考文献	『看護のための精神医学』中井久夫他著、医学書院				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・質問等は適宜全体にフィードバックする。 ・授業内課題は、UNIPA内小テストへの取り組み（10%）、第11-15回（除12回）のリアルタイムアンケート、ディスカッションへの参加（10%）で評価し、授業内で適宜フィードバックする。 				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

- ・担当教員は精神科医師として5年以上の実務経験を有しており、その経験を活かし学生が精神疾患・障害の特徴について理解を深められるよう教授します（村上）
- ・担当教員は、精神看護分野において5年以上の実務経験、看護師の資格を有しています。精神看護実践に必要な基礎的知識について、学生が具体的にイメージ出来るよう具体的な事例を挙げて教授します（阿部、加藤）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMg03				
			●		●					
科目名	精神看護学援助方法				単位認定者	阿部 幹佳 加藤 真理子		評価の方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	40 %
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	精神疾患を持つ患者の看護と入院形態、病棟環境の整備と行動制限等の治療的環境について学修する。また、プロセスレコードの記述を通して自己洞察していくことの重要性、精神科内での多職種連携の必要性について学ぶ。精神看護学援助論の学修を踏まえ、演習を通して、精神看護における実践能力を身につける。									
到達目標	1. 精神疾患の特徴や看護支援の概要について説明出来る。 2. 精神疾患の具体的事例について、個人やグループで情報収集・アセスメント・かかわり方を検討し、記載できる。									
学修者への期待等	精神看護の実践では、患者-看護師関係の成立とアセスメント能力が必須です。講義の復習を継続し、看護対象者を身体・心理・社会的側面から捉えた看護過程が展開できることを期待します。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	精神科看護の実践の特徴 ・精神科看護ケアの方法 ・セルフケアレベルの把握 ・患者-看護師関係の成立(4つのプロセス)				事前学修：教科書② p. 163-190, ④p. 2-50 抄読 事後学修：UNIPA小テストに取り組み復習する		30	30	阿部 幹佳	
2	治療の場としての精神科病棟 ・入院する精神障害者の特徴、治療的環境(環境整備、行動制限)とは				事前学修：教科書② p. 163-190抄読 事後学修：UNIPA課題に学びを記載する		30	30	阿部 幹佳	
3	プロセスレコードの意義と実際① ・プロセスレコードとは何か ・プロセスレコードをどう書くのか ・自分の感情を手掛かりにすることの意味				事前学修：教科書② p. 339-362抄読 教科書③p. 10-38抄読		60	0	阿部 幹佳 加藤 真理子	
4	プロセスレコードの意義と実際② 実習記録用紙を用いて、ロールプレイにおける実際の場面を記録する ・プロセスレコードを記録する ・プロセスレコードのアセスメント、考察を行ってみる				事後学修：ロールプレイの場면을想起し、プロセスレコードを記載する		0	60	阿部 幹佳 加藤 真理子	
5	疾患別看護① ・統合失調症の症状、治療と看護				事前学修：教科書② p. 39-44を読む 事後学修：配布資料を用いて復習する		30	30	加藤 真理子	
6	疾患別看護② ・気分障害の症状、治療と看護 ・抑うつ障害と双極性障害				事前学修：教科書② p. 45-53を読む 事後学修：配布資料を用いて復習する		30	30	加藤 真理子	
7	疾患別看護③ 統合失調症とその近縁の疾患を持つ人の看護 ・パーソナリティ障害				事前学修：教科書② p. 105-107を読む 事後学修：配布資料を用いて復習する		30	30	加藤 真理子	
8	疾患別看護④ 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害をもつ人の治療と看護 ・アルコール使用障害、強迫性障害、摂食障害				事前学修：教科書② p. 54-76を読む 事後学修：配布資料を用いて復習する		60	30	加藤 真理子	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
9	疾患別看護⑤ ・神経発達症の症状、治療と看護 自閉スペクトラム障害 (ASD)、注意欠如・多動症 (ADHD)、限局性学習障害 (SLD)	事前学修：教科書② p. 29-38を読む 事後学修：配布資料 を用いて復習する	30	30	加藤 真理子
10	治療を受ける人への看護 ・多職種によるチーム医療 ・さまざまな精神療法 (認知行動療法) ・さまざまな生活療法 (生活指導、作業療法、SST療法、レクリエーション療法) ・電気けいれん療法と看護	事前学修：②p. 263-274を読む 事後学修：UNIPA課題 に学びを記載する	30	30	阿部 幹佳
11	看護過程の展開 ・看護過程演習についてのオリエンテーション ・事例紹介と具体的な展開方法 ・事例情報の整理とアセスメント (グループワーク)	事前学修：教科書③ p. 2-8を読む 事後学修：配布資料 を用いて復習する	30	30	阿部 幹佳 加藤 真理子
12	(グループワーク) 看護過程の展開 ・セルフケアのアセスメント	事前学修：教科書③ p. 107-115を読む 事後学修：演習課題 を行う	30	90	阿部 幹佳 加藤 真理子
13	(グループワーク) 看護過程の展開 ・看護計画の立案	事前学修：教科書③ p. 141-147を読む 事後学修：演習課題 を行う	30	90	阿部 幹佳 加藤 真理子
14	看護過程の演習：発表会 (学びの共有)	事前学修：事例患者 のセルフケア項目毎 の援助内容をまとめ ておく	60	0	阿部 幹佳 加藤 真理子
15	看護過程の演習：発表会 (学びの共有・まとめ)	事後学修：精神看護 におけるセルフケア 能力に着目する意味 についてまとめてお く	0	60	阿部 幹佳 加藤 真理子
アクティブ・ ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード (ロールプレイ、グループディスカッション、グループワーク)				
教科書	①『ナーシング・グラフィカ精神看護学①情緒発達と精神看護の基本』出口禎子他編、メディカ出版 ②『ナーシング・グラフィカ精神看護学②精神障害と看護の実践』出口禎子他編、メディカ出版 ③『精神看護学～学生-患者のストーリーで綴る実習展開～』田中美恵子著、医歯薬出版				
参考文献	『自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード』長谷川雅美著、日総研				
備考	・第1、3、5～9回は講義形式とする。質問等は適宜全体にフィードバックする。 ・第2回はゲストスピーカー (足立健一先生) を招き、精神科病棟の実際について講義していただく。 ・第4回はロールプレイを行う。 ・第10回はゲストスピーカー (西田有吾先生) を招き、ペアワークを取り入れた講義を展開する。 ・第11～13回はグループディスカッションを行う。 ・授業内課題はUNIPA内小テストへの取り組み (17%)、リアルタイムアンケートへの参加、事後課題の内容、看護過程の内容、演習への参加で評価 (23%) し、適宜フィードバックする。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、精神看護分野において5年以上の実務経験、看護師の資格を有しています。これらの実務経験を踏まえ、臨床現場での具体的な事例や実践的視点を授業に取り入れることで、学生が精神看護学への理解を深め、看護実践につなげられるよう授業を行います。(阿部、加藤)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMh01			
			●	●	●				
科目名	看護過程展開方法				単位認定者	木下 美佐子 桑田 恵美子		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
						授業時間数	30 時間		
				授業形態	演習	授業回数	15 回		
授業の概要	看護過程論で学修した看護過程の基礎に加え、演習を通して実践判断につながる看護過程の展開方法を深めていく科目である。看護過程のアセスメントとして各看護理論に活用できる代表的な枠組みを紹介し、紙上事例に対し目的をもったアセスメントを行い、看護実践につなげていく展開方法を個人ワーク及びグループワークを通して身につける。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程のプロセスについて説明できる。 2. 看護過程の展開にゴードンの11の機能的健康パターンを用いることができる。 3. 演習を通して、看護過程を展開する具体的な方法を考え、実施することができる。 4. 演習を通して臨床判断に結びつく、論理的、批判的思考を身につけることができる。 								
学修者への期待等	1年生で学んだ「看護過程論」を土台として、複雑な背景をもつ対象に対し、演習を通してスムーズな臨床判断に結びつく思考過程を身に付けてほしいと思います。この科目の学修には、1年次に学んだ「看護過程論」の復習が必須です。また、グループワークの演習で、課題達成に向けた役割が果たせるよう期待します。								
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	看護過程論の振り返りとゴードンの11の機能的健康パターンについて				事前学修：1年次の「看護過程論」の教科書、資料を読み返し、整理して授業に臨む。 事後学修：課題作成・提出		30	60	木下 美佐子
2	アセスメント（データ収集）				事後学修：教科書「アセスメント：データ収集」を読む。事例展開の課題に取り組む		0	60	木下 美佐子
3	アセスメント（人間の反応の理解）				事後学修：教科書「アセスメント：人間の反応の理解」を読む。事例展開の課題に取り組む		0	60	木下 美佐子
4	アセスメント（人間の反応の解釈・分析）				事後学修：教科書「アセスメント：人間の反応の解釈・分析・判断」を読む。事例展開の課題に取り組む		0	60	木下 美佐子
5	アセスメント（人間の反応の判断・関連性の把握）				事後学修：教科書「アセスメント：関連性の把握・関連図」を読む。事例展開の課題に取り組む		0	60	木下 美佐子
6	看護上の問題点の明確化				事後学修：教科書「看護問題を含む健康上の問題の把握」を読む。事例展開の課題に取り組む		0	60	桑田 恵美子
7	看護診断について				事後学修：教科書「看護診断」を読む。事例展開の課題に取り組む		0	60	桑田 恵美子
8	看護目標・成果指標の設定				事後学修：教科書「目標・成果・成果指標設定」を読む。事例展開の課題に取り組む		0	60	桑田 恵美子

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
9	看護計画の立案	事後学修：教科書「看護計画の立案」を読む。事例展開の課題に取り組む	0	60	桑田 恵美子
10	看護の介入、評価	事後学修：教科書「看護介入の実施」「評価」を読む。事例展開の課題に取り組む	0	60	桑田 恵美子
11	紙上事例を用いた看護過程の展開（アセスメント）	事前学修：事例Bの疾患、治療、検査、看護について整理する 事後学修：事例の情報整理、アセスメントを整理する	30	30	阿部 幹佳 菅原 尚美 伊藤 茉莉子 岡崎 草代夏 坂村 佐知 東海林 美幸
12	紙上事例を用いた看護上の問題点の明確化	事前学修：GWの準備として看護上の問題点を明確化する 事後学修：GWを踏まえ看護上の問題点を整理する	30	30	
13	紙上事例を用いた看護目標・成果指標の設定	事前学修：GWの準備として看護目標を設定する 事後学修：GWを踏まえ成果指標を整理する	30	30	
14	紙上事例を用いた看護計画の立案、介入、評価	事前学修：GWの準備として看護計画を立案する 事後学修：GWを踏まえ看護計画を整理する	30	30	
15	看護過程展開方法のまとめ	事前学修：学びの共有のためプレゼンテーションの準備をする 事後学修：学びの共有を踏まえ事例展開を完成する	30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、事例展開演習、プレゼンテーション）				
教科書	①『看護がみえるvol.4 看護過程の展開』医療情報科学研究所編、メディックメディア ②『ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術I』松尾ミヨ子他編、メディカ出版				
参考文献	『看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン』マジョリー・ゴードン著、照林社				
備考	紙上事例は教育用電子カルテを用い、授業1回から15回まで事例展開演習を行います。1回～10回は個人ワークを主として行い、11回～15回まではグループワークを行います。授業内課題は、1回～10回の提出物とA事例展開（70%）、11回～15回のB事例展開（30%）で評価し、適宜フィードバックします。この科目は領域横断看護実習の履修要件となっている。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師としての実務経験5年以上を活かし、学生が看護するうえでの基本となる看護展開技術について理解が深められるよう授業展開する。(木下、桑田、阿部、菅原、伊藤、岡崎、坂村、東海林)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMh02				
	●		●							
科目名	家族支援論				単位認定者	古瀬 みどり		試験(筆記)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	40 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	家族には一人の個人と同様に、誕生し、成長しながら様々な課題に取り組み、老いて終結するライフコースがある。その上で、家族課題等様々な状態にある家族を支援する看護について学ぶ。家族支援を行う際の家族と支援者との関係づくり、相互作用を理解し、様々な健康レベルや発達段階にある多様な家族の問題に対応できるための家族支援に関する基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 現代の家族がおかれている状況と課題について説明できる。 2. 家族も援助の対象であることを理解し、対象理解のための基本的なアセスメント法を説明できる。 3. 家族看護を支える理論と介入法を説明できる。									
学修者への期待等	今後展開される臨地実習において対象を理解するための、基礎的な知識を学ぶ科目です。限られた授業時間になりますので、授業をただ聞いて終わるのではなく、教科書にも必ず目を通し復習する習慣を身につけてください。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員	
1	家族とは、家族の機能と役割				事後学修：教科書復習		0	30	滝口 克典	
2	現代家族の特徴、多様化するライフコースと家族				事後学修：教科書復習		0	30	滝口 克典	
3	ケアと家族				事後学修：教科書復習		0	30	滝口 克典	
4	母親・父親と社会				事後学修：教科書復習		0	30	滝口 克典	
5	子どもと社会				事後学修：教科書復習		0	30	滝口 克典	
6	家族看護とは、家族看護の対象を理解するには				事後学修：教科書復習		0	30	古瀬 みどり	
7	家族看護を支える理論と介入法				事後学修：教科書復習		0	30	古瀬 みどり	
8	家族看護理論を用いた実践事例とまとめ				事後学修：教科書復習		0	30	古瀬 みどり	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ()									
教科書	「家族看護学」上別府圭子他著、医学書院									
参考文献	なし									
備考	授業内課題は課題レポートで評価し、適宜フィードバックする。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

滝口：NPO及び地域で、子ども・若者支援を25年行っています。その実務経験と社会問題の研究業績があり、その両者を活かした授業を行います。
古瀬：病院及び在宅での10年以上の看護実務経験と看護師資格を有します。その経験と家族看護学の理論をリンクさせ、実践的な授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMh05				
	●		●		●					
科目名	周術期看護論				単位認定者	佐藤 富美子		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	周術期看護とは、患者、家族が手術を決定したときから、手術を終えて、手術侵襲から回復するまでのプロセスに関わる看護である。手術や麻酔による侵襲のある患者を全人的に理解し、術前から術後を通して合併症予防、苦痛の緩和を行う方法を学ぶ。また、早期回復を促す援助や家族を含めた退院後の生活への適応を促す援助も含め、周術期にある患者・家族に対する基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周術期の経過と看護の特徴について説明できる。 2. 手術侵襲とそれによっておこる生体反応が説明できる。 3. 術後合併症とその予防方法を説明することができる。 4. 周術期患者の看護展開を通し、術式による特徴的な看護について説明できる。 5. 基礎疾患がもたらす回復過程への影響を説明できる。 6. 手術療法を受ける高齢者、こどもと家族、精神疾患・障がい者、帝王切開術を受ける妊婦及び家族の看護援助について、説明できる。 									
学修者への期待等	この科目の学修には1年次に学んだ病態治療学Ⅰの手術療法の復習が効果的です。加えて教科書やUNIPA掲載の授業資料の熟読、手術体験者の著書を読むなどの事前学習を通し、質問事項を用意して授業に臨んでください。									
回	授業計画				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	周術期看護の概要と看護師の役割 周術期にある患者・家族の特徴				事前学修：教科書① 第2部第1章「周手術 期看護とは」を読んで 授業に臨む 事後学修：教科書・ 配布資料で復習する		30	30	佐藤 富美子	
2	手術や麻酔による侵襲と生体反応				事前学修：教科書① 第1部2「急性の状態 にある患者の身体的 ・心理的反応」を 読んで授業に臨む 事後学修：教科書・ 配布資料で復習する		30	30	佐藤 富美子	
3	術前の患者・家族の看護				事前学修：教科書① 第2部第Ⅱ章「手術前 期の看護」を読んで 授業に臨む 事後学修：教科書・ 配布資料で復習する		30	30	佐藤 富美子	
4	術中の患者・家族の看護				事前学修：教科書① 第2部第Ⅲ章「手術期 の看護」を読んで授 業に臨む 事後学修：教科書・ 配布資料で復習する		30	30	佐藤 富美子	
5	術後合併症の予防と発症時の援助、苦痛の緩和				事前学修：教科書① 第2部第Ⅳ章「手術後 期の看護」を読んで授 業に臨む 事後学修：教科書・ 配布資料で復習する		60	30	佐藤 富美子	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
6	開腹術を受ける患者の看護	事前学修：教科書① 第2部VII章「摂取機能 の再確立②胃切除 術」を読んで授業に 臨む 事後学修：教科書・ 配布資料で復習する	30	30	佐藤 富美子
7	開胸・開心術を受ける患者の看護	事前学修：教科書① 第2部VII章2「呼吸機 能の再確立」、3「循 環機能の再確立」を 読んで授業に臨む 事後学修：教科書・ 配布資料で復習する	30	30	佐藤 富美子
8	開頭術、運動器系の手術を受ける患者の看護	事前学修：教科書① 第2部VII章1「統制機 能(脳神経機能)の再 確立」を読んで授業 に臨む 事後学修：教科書・ 配布資料で復習する	30	30	佐藤 富美子
9	内視鏡下手術を受ける患者の看護	事前学修：教科書① 第2部VI章「内視鏡治 療・鏡視下手術の術 前・術後の看護」を 読んで授業に臨む 事後学修：教科書・ 配布資料で復習する	30	30	佐藤 富美子
10	基礎疾患のある患者の周術期看護	事前学修：授業回2～ 5回について教科書・ 配布資料で復習して 臨む 事後学修：教科書① や配布資料で授業内 容の振り返りをする	30	30	岡崎 優子
11	高齢者と手術	事前学修：教科書②の 「第3部2手術療法」 を読んで授業に臨む 事後学修：小テス ト・課題に取り組む	30	30	菅原 尚美
12	子どもとその家族と手術	事前学修：教科書⑤ 小児臨床看護総論第3 章Cを読んで授業に臨 む 事後学修：講義中の 国試問題やUNIPAによ る小テストの解答を 教科書や資料を基に 確認する	30	30	佐藤 幸子
13	帝王切開を受ける産婦の看護	事前学修：母性看護 学各論②第7章のIの 帝王切開とKの帝王切 開術を受ける産婦の 看護を読んで授業に 臨む 事後学修：教科書・ 配布資料で復習する	30	30	田辺 圭子
14	精神疾患・障がい者と手術	事前学修：教科書④ 「身体疾患と精神症 状」を読み授業に臨 む 事後学修：UNIPA上課 題に取り組む	30	30	阿部 幹佳

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
15	術後の継続看護、周術期看護のまとめ	事前学修：教科書① 第2部V章「退院に向 けた支援」を読んで 授業に臨む。直腸が ん事例の課題レポ ート 事例学修：教科書・ 配布資料で復習する	90	30	佐藤 富美子
アクティブ・ ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ 反転授業 ）				
教科書	①『看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護I 概論・周手術期看護』林直子他編、南江堂 ②『 ナーシンググラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践』堀内ふき他編著、メディカ出版 ③『系統看護学講座 専門分野II 母性看護学 [2] 母性看護学各論』森恵美他著、医学書院 ④『ナーシング・グラフィカ 精神看護学②：精神障害と看護の実践』出口禎子他編、メディカ出版				
参考文献	『これならわかる！術前・術後の看護ケア～周術期看護の基礎知識から退院支援まで～』 中島恵美子他監、ナツメ社				
備考	授業内課題については第10～第14回の授業で担当教員より詳細を指示し、各回8%（計40%）で評価する。また、適宜フィードバックする。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は看護師・保健師の資格と周術期看護学分野を含む5年間の実務経験を有しており、その経験を活かして学生が周術期看護の実践をイメージできるよう授業を展開する。（佐藤）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMh07				
	●		●		●					
科目名	緩和ケア論				単位認定者	佐藤 富美子		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
							授業時間数		15 時間	
				授業形態	講義	授業回数			8 回	
授業の概要	緩和ケアとは、生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者とその家族のQOL(生活の質)の向上を目指すアプローチである。患者とその家族が抱える痛みや様々な問題に早期に見出し、的確に評価・対応することで、苦痛を予防し和らげることを目指し、その人らしい人生・生活を支える緩和ケアのあり方について理解を深める。患者とその家族が直面する身体的問題、心理社会的特徴と、求められる看護を理解し、緩和ケアに関する基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 「緩和ケアとは」について説明できる 緩和ケアを必要とする対象の身体的問題、心理・社会的特徴とスピリチュアルケアについて説明できる 緩和ケアを必要とする対象と家族に対する看護援助が説明できる 緩和ケアにおいて直面する倫理的課題について、自分の考えを表現し意見交換できる 									
学修者への期待等	授業前後に緩和ケアをとりまく社会の状況、緩和ケアを担う看護師に求められる役割や医療体制について考察できる資料を教科書、著書、新聞などで収集し、各授業内容の理解が深められるように準備すること。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	緩和ケア概論(定義・歴史・看護の役割)				事前学修:教科書第I章、UNIPA配布資料を読んで予習する 事後学修:教科書・配布資料で復習する			30	30	
2	身体機能の低下に伴う問題:がん性疼痛のマネジメント				事前学修:教科書第III章(1-1)、UNIPA配布資料を読んで予習する 事後学修:教科書・配布資料で復習する			30	30	
3	身体機能の低下に伴う問題: がん性疼痛以外の症状マネジメント				事前学修:教科書第III章(1-2~1-7)で症状マネジメントについてレポートし、グループワークの準備をする 事後学修:教科書・配布資料で復習する			60	60	
4	緩和ケアを必要とする患者の心理的・社会的特徴とスピリチュアルケア				事前学修:教科書第I章、第III(2~4)、UNIPA配布資料を読んで予習する 事後学修:教科書・配布資料で復習する			30	30	
5	家族への支援、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)の進め方				事前学修:教科書第II章(5~6)、UNIPA配布資料を読んで予習する 事後学修:教科書・配布資料で復習する			30	30	
6	在宅緩和ケア				事前学修:教科書第I章(5)、UNIPA配布資料を読んで予習する 事後学修:教科書・配布資料で復習する			30	30	
7	看取りのケア、グリーフケア				事前学修:教科書第II章(7)、第V章、UNIPA配布資料を読んで予習する 事後学修:教科書・配布資料で復習する			30	30	
8	緩和ケアにおける倫理的課題				事前学修:緩和ケアにおいて直面する倫理的課題事例についてレポートし、グループワークの準備をする 事後学修:グループワーク内容も含めて、緩和ケアにおける倫理的課題について考察する			90	60	
アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり:キーワード(グループワーク)									
教科書	『看護学テキストNiCE 緩和ケア』梅田恵他監、南江堂									
参考文献	授業内で随時紹介する									
備考	<ul style="list-style-type: none"> 授業内課題は「がん性疼痛以外の症状マネジメント」(10%)、「緩和ケアにおいて直面する倫理的課題」(30%)についてレポートで評価し、各自にコメントしてフィードバックする。なお、この課題は第3回、第8回の授業やグループワークに活かすための事前学修でもあり、授業・グループワークの内容も含めて提出してもらう。 授業に関する質問は主にミニットペーパーで確認し、次回授業内でフィードバックする。 									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師・保健師の資格と5年間の実務経験を活かし、学生が緩和ケア実践をイメージできるよう授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力
				●	

科目ナンバリング
NSMi06

科目名	キャリアデザインセミナー				単位認定者	阿部 春美		評価の方法	試験(レポート)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	40 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			

授業の概要
1年次の学修を踏まえ、興味関心のある領域は何か、どのような看護師になりたいか、どのような社会人になりたいか等、卒業後の人生を具体的に描きながら、自身のキャリアについて考察する。将来を具体的にイメージしながら、自身の人生を切り拓いていくための土台作りをし、学修目的の更なる明確化と学修意欲向上を図る。

到達目標
1. 看護専門職としての責務と倫理、あり方について説明できる。
2. 活躍する看護専門職者について理解を深める。
3. 看護専門職に求められる社会のニーズと現状から看護の専門性について考える。
4. 現時点での自分で考える看護専門職像としてキャリアデザインについて述べるができる。

学修者への期待等
「スタートアップセミナー」での学びを基盤として、看護専門職像としてキャリアデザインを考え、将来のために『大学生活をどうマネジメントし、自らをどう育てるのか』を一緒に考えていきましょう。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	キャリアデザイン、看護専門職の概念と生涯学習の意義について	事前学修：大学卒業後にどのような資格が取得でき、どのような進路が考えられるか調べる	30	0	木下 美佐子
2	看護専門職としてのキャリアデザイン：現任教育の目的と方法について	事後学修：授業内の学び	0	30	阿部 春美
3	看護専門職としてのキャリアデザイン：大学院教育の目的と意義について	事前学修：自分が関心のある看護系大学院を一つ選び、ウェブサイトを開覧 事後学修：配布資料の内容を復習	30	30	佐藤 幸子
4	看護専門職としてのキャリアデザイン：看護専門職としてのキャリア	事後学修：授業内の学び	0	30	木下 美佐子
5	看護専門職として活躍する人が歩んできたキャリアについて(保健師他)	事後学修：授業内の学び	0	30	
6	看護専門職として活躍する人が歩んできたキャリアについて(専門看護師他)	事後学修：授業内の学び	0	30	阿部 春美
7	自らのキャリアデザインについての考察	事前学修：キャリアデザインシートの作成 事後学修：キャリアデザインシートの完成	90	60	阿部 春美
8	看護専門職とキャリアデザインについてのまとめ	事後学修：レポート課題の作成	0	90	阿部 春美

アクティブ・ラーニング
該当なし
該当あり：キーワード(グループディスカッション)

教科書
適時、資料を配付する。

参考文献
『看護師のキャリア論』勝原裕美子著、照林社

備考
※第7回はグループディスカッションを行う。
※授業内課題「授業内の学び：20%」、「キャリアデザインシート：20%」で評価し、次回の授業でフィードバックする。
※試験(レポート)：「看護専門職像としてキャリアデザイン」(60%)

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師、看護管理者、看護教育分野でも5年以上の実務経験を活かして、看護専門職像としてキャリアデザインについて理解を深められるよう授業を展開する。(阿部)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMj03				
	●	●	●	●	●					
科目名	地域・在宅看護学実習 I				単位認定者	高橋 由美		認知領域 (知識)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	精神運動領域 (技術)	30 %
						授業時間数	40 時間		情意領域 (態度)	20 %
				授業形態	実習	授業回数	集中			
授業の概要	これまで学んだ知識・技術・態度を基盤に、地域で暮らす人々と家族の生活環境と健康との関連をアセスメントし、対象者のニーズを把握する地区踏査・地区視診の実際を学ぶ。また、母子・成人・高齢者を対象とする保健・福祉の場における地域の人々の生活を理解し、健康状態について把握する実習を通して地域・在宅看護の基礎的な実践能力を修得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に暮らす様々な対象の健康と生活に関する現状と課題を理解することができる 2. 地域に暮らす様々な対象の活用可能な社会資源を理解することができる 3. 看護職を目指す学生として倫理観と責任を認識した行動ができる 									
学修者への期待等	地域で暮らす様々な対象の生活環境や健康との関連をアセスメントし、地域・在宅看護の基礎的な実践能力を身に付ける実習です。これまで積み上げてきた学修を振り返り、主体的に臨みましょう。									
授業計画						準備学修		事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
<p>I. 実習期間 1週間</p> <p>II. 実習施設 老人福祉センター 障害福祉サービス事業所または障害者小規模地域活動センター 母子支援施設</p> <p>III. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーションで実習全体を把握し、事前学修を充分行い実習に臨む。 2. 臨地実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老人福祉センターの役割機能を学び利用者とのコミュニケーションやフィールドワークを通して活用可能な資源について理解を深める。 2) 障害福祉サービス事業所または障害者小規模地域活動センターの役割機能を学び、利用者とのコミュニケーションやフィールドワークを通して活用可能な資源について理解を深める。 3) 母子支援施設の役割機能を学び利用者とのコミュニケーションやフィールドワークを通して活用可能な資源について理解を深める。 3. まとめ <ol style="list-style-type: none"> 1) 学修成果を発表し学びを共有する。 2) 地域で暮らす様々な対象の健康と生活に関する現状や課題をまとめ、活用可能な社会資源について考察する。 						事前学修：地域・在宅看護学概論 I・II の授業内容を復習し、オリエンテーションで提示される課題に取り組む 事後学修：カンファレンスや発表会で共有した学修成果をもとに地域で暮らす様々な対象の健康と生活に関する現状・課題・活用可能な社会資源についてレポートにまとめる。		90	90	
教科書	『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』石田千絵他編、メディカ出版									
参考文献	『国民衛生の動向 2025/2026』厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会 『看護師のための地域看護学』豊島康子編、ピラールプレス									
備考	担当：高橋由美、小林淳子、真溪淳子、東海林美幸、手塚有希子 非常勤助手：江口美知子、赤間美恵子 オリエンテーションでは、ゲストスピーカー（伊藤仟佐子先生）を招き、実習への理解を深める。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師（病院等に5年以上勤務）として、地域・在宅看護（訪問看護師・ケアマネジャー）の実務経験を活かした授業を展開する。（高橋）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMj05				
	●	●	●	●	●					
科目名	領域横断看護実習				単位認定者	桑田 恵美子		認知領域 (知識)	30 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	3 単位	評価の方法	精神運動領域 (技術)	50 %
					授業形態	実習	授業時間数		120 時間	情意領域 (態度)
							授業回数		集中	
授業の概要	これまで学んだ知識・技術・態度を基盤に、慢性的な健康問題を持つ患者・家族を多面的に理解し、問題解決の系統的アプローチによる情報収集、目標設定、看護計画立案、実施、評価までの一連の看護過程の展開と看護の実際を学ぶ。特に長期的に経過する健康障害や機能障害の特性及び精神的、社会的な影響を理解することを通して、各発達段階や健康段階に応用できる基礎的な看護実践能力を修得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の看護過程が展開できる。 2. 看護過程に基づいた看護実践ができる。 3. 医療チームの一員としての役割を理解し行動できる。 4. 看護職を目指す学生としての責任を認識した行動ができる。 									
学修者への期待等	長期的に経過する慢性的健康問題を持つ患者において、疾患そのものの治療のみではなく、規則正しい生活等、日常生活における自己管理方法について理解し、社会生活が送れるように支援することが求められる。領域横断実習を通して慢性的な健康問題を持つ患者・家族を多面的に理解し、看護役割を学ぶことを期待します。									
授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
I. 実習期間 3週間 II. 実習施設 病院 III. 実習計画 1. 学内 1) 実習オリエンテーション 2) 看護過程の展開と、受け持ち患者に必要な日常生活援助技術や診療援助技術について、グループワーク演習、全体発表、ビデオ学修、文献学修で学ぶ。 2. 病院 1) 学生1名で、主として成人期・老年期患者1名を受け持ち、看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護について学ぶ。 2) 受け持ち患者の看護の方向性を把握し、適切な看護援助方法を提供し、実施した援助を評価するためにカンファレンスを実施する。 3. まとめ 1) 実習終了後に受け持ち患者に実施した看護援助のプロセスを振り返り、理論的にまとめて発表することにより学生間で学びを共有し、看護について考えを深める。					事前学修：実習開始前に実習要項を十分に読み、参加する。 1. 慢性期の患者の特徴と慢性期の看護の役割について理解する。 2. 受け持ち患者・家族を理解するために必要な人体機能と構造、病態・検査・治療・看護について理解する。 3. 2年次前期に学修したゴードンの11の機能的健康パターンと看護過程を振り返り学修して臨む。 4. 受け持ち患者に必要な看護技術（バイタルサインの測定、清潔ケア）を学修する。 5. 領域横断看護実習の目的・目標を踏まえて、基礎看護学実習及びこれまでの学習内容を振り返り、実習で学びたい内容・自己の実習目標を指定用紙に具体的に記載する。 事後学修：実習での学びを整理する。			90	60	
教科書	既修科目の教科書									
参考文献	『成人看護学』黒田裕子編、医学書院 『看護学テキストNiCE 成人看護学 慢性期の看護』鈴木久美他編集、南江堂 『ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害』堀内ふき他編著、メディカ出版 『ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践』堀内ふき他編著、メディカ出版									
備考	担当：桑田恵美子、阿部春美、武田美奈子、阿部幹佳、岡崎優子、佐藤理恵、菅原尚美、伊藤茉莉子、岡崎草代夏、坂村佐知、遠藤美穂子、泉田さとみ、加藤真理子、小倉真紀 非常勤助手：佐々木ゆみ子、大石慶子、松田郷子、江口美和子									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は慢性期の患者の看護を5年以上の実務経験と、看護師としての資格を有しており、その経験を活かして慢性期看護の理解を深め、学生が臨床現場に繋げることができるような実践的な授業を行います。(桑田)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMk01				
	●		●		●					
科目名	公衆衛生看護学概論				単位認定者	小林 淳子		試験（筆記）	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	60 %
		*保健師選択制 必修				授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	公衆衛生看護は、公衆衛生の理念に基づき、公衆衛生学、看護学を基盤とした知識・技術を用いて、地域で生活するあらゆる人々の健康の保持・増進、疾病予防、生活の質の向上を目的とする。本科目では、個人・家族だけでなく、集団・組織、地域社会までを対象として、意図的・組織的に働きかける看護活動について学び、公衆衛生看護学に関する基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 公衆衛生看護の理念、目標、対象について説明できる。 2. 公衆衛生看護の場と主要な公衆衛生看護活動について説明できる。 3. ヘルスケアシステムの必要性と保健師の役割について説明できる。									
学修者への期待等	本科目では、保健師としての実践能力の基盤となる内容を学修します。既修『公衆衛生学』『疫学』『地域・在宅看護学概論Ⅰ』、同時進行の『保健情報論』『保健医療福祉行政論』の学修と統合して学びが深まるよう期待します。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	公衆衛生看護の理念と目標				事前学修：公衆衛生看護の理念・基盤となる概念について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する				30	30
2	公衆衛生看護の対象と機能				事前学修：公衆衛生看護の対象について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する				30	30
3	公衆衛生看護の倫理				事前学修：公衆衛生看護における倫理について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する				30	30
4	公衆衛生看護の場と活動の特徴				事前学修：公衆衛生看護の活動の場について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する				30	30
5	公衆衛生看護の歴史				事前学修：公衆衛生看護の歴史について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する				30	30
6	公衆衛生看護活動の方法とその特性①（ハイリスク・アプローチとポピュレーション・アプローチ、業務担当制と地区担当制、総合的な地区活動）				事前学修：公衆衛生看護活動の基盤について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する				30	30
7	公衆衛生看護活動の方法とその特性②（個別・家族へのアプローチ、集団・組織へのアプローチ、地域へのアプローチ、施策化・事業化へのアプローチ）				事前学修：公衆衛生看護活動の基本的な展開方法について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する				30	30
8	ヘルスケアシステムにおける公衆衛生看護				事前学修：公衆衛生看護活動における地域アセスメント・地区活動について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する				30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）									
教科書	『標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論』 標美奈子他著、医学書院									
参考文献	『最新 公衆衛生看護学 総論』 宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会 『国民衛生の動向2025/2026』 厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会									
備考	授業内課題は各回の提出物で評価し、次の授業の中でフィードバックを行います。 第3回の授業では倫理的課題の事例についてグループワークにより検討します。 この科目は公衆衛生看護学実習Ⅰの履修要件となっている。									

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

担当教員は保健師の資格と行政保健師として5年以上の実務経験を有しており、その経験を活かして学生が公衆衛生看護の概要についてイメージできるよう授業を行います。

看護学部 看護学科

3年生

- 年間予定表
- シラバス

2026年度 看護学科3年生 年間予定表

前期

		日	月	火	水	木	金	土						
4月					1		2	オリエンテーション	3	(入学式)	4			
	5		6	1	7	1	8	1	9	健康診断 1	10	1	11	
	12		13	2	14	2	15	2	16	2	17	2	18	
	19		20	3	21	スポーツ大会	22	3	23	3	24	3	25	
	26		27	4	28	3	29		30	4	1	4	2	
5月	3		4		5		6		7	5	8	5	9	
	10		11	領域別実習	12	領域別実習	13	領域別実習	14	領域別実習	15	領域別実習	16	
	17		18	領域別実習	19	領域別実習	20	領域別実習	21	領域別実習	22	領域別実習	23	
	24		25	領域別実習	26	領域別実習	27	領域別実習	28	領域別実習	29	領域別実習	30	
	31		1	領域別実習	2	領域別実習	3	領域別実習	4	領域別実習	5	領域別実習	6	
6月	7		8	領域別実習	9	領域別実習	10	領域別実習	11	領域別実習	12	領域別実習	13	
	14		15	領域別実習	16	領域別実習	17	領域別実習	18	領域別実習	19	領域別実習	20	
	21		22	領域別実習	23	領域別実習	24	領域別実習	25	領域別実習	26	領域別実習	27	
	28		29	領域別実習	30	領域別実習	1	領域別実習	2	領域別実習	3	領域別実習	4	
7月	5		6	領域別実習	7	領域別実習	8	領域別実習	9	領域別実習	10	領域別実習	11	
	12		13	領域別実習	14	領域別実習	15	領域別実習	16	領域別実習	17	領域別実習	18	
	19		20		21	領域別実習	22	領域別実習	23	領域別実習	24	領域別実習	25	
	26		27	領域別実習	28	領域別実習	29	領域別実習	30	領域別実習	31	領域別実習	1	
8月	2		3	領域別実習	4	領域別実習	5	領域別実習	6	領域別実習	7	領域別実習	8	
	9		10		11		12		13		14		15	
	16		17	5	18	4	19	4	20	6	21	6	22	
	23		24	定期試験	25	定期試験	26		27		28		29	
	30		31	成績発表	1		2		3		4	再試験	5	
9月	6		7	領域別実習	8	領域別実習	9	領域別実習	10	領域別実習	11	領域別実習	12	
	13		14	領域別実習	15	領域別実習	16	領域別実習	17	領域別実習	18	領域別実習	19	
	20		21		22		23		24	領域別実習	25	領域別実習	26	
	27		28	領域別実習	29	領域別実習	30	領域別実習						

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2026年度 看護学科3年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土						
10月						1	領域別実習	2	領域別実習	3				
	4		5	領域別実習	6	領域別実習	7	領域別実習	8	領域別実習	9	領域別実習	10	(保護者会)
	11		12		13	領域別実習	14	領域別実習	15	領域別実習	16	領域別実習	17	
	18		19	領域別実習	20	領域別実習	21	領域別実習	22	領域別実習	23	領域別実習	24	
	25		26	領域別実習	27	領域別実習	28	領域別実習	29	領域別実習	30	領域別実習	31	せいよう祭
11月	1		2	領域別実習	3		4	領域別実習	5	領域別実習	6	領域別実習	7	
	8		9	領域別実習	10	領域別実習	11	領域別実習	12	領域別実習	13	領域別実習	14	
	15		16	領域別実習	17	領域別実習	18	領域別実習	19	領域別実習	20	領域別実習	21	
	22		23		24	オリエンテーション 1	25	1	26	1	27	1	28	
	29		30	1	1	2	2	2	3	2	4	2	5	
12月	6		7	2	8	3	9	3	10	3	11	3	12	
	13		14	3	15	4	16	4	17	4	18	4	19	
	20		21	4	22	5	23	5	24	5	25	5	26	
	27		28		29		30		31		1		2	
1月	3		4	5	5	6	6	6	7	6	8	6	9	
	10		11		12	7	13	7	14	7	15	7	16	
	17		18	6	19	8	20	8	21	8	22	8	23	
	24		25	7	26	9	27	9	28	9	29	9	30	
	31		1		2	10	3	10	4	10	5	10	6	
2月	7		8	8	9	11	10	11	11		12	11	13	
	14		15	定期試験	16	定期試験	17	定期試験	18		19		20	
	21		22		23		24	成績発表	25		26		27	
	28		1		2		3	再試験	4	再試験	5	再試験	6	
3月	7		8		9		10		11		12		13	
	14		15		16		17	(卒業式)	18		19		20	
	21		22		23		24		25		26		27	
	28		29		30		31							

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※2月1日(月)は入試のため、土日・祝日と同様、五橋キャンパス構内への立入りは一切できません。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLb01				
	●			●						
科目名	哲学				単位認定者	池田 準		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	24 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	16 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	哲学とは、真理を探究し、物事の本質を追究する学問である。代表的な哲学者等の思想を学び、深く自身の考えを巡らせ、人間とは何かを思索する。哲学の歴史や流れを学びながら、人間は何のために生きるのか、幸福とは何か、自由とは何か、愛とは何か、正義とは何か等の普遍的な問いについて深慮する。個の内面を徹底的に洞察するという哲学的な思考法を学び、深く考えることの価値を知ること、自身の人生をより深みのあるものにしていく。									
到達目標	1. 哲学の基本的な考え方を説明できる。 2. 哲学の基本的な考え方をを用いて日常生活に潜む哲学的な問題について、自己の考えを深める。									
学修者への期待等	各回の授業に設定された「問い」に対する自分自身の考えをあらかじめメモしておき、あとで授業で学んだ哲学的な考え方と比較できるようにしておきましょう。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	医療と哲学：何のために哲学を学ぶのか				事前学修：医療技術だけでは解決できない医療現場の問題を挙げてみましょう。 事後学修：配布資料の「考えるポイント」について自分の意見をまとめましょう。				60	60
2	自我と身体：デカルトの心身二元論とメルロ・ポンティの身体論、病者・障がい者にとっての心と体				事前学修：身体の中の部位が「自分らしさ」に不可欠なのかを考えてみましょう。 事後学修：配布資料の「考えるポイント」について自分の意見をまとめましょう。				60	60
3	自我と心：カントの自我論とヘーゲルの相互承認論、記憶と自己意識、「認知症患者の自我」に関するPBL（課題解決型学修）				事前学修：記憶がなくなったら「自分」は消えてしまうのか、を考えてみましょう。 事後学修：配布資料の「考えるポイント」について自分の意見をまとめましょう。				60	60
4	自我と他者：フッサールの間主観性とレヴィナスの他者論、ケアにおける応答関係				事前学修：患者を人間として尊重するとはどういうことか、を考えてみましょう。 事後学修：配布資料の「考えるポイント」について自分の意見をまとめましょう。				60	60
5	他者理解と共感：ヒュームの懐疑主義とモラル・センス学派の共感概念、「患者への共感」に関するPBL（課題解決型学修）				事前学修：他人の考えや感情を本当に理解できるのか、を考えてみましょう。 事後学修：配布資料の「考えるポイント」について自分の意見をまとめましょう。				60	60
6	社会と幸福：古代ギリシアのエウダイモニズムと近代の功利主義、QOLの基盤としての幸福観				事前学修：自分にとっての幸福とは何か、を考えてみましょう。 事後学修：配布資料の「考えるポイント」について自分の意見をまとめましょう。				60	60
7	社会と自由：運命論、因果的決定論、自由意志論と責任概念、「難病患者の自由」に関するPBL（課題解決型学修）				事前学修：病者・障がい者を例に自由とは何かを考えてみましょう。 事後学修：配布資料の「考えるポイント」について自分の意見をまとめましょう。				60	60
8	死と実存：ハイデガーの存在論、死の実存的意味とよく生きること(well-being)				事前学修：生きる意味・死の意味とは何かを考えてみましょう。 事後学修：配布資料の「考えるポイント」について自分の意見をまとめましょう。				60	60
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ PBL（課題解決型学修） ）									
教科書	教科書は特に使用しません。授業で毎回、資料を配付します。									
参考文献	各回の授業でテーマに関連する文献を紹介します。									
備考	授業内課題については次の授業回で回答の一部を取りあげて論評し、フィードバックを行います。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLb04				
	●			●						
科目名	教育心理学				単位認定者	真覚 健		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	人間は、成人するまでに受ける教育から大きな影響を受ける。乳児期から青年期までの成長過程における心や知能の発達、人格形成等を、教育学的観点から考察する。 人間の発達に関する基礎的な知識を身につけ、記憶・動機づけ等の学習について学ぶ。また、個人の行動傾向を指す総合的な概念であるパーソナリティについても学修する。教育過程における様々な現象を心理学的に明らかにものとし、効果的な教育方法の検討をする。									
到達目標	1：心身の発達過程と特徴について説明できる。 2：学習にかかわる要因について説明できる。 3：パーソナリティについて説明できる。 4：教育における測定と評価について説明できる									
学修者への期待等	資料をあらかじめUNIPA上にアップするので事前に読んで学修すること。 これまでの学校教育での経験、日常生活で経験する事象と結びつけて理解するよう期待します。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	教育心理学とは				事前学修：資料を読んで、教育心理学の対象について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30
2	発達の理解（遺伝と環境、発達と教育）				事前学修：資料を読んで、発達における遺伝説と環境説について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30
3	発達の諸相				事前学修：資料を読んで、幼児期・児童期・思春期の発達の特徴について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30
4	学習と記憶				事前学修：資料を読んで、学習と記憶について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30
5	学習指導法				事前学修：資料を読んで、適性処遇交互作用について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30
6	学習と動機づけ				事前学修：資料を読んで、内発的動機づけについて学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30
7	パーソナリティの形成				事前学修：資料を読んで、パーソナリティの形成について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30
8	測定と評価				事前学修：資料を読んで、診断的評価・形成的評価・総括的評価について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ペアディスカッション）									
教科書	資料を配布する。									
参考文献	なし									
備考	資料は事前にUNIPA上にアップする。 第1回、8回の授業でペアディスカッションを行う。 毎回事後学修としてUNIPAでのレスポンスシートの提出を求め、次回の授業でフィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLc04				
	●			●						
科目名	教育学概論				単位 認定者	稲垣 悟		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	20 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	教育に関する基本的な理念・思考、教育方法を学び、人の成長過程における教育の重要性を理解する。自身への教育として、成人学習理論、生涯学習等の基本的な知識を学修し、他者への教育として人材育成を軸に、教育計画(目標)の設定方法や教育活動(内容)を学修する。この科目は自身の教育経験も踏まえて、教育とは何かを改めて考える機会とする。									
到達目標	教育の歴史および思想を理解し、説明することができる。 学習と指導に関する基本的な理論および技法を理解し、実践することができる。 生涯にわたって学び続ける姿勢をもち、意欲的に学習に取り組むことができる。									
学修者への期待等	教育は誰もが経験してきたものです。是非、自身の体験や考えをもとに理解を深めてください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	教育原理				事前学修:「教育」とは何か、自分なりの言い方を考える 事後学修:教育に関わるニュースを調べ、興味をもったものを読む			30	30	
2	教育の意義と役割①ー発達と教育ー				事前学修:人間の発達や学習について調べる 事後学修:好きな教科を1つ選び、学習指導要領を確認する			30	30	
3	教育の意義と役割②ー教育を支える制度ー				事前学修:学校と関わり深い言葉を3つ挙げ、それぞれ調べる 事後学修:これまでに暮らした町の教育行政について調べる			30	30	
4	生涯学習①ー職業としての学習ー グループワーク				事後学修:看護に関わる研修にはどのようなものがあるか調べる			0	60	
5	生涯学習②ーキャリア開発ー				事前学修:ワークライフバランスについて調べる 事後学修:自身のキャリアについて考えを深める			30	30	
6	指導する・評価する①ー指導・評価の考え方ー ペアワーク				事前学修:これまでに出会った印象深い先生について、その特徴を思い返す			30	0	
7	指導する・評価する②ー指導・評価の技法ー グループワーク				事後学修:学んだ技法を学生生活や日常生活のなかで試してみる			0	90	
8	教育の現代的課題				事前学修:教育に関わるニュースを調べ、興味をもったものを読む 事後学修:講義全体を振り返り、復習する			30	60	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり:キーワード(ペアワーク、グループワーク)									
教科書	適宜プリントを配布します。									
参考文献	『系統看護学講座 基礎分野 教育学』木村元編、医学書院 『看護のための教育学』中井俊樹他編、医学書院									
備考	授業内課題は演習課題(10%)、授業后感想(10%)で評価します。 課題の提出にはGoogleフォームを用い、次回講義にてフィードバックを行います。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMb03				
		●	●		●					
科目名	地域・在宅看護学援助論				単位認定者	高橋 由美		評価の方法	試験 (筆記)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内課題	60 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	療養の場の移行に伴う看護、ケアマネジメント、多職種と連携した地域での生活・療養を支える看護の原則、在宅ケアを支える制度と社会資源などについて学び、多様な場・状況に応じた看護支援方法など、地域・在宅看護の実践に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護のケアシステムの実際とマネジメントについて説明できる。 2. 在宅看護のケアシステムにおけるチームケアの重要性と多職種との連携について説明できる。 3. 在宅ケアを支える制度と社会資源について説明できる。 4. 在宅療養を支える看護活動について説明できる。 5. 多様な場・状況に応じた看護支援方法について説明できる。 									
学修者への期待等	地域・在宅看護学概論Ⅰ・Ⅱ、地域・在宅看護学実習Ⅰの学びを基に、地域・在宅看護活動の基盤となる法制度や看護展開論を学びます。また、あらゆる看護領域の既修の知識・技術が基本となるため、予習復習を充分行い、積極的に学ぶ姿勢で臨みましょう。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	療養の場の移行に伴う看護				事前学修：UNIPAの資料に目を通しておく 事後学修：学修カードに学びをまとめる		30	30	高橋 由美	
2	退院支援・退院調整				事前学修：UNIPAの資料に目を通しておく 事後学修：授業内課題レポートを提出する		30	30	高橋 由美	
3	ケアマネジメントと看護				事前学修：教科書①6章1.を予習する 事後学修：学修カードに学びをまとめる		30	30	高橋 由美	
4	多機関・多職種連携と協働における看護の役割				事前学修：UNIPAの資料に目を通しておく 事後学修：授業内課題レポートを提出する		30	30	高橋 由美	
5	地域・在宅ケアを支える社会制度と社会資源 ①医療保険制度・介護保険制度・高齢者施策				事前学修：教科書①7章4.5.6.を予習する 事後学修：学修カードに学びをまとめる		30	30	高橋 由美	
6	地域・在宅ケアを支える社会制度と社会資源 ②障害者（児）・難病に関する法制度				事前学修：教科書①7章7.8.9.を予習する 事後学修：学修カードに学びをまとめる		30	30	高橋 由美	
7	在宅療養を支える看護活動 ①訪問看護ステーション				事前学修：教科書①5章を予習する。 事後学修：学修カードに学びをまとめる		30	30	東海林 美幸	
8	在宅療養を支える看護活動 ②訪問看護サービスの展開				事前学修：UNIPAの資料に目を通しておく 事後学修：学修カードに学びをまとめる		30	30	東海林 美幸	
9	在宅療養を支える看護活動 ③訪問看護過程				事前学修：UNIPAの資料に目を通しておく 事後学修：学修カードに学びをまとめる		30	30	東海林 美幸	
10	在宅療養を支える看護活動 ④訪問看護ステーションの実際				事前学修：UNIPAの資料に目を通しておく 事後学修：学修カードに学びをまとめる		30	30	東海林 美幸	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
11	在宅看護における危機的管理の視点	事前学修：教科書②6章 1.2を予習する 事後学修：学修カードに 学びをまとめる	30	30	高橋 由美
12	在宅における援助技術 ①生活・医療ケアの原則と療養環境整備	事前学修：UNIPAの資料 に目を通しておく 事後学修：学修カードに 学びをまとめる	30	30	高橋 由美
13	在宅における援助技術 ②食の援助・医療ケア	事前学修：UNIPAの資料 に目を通しておく 事後学修：学修カードに 学びをまとめる	30	30	高橋 由美
14	在宅における援助技術 ③排泄ケア・医療ケア	事前学修：UNIPAの資料 に目を通しておく 事後学修：学修カードに 学びをまとめる	30	30	高橋 由美
15	在宅における援助技術 ④呼吸の援助・医療ケア	事前学修：UNIPAの資料 に目を通しておく 事後学修：授業内課題レ ポートを提出する	30	30	高橋 由美
アクティブ・ ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）				
教科書	『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』石田千絵他編、MCメディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術』臺有桂他編、MCメディカ出版				
参考文献	『写真でわかる訪問看護』押川真喜子監、インターメディカ				
備考	授業内課題は、課題レポート（40％）学修カード（20％）により評価し、適宜フィードバックする。第2回、第15回はグループワークを行う。第15回は担当教員に加え、非常勤助手：江口美知子、赤間美恵子、小宮怜美が担当する。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師（病院等に5年以上勤務）として、地域・在宅看護（訪問看護師・ケアマネジャー）の実務経験を活かし、多様な場・状況に応じた看護支援方法など、実践に必要な基礎的知が身につくように授業を行う。（高橋）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMb04				
			●		●					
科目名	地域・在宅看護学援助方法				単位認定者	東海林 美幸		評価の方法	試験(筆記)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	60 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	地域・在宅看護学援助論の学修を踏まえ、本科目では、多様な場や状況に応じた看護支援方法を演習を通して学ぶ。脳血管疾患療養者、認知症高齢者、在宅難病療養者、医療的ケア児、ターミナル期の療養者等のケアニーズに対応する看護などの在宅看護の原則や援助方法を学び、地域・在宅看護の基礎的な実践力を身につける。									
到達目標	1. 様々な事例から在宅療養者とその家族や環境を理解し、状況に応じた支援方法を説明できる。 2. 訪問看護過程の展開方法について理解し、紙上事例を通して訪問看護計画を立案できる。 3. 在宅療養における災害対策について説明できる。									
学修者への期待等	在宅看護は対象者と家族の尊厳のある生活を支える個別ケアである。従ってプライバシーを守ることやあらゆることの意味決定を尊重すること、観察と判断力など、看護師のより高い資質が求められる。人間理解の学修は基より、あらゆる看護領域の既修の知識・技術が基本となるため、関連領域の振り返りを行った上で臨んでほしい。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	事例にみる在宅看護 ①脳血管疾患患者とその家族				事前学修：教科書2章1-6、7章-4・11を予習する。用語の意味を調べ理解しておく。		30	30	東海林 美幸	
2	事例にみる在宅看護 ②在宅での生活を希望する脳梗塞後遺症のある高齢者				事後学修：学修カード提出、資料、教科書で復習する。		30	30	東海林 美幸	
3	事例にみる在宅看護 ③在宅の認知症高齢者とその家族				事前学修：教科書2章1-2、7章-3を予習する。用語の意味を調べ理解しておく。		30	30	東海林 美幸	
4	事例にみる在宅看護 ④被虐待が疑われる認知症高齢者				事後学修：学修カード提出、資料、教科書で復習する。		30	30	東海林 美幸	
5	事例にみる在宅看護 ⑦在宅で療養する障害者（成人）				事前学修：教科書2章1-3、7章-7・8を予習する。用語の意味を調べ理解しておく。 事後学修：学修カード提出、資料、教科書で復習する。		30	30	東海林 美幸	
6	事例にみる在宅看護 ⑧在宅で療養する障害者（小児）				事前学修：教科書2章1-1、7章-9・13を予習する。用語の意味を調べ理解しておく。 事後学修：学修カード提出、資料、教科書で復習する。		30	30	東海林 美幸	
7	事例にみる在宅看護 ⑤在宅難病療養者とその家族				事前学修：教科書2章1-4、7章-6を予習する。用語の意味を調べ理解しておく。		30	30	東海林 美幸	
8	事例にみる在宅看護 ⑥在宅での生活に不安を抱きつつ退院するALS患者				事後学修：学修カード提出、資料、教科書で復習する。		30	30	東海林 美幸	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
9	事例にみる在宅看護 ⑨ターミナル期の療養者とその家族	事前学修：教科書2章1-5、5章-5・19、7章-7・12、6章-5を予習する。用語の意味を調べ理解しておく。	30	30	東海林 美幸
10	事例にみる在宅看護 ⑩最期まで自宅で過ごしたいターミナル期がん療養者	事後学修：学修カード提出、資料、教科書で復習する。	30	30	東海林 美幸
11	訪問看護過程 ①事例検討（初回訪問、情報収集とアセスメント）	事前学修：地域・在宅看護援助論の訪問看護過程とケアマネジメントについて復習して臨むこと。	30	30	高橋 由美 東海林 美幸
12	訪問看護過程 ②事例検討（看護計画の立案）	事後学修：配布資料および授業を復習し、課題レポート・記録を提出する。	30	30	高橋 由美 東海林 美幸
13	訪問看護過程 ③ロールプレイ・グループワーク		30	30	高橋 由美 東海林 美幸
14	訪問看護過程 ④まとめ		30	30	高橋 由美 東海林 美幸
15	在宅療養における災害対策	事前学修：UNIPAの資料に目を通し、用語の意味を調べ理解しておく。 事後学修：学修カード提出、資料、教科書で復習する。	30	30	高橋 由美 東海林 美幸
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ロールプレイ・グループワーク ）				
教科書	『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術』臺有桂他編、MCメディカ出版				
参考文献	『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』石田千絵他編、MCメディカ出版 『写真でわかる訪問看護』押川真喜子監、インターメディカ 『場面でまなぶ在宅看護論』臺有桂著、MCメディカ出版				
備考	授業内課題は、課題レポート（40％）学修カード（20％）により評価し、適宜フィードバックする。第11・12・13・14回はグループワークを行う。グループワークは担当教員に加え、非常勤助手：江口美知子、赤間美恵子が担当する。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師（病院等に5年以上勤務）として、地域・在宅看護の実務経験（訪問看護師・ケアマネジャー）を活かし、具体的事例や看護実践方法を紹介しながら授業を行う。（東海林）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMb05				
		●	●		●					
科目名	地域包括ケア論				単位認定者	真溪 淳子		試験(筆記)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	60 %
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	地域包括ケアシステムの目的・意義、関連する保健医療福祉制度を理解し、個人・家族が住み慣れた地域で生涯生活する仕組みについて学ぶ。地域包括支援センターの役割・機能について理解を深め、個人・家族を中心として、グループ・関係機関・多職種・専門職が連携し協働する方法、看護職の役割など、地域包括ケアに関する基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアシステムの理念を理解し、関連する諸制度について説明できる。 2. 地域包括支援センターの役割と機能について説明できる。 3. 地域包括ケアにおける高齢者への支援と多職種連携について説明できる。 4. 地域包括ケアにおける障害者・子どもへの支援と多職種連携について説明できる。 									
学修者への期待等	誰もが可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい生活を送り続けられるように、地域の実情に合わせた地域包括ケアシステムの構築が求められています。患者、住民を支援するための多職種連携において、看護職として役割を果たせるよう、地域包括ケアシステムについて理解を深めてください。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	地域包括ケアシステムの理念				事前学修：地域包括ケアシステムの背景と理念について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する		30	30	真溪 淳子	
2	地域包括ケアシステムを取り巻く保健医療福祉の制度				事前学修：地域ケアシステムに関する関係法規と制度について教科書を読んで授業に臨む 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する		30	30	真溪 淳子	
3	介護保険制度における地域包括ケアシステムとケアマネジメント				事前学修：介護保険制度と地域包括ケアシステムの機能について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する		30	30	真溪 淳子	
4	地域包括支援センターの役割と機能				事前学修：授業で提示するテーマについて下調べをする。 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する		30	30	手塚 有希子	
5	地域包括ケアにおける障害者への支援				事前学修：授業で提示するテーマについて下調べをする 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する		30	30	手塚 有希子	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
6	地域包括ケアにおける子どもへの支援	事前学修：授業で提示するテーマについて下調べをする 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する	30	30	手塚 有希子
7	地域包括ケアにおける多職種連携 ①高齢者を対象とした多職種による模擬会議	事前学修：高齢者支援に関する関係職種と多職種連携について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する	30	30	真溪 淳子 東海林 美幸 手塚 有希子
8	地域包括ケアにおける多職種連携 ②障害者・児を対象とした多職種による模擬会議	事前学修：障害者・児支援に関する関係職種と多職種連携について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する	30	30	真溪 淳子 東海林 美幸 手塚 有希子
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）				
教科書	『ナースィング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』石田千絵他編、MCメディカ出版				
参考文献	なし				
備考	授業内課題は各回の提出物で評価し、次の授業の中でフィードバックを行います。第7・8回の授業では多職種連携についてのグループワークを行います。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は保健師の資格と行政保健師・産業保健師等として17年間の実務経験を有しており、その経験を活かして学生が地域包括ケアの実際について理解を深められるように授業を行います。（真溪）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMh03				
			●							
科目名	救急救命学				単位認定者	堀口 雅司		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	3年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	10 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	救急医療とは、一般市民による心肺蘇生法を含めた応急手当、119番通報と救急車の出動、救急隊員や救急救命士による現場での応急処置や救急搬送などの病院前救護から、救急室での救命治療、ICUでの重症患者管理等をいう。本科目では、救急医療機関の役割と要件、周産期・精神科・小児救急医療体制を理解し、緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方、心肺蘇生・応急処置方法を学修する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 救急医療について対象となりうる疾患、外傷について理解し説明できる。 救急医療における看護師の関わりを理解し説明できる。 									
学修者への期待等	医療従事者の一員である看護師として、救急救命学の知識・技術を修得し、実践できるように努めてください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	Chapter 1 救急・急変看護のキホン ・救急・急変時における看護師の役割				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
2	Chapter 1 救急・急変看護のキホン ・一次救命処置 (Basic Life Support) ・二次救命処置 (Advance Life Support)				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
3	Chapter 1 救急・急変看護のキホン ・一次救命処置 (Basic Life Support) ・二次救命処置 (Advance Life Support) ・簡易訓練人形による実技 (2人1組)				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
4	Chapter 1 救急・急変看護のキホン ・一次救命処置 (Basic Life Support) ・二次救命処置 (Advance Life Support) ・簡易訓練人形とAED (紙) による実技 (2人1組)				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
5	Chapter 2 一目でわかる！症状別対応フロー 症例1 ショック 症例2 意識障害				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
6	Chapter 2 一目でわかる！症状別対応フロー 症例3 けいれん 症例4 失神				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
7	Chapter 2 一目でわかる！症状別対応フロー 症例5 麻痺 症例6 頭痛				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
8	Chapter 2 一目でわかる！症状別対応フロー 症例7 めまい 症例8 胸痛	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
9	Chapter 2 一目でわかる！症状別対応フロー 症例9 呼吸困難 症例10 動悸	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
10	Chapter 2 一目でわかる！症状別対応フロー 症例11 腹痛 症例12 吐血・下血	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
11	Chapter 2 一目でわかる！症状別対応フロー 症例13 嘔吐 症例14 発熱	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
12	Chapter 2 一目でわかる！症状別対応フロー 症例15 腰背部痛 症例16 中毒	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
13	Chapter 3 一目でわかる！外傷別対応フロー 症例17 頭部外傷 症例18 脊椎・脊髄損傷	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
14	Chapter 3 一目でわかる！外傷別対応フロー 症例19 胸部外傷 症例20 腹部外傷	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
15	Chapter 3 一目でわかる！外傷別対応フロー 症例21 骨盤外傷 症例22 四肢外傷 症例23 熱傷	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（実技）			
教科書	『ゼロからわかる救急・急変看護』佐々木勝教監、成美堂出版			
参考文献	『応急手当講習テキスト 救急車がくるまでに』一般財団法人救急振興財団編、東京法令出版			
備考	進捗状況や理解度に応じて順序等を変更する可能性がある。 授業内課題は授業後感想等（10%）で評価し、適宜フィードバックする。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

- ・救急救命士としての25年以上の実務経験を活用して、医療人の基礎となる救急医療の重要性を教授する。
- ・医療人の基本となる人間愛と思いやりの心を持った救急対応時の知識と技術を指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMi02			
			●		●				
科目名	災害看護論				単位 認定者			授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間
				授業回数		15 回			
授業の概要	災害の種類と特徴、災害サイクルに応じた課題と対処方法等災害発生時に必要な看護の知識と技術、関連する主要な法制度を学ぶ。災害による人々と社会への影響、健康や生活上の問題について理解し、災害時のトリアージ、応急処置、避難所の開設・運営、要配慮者への対応等を学び、災害看護の基礎的知識を学修する。								
到達目標	1. 災害看護の概要と災害サイクルに応じた看護の役割機能を理解できる。 2. 災害発生時に必要な看護の実践方法について理解できる。								
学修者への期待等	世界各国で頻発する災害に関心を持ち、専門職として果たすべき役割を認識し、知識と技術が修得できるよう応用力、想像力、創造力を発揮し主体的に学んでほしいです。								
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	【災害看護学概論】 ・災害看護の歴史と定義、倫理、災害の種類と災害サイクル ・災害看護学で用いる基本的な概念				事前学修：テキスト2章A. B1～4を読んで授業に臨む 事後学修：授業を振り返り学修カードを提出する		30	30	
2	【災害看護学概論】 ・災害支援活動と関連する法制度及び関係機関等の役割の理解 ・避難関連、災害時の体系的対応に必要な項目				事前学修：2章B5, 6を読んで授業に臨む 事後学修：教科書・配布資料で復習する		30	30	
3	【災害時に求められる支援活動】 ・災害サイクル各期に応じた看護活動： 災害時の看護の役割と健康問題				事前学修：2章C①～⑥まで読んで授業に臨む 事後学修：教科書・配布資料と返却された小テストで復習する		30	30	泉田 さとみ
4	・災害直後、急性期、亜急性期の看護活動： 災害拠点病院における救助活動やDMATの活動等				事前学修：2章D①3章A, B, C, Dを読んで臨む 事後学修：教科書・配布資料と返却された小テストで復習する		30	30	泉田 さとみ
5	・東日本大震災後の活動から学ぶ1： 巨大津波後の被災地で求められた活動				事前学修：授業前に提示するテーマについて下調べをする 事後学修：授業で取り上げたポイント及び返却された小テストについて復習する		30	30	手塚 有希子
6	・東日本大震災後の活動から学ぶ2： 原子力災害による被災地で求められた活動				事前学修：授業前に提示するテーマについて下調べをする 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する		30	30	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
7	【理論と実践の統合】 ・被災当事者と遺族への支援 支援者のストレスマネジメント	事前学修：2章F抄読 事後学修：教科書・配布資料で復習する	30	30	阿部 幹佳
8	・災害時に必要な技術1：災害トリアージ	事前学修：2章B③を 読んで授業に臨む 事後学修：返却され た小テストの復習と 課題レポートの提出	30	30	坂村 佐知 泉田 さとみ 手塚 有希子
9	・災害時に必要な技術2：応急処置・搬送法	事前学修：教科書の 巻末資料を読んで授 業に臨む 事後学修：課題レ ポートの提出	30	30	
10	・避難所での支援1：生活環境整備 (感染対策、排泄、疾病の増悪予防の実際)	事前学修：2章D①～ ③を読んで授業に臨 む 事後学修：課題レ ポートの提出,教科 書・配布資料で復習 する	30	30	
11	・避難所での支援2：要配慮者の対応 (精神疾患、認知症の対応も含む)	事前学修：2章E③～ ⑤を読んで授業に臨 む 事後学修：課題レ ポート,教科書・配布 資料で復習する	30	30	
12	・避難所での支援3：周産期福祉避難所 (母子支援、子どもの心のケア、障害を持つ児のケ ア)	事前学修：2章E①～ ②を読んで授業に臨 む 事後学修：課題レ ポートの提出,教科 書・配布資料で復習 する	30	30	
13	【復興期における地域の健康課題と支援の実際】 ・復興期における被災地の実際 (被災当事者による報告等について)	事前学修：授業前に 提示するテーマにつ いて下調べをする 事後学修：授業で取 り上げたポイントに ついて復習する	30	30	手塚 有希子
14	・地域住民の心のケアの実践の中で協働して地域再構 築に取り組んだ事例紹介	事前学修：授業前に 提示するテーマにつ いて下調べをする 事後学修：授業で取 り上げたポイントに ついて復習する	30	30	
15	【総括】 ・災害発生時に必要な看護とは（学修成果発表・ま とめ）	事前学修：これま での授業を教科書や配 布資料で復習する 事後学修：これま での講義や演習をと おして課題レポートを 提出する	30	30	坂村 佐知 泉田 さとみ 手塚 有希子

アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、PBL型演習、実技）
教科書	『系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学』庄野泰乃他編、医学書院
参考文献	『看護と放射線』日本アイソトープ協会編、丸善出版 『ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践③：災害看護』酒井明子他著、MCメディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 精神看護学②精神障害と看護の実践』出口禎子他編、MCメディカ出版
備考	8回、9回、10回、11回、12回、15回は阿部(幹)、坂村、手塚、泉田で担当し、適宜フィードバックをする。 評価は授業内課題100%（小テスト40%、課題レポート50%、授業内態度10%）とする。 実技は8回、9回、PBLは10回、11回、12回、グループワークは13回、14回、15回で実施する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
--

<p>教員は看護師資格（実務経験5年以上）を有し、東日本大震災で被災地での救護活動や病院内での対応、地域における被災者支援の経験があります。その経験を活かした実践的な授業を行います。（阿部、坂村、手塚、泉田）</p>
--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMi07			
	●		●	●	●				
科目名	看護研究 I				単位認定者	齋藤 美華		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
						授業時間数	15 時間		
				授業形態	講義	授業回数	8 回		
授業の概要	看護研究における倫理、文献検索の方法、研究方法と研究のプロセスについて学び、看護実践の中で疑問あるいは課題として捉えた現象を解決するために看護研究を活用する基礎的知識を学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究並びに研究倫理の意義について述べるができる。 2. 看護研究の方法、プロセスを説明できる。 3. 興味関心のある研究テーマ、研究によって明らかにしたい問いを説明できる。 4. 文献検索データベースを活用して学術論文を検索することができる。 								
学修者への期待等	教科書や事前に配布する資料を予習して授業に臨み理解を深めるとともに、看護実践の中での疑問や課題を意識化しながら研究への関心を高めてください。								
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	看護研究・研究倫理の意義、必要性				事前学修：教科書「看護研究とは」「研究における倫理的配慮」を読んで臨む			30	0
2	看護研究の方法とプロセス				事前学修：教科書「研究デザイン」を読んで臨む			30	0
3	文献検索の方法				事前学修：教科書「情報の検索と吟味」を読んで臨む 事後学修：自分の関心領域の研究論文を検索し概観する			30	60
4	領域別看護研究事例① (基礎看護学、成人看護学)				事前学修：教科書「ケースレポート・事例研究の進め方」を読んで臨む 事後学修：自分の関心領域の研究論文を検索し、必要な文献を収集・概観する			30	60
5	領域別看護研究事例② (老年看護学、母性看護学、小児看護学)				事前学修：配布資料を読んで臨む 事後学修：自分の関心領域の研究論文を検索し、必要な文献を収集・概観する			30	60
6	領域別看護研究事例③ (地域・在宅看護学、公衆衛生看護学)				事前学修：配布資料を読んで臨む 事後学修：自分の関心領域の研究論文を検索し、必要な文献を収集・概観する			30	60
7	研究方法と研究計画立案				事前学修：教科書「研究を伝える」を読んで臨む 事後学修：上記、収集した文献を概観し、自分の関心のある課題の研究の意義や研究方法の動向をまとめる(文献検討レポート)			30	60
8	看護研究論文作成の進め方 研究テーマ検討				事前学修：配布資料を読んで臨む 事後学修：上記、収集した文献を概観し、自分の関心のある課題の研究の意義や研究方法の動向をまとめる(文献検討レポート)			30	90
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(課題発見)								
教科書	『系統看護学講座 別巻 看護研究』坂下玲子他書、医学書院 『最新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康著、講談社現代新書								
参考文献	『看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方』松本孚他編、照林社 『初めての看護研究』前田樹海著、ナツメ社								
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題は、文献検討レポート(70%)、授業後の学び(30%)で評価し、授業内で適宜フィードバックする。 ・本科目は課題発見学修を中心とする。 								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は老年看護学分野で5年以上の実務経験と、看護師および保健師の資格を有しており、その経験を活かして看護研究の基礎および看護実践から看護研究への活用について理解が深まるような実践的な授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMj06				
	●	●	●	●	●					
科目名	成人看護学実習				単位認定者	佐藤 富美子		認知領域 (知識)	30 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	3 単位	評価の方法	精神運動領域 (技術)	50 %
					授業形態	実習	授業時間数		120 時間	情意領域 (態度)
							授業回数		集中	
授業の概要	これまで学んだ知識・技術・態度を基盤に、健康障害を持ち手術や急性状態にある患者・家族を多面的に理解し、対象者のニーズを捉え、身体侵襲に伴う変化への対応と心身の回復及び社会生活への適応が図れるよう支援する看護の実際を学び、成人看護の実践能力を修得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象の看護過程が展開できる。 2. 看護過程に基づいた看護実践ができる。 3. 医療チームの一員としての役割を理解し行動できる。 4. 看護職を目指す学生としての責任を認識した行動ができる。 ※主に外科的治療を受ける患者、身体侵襲が大きい検査等を受ける患者、慢性疾患の急性増悪の患者、呼吸循環状態が変化しやすい患者の看護について学修する。									
学修者への期待等	患者の生命に直結する循環・呼吸・体温・意識の安定、予測される危機状態や合併症の予防、安楽・安全に向けた支援、家族への支援に焦点をあてた急性期看護の基礎的な実践能力を修得する実習です。これまで学修した病態治療学、成人看護学、周術期看護論を復習し、実習に臨みましょう。									
授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
I. 実習期間 3週間 II. 実習施設 病院 III. 実習計画 1. 学内 1) オリエンテーションで実習の全体を把握し、事前学習を十分に行い実習に臨む 2. 病院 1) 学生1名で患者1名を受け持ち、看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護を実践する。 2) 実習目標到達に向けて、受け持ち患者の看護の方向性を把握し実施した援助を振り返るために、テーマを決めてカンファレンスを実施する。 3) 受け持ち患者だけではなく、チームメンバーの受け持ち患者についても情報を共有しながら学びを深める。 3. まとめ 1) 実習で学んだことをまとめ、受け持ち患者の看護援助を振り返り、理論的にまとめて発表することにより、成人看護についての考えを深める。					事前学修： 1. 成人看護学実習目標と課題(記録様式I)の作成 2. 文献学習 1) 実習病棟の診療科に関する学習(解剖生理、疾患、検査、治療、看護など) 2) 手術前患者の看護、術後の回復過程を促す看護、麻酔の種類と副作用についての学習 3. 技術学習：成人看護に必要な日常生活援助技術や診療援助技術、また診療科特有の看護技術について学ぶ 4. 該当診療科の看護過程 5. 看護技術到達度の評価 事後学修： 1. 日々の実習に向けた準備(知識・技術) 2. 実習記録の作成 3. 実習での学びと今後の自己学習課題に関するレポートの作成			60	90	
教科書	『看護データブック』神田清子他編、医学書院 『看護学テキストNiCE 成人看護学 成人看護技術』野崎真奈美他編、南江堂									
参考文献	オリエンテーションおよび実習中に適宜提示する									
備考	担当：佐藤富美子、阿部春美、岡崎優子、伊藤茉莉子、遠藤美穂子、泉田さとみ、小倉真紀、非常勤助手 大石慶子、松田郷子									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
教員は成人看護学分野で5年の実務経験と看護師・保健師資格を有し、その経験を活かした実践的な授業を展開する。(佐藤)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMJ07				
	●	●	●	●	●					
科目名	老年看護学実習				単位認定者	齋藤 美華		認知領域 (知識)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	3 単位	評価の方法	精神運動領域 (技術)	30 %
					授業形態	実習	授業時間数		120 時間	情意領域 (態度)
授業の概要	健康段階、発達段階、看護の多様な場と倫理を踏まえ、これまで学んだ知識・技術・態度を基盤に、高齢者の健康の促進、回復、生活の質の維持向上を目指す、老年看護の実際を学ぶ。老年期の対象者のニーズを捉え、保健・医療と福祉の連携についても学修し、老年看護の実践能力を修得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 対象の状態を理解するために必要な身体的・精神的・社会的変化が理解できる 老年期の対象の多様な生活背景による価値観を尊重し、尊厳と権利を擁護するとともに、援助関係・信頼関係を形成できる 老年期の対象を取り巻く保健医療福祉看護職、関連職種役割を理解し、保健医療福祉サービスの継続に必要な連携・協働について理解できる 自己の看護実践過程や方法を振り返り、自己の持つ課題、看護実践方法の改善課題を整理し、専門職業人として成長し続ける態度を修得する 									
学修者への期待等	老年期にある人々は、人生の最終段階を生活している。生老病死に関わる苦難に直面しながら、統合に向かって生きていく人であり、生涯発達する存在である。老年期にある人が自分らしくありのままの自分を受け入れ、生きる意味を見出すことができるよう支援者としての看護の役割を考えてほしい。高齢者一人ひとりとの出会いを大切にしてほしい。									
授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
I. 実習期間 3週間 II. 実習施設 病院 介護老人保健施設 III. 実習計画 1. 学内 <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーションを通して実習目標の全体を把握する。 介護老人保健施設の概要を講義を通して理解する。 2. 病院 <ol style="list-style-type: none"> 1週目： ・患者1名を受け持ち、情報収集・アセスメント・看護上の問題を明確にする。 ・受け持ち患者のケアの見学・実施をする。 ・学生カンファレンスを行い、1日の振り返りと翌日の援助計画の立案をする。 2週目： ・受け持ち患者に必要な看護計画の立案・評価をする。 ・立案した看護計画に沿ったケアの実施・評価・修正をする。 ・学生カンファレンスを行い、1日の振り返りと翌日の援助計画の立案をする。 ・受け持ち患者への退院支援・退院調整の実際を理解する。 ・2週間を通しての学びの発表を行う。 3. 介護老人保健施設 <ol style="list-style-type: none"> 施設では、入所サービスと通所サービスの実際を見学する。 ケアプランを閲覧、入所の目的、入所者・家族の意向、サービス内容を学ぶ。 サービス担当者会議、判定会議に参加して、会議の目的・内容、多職種連携の実際を学ぶ。 コミュニケーション、ケア見学等を通して、施設での高齢者の生活を知る。 経管栄養法の実際を見学する。 5) 1週間を通しての学びのテーマカンファレンスを行う。					事前学修：実習開始前に実習要項を十分に読み、参加する。 <病棟> <ol style="list-style-type: none"> 受け持ち高齢者を理解するために必要な人体機能と構造、病態・検査・治療・看護について理解する。 受け持ちの高齢者を理解するために必要な加齢に伴う身体的・精神的・社会的特徴を理解する。特に加齢に伴う身体的変化の理解は高齢者を理解上で重要となる。 2年次に学修した老年期の看護過程を振り返り学修して臨む。 受け持ち高齢者に必要な看護技術（バイタルサインの測定、清潔ケア）を学修する。 <施設> <ol style="list-style-type: none"> 介護保健施設の特徴と看護師の役割を理解する。 事後学習：病院・施設の学びを整理する。			90	60	
教科書	既修科目の教科書									
参考文献	『カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術』大塚眞理子編著、医歯薬出版 『系統看護学講座 成人看護学 1～11』(病態治療学 I～IVの教科書) 『生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図』山田律子他編、医学書院 『手技と事例で学ぶ高齢者のフィジカルアセスメント』角濱春美著他、メディカ出版									
備考	担当：齋藤美華、桑田恵美子、菅原尚美、小倉真紀、非常勤助手：遠藤理加、高橋静子、佐々木ゆみ子、江口美和子									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は老年看護学分野で5年以上の実務経験と、看護師としての資格を有しており、その経験を活かして老年看護学の理解を深め、学生が臨床現場に繋げることができるような実践的な授業を行います。(齋藤、桑田、菅原、小倉)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMJ08				
	●	●	●	●	●					
科目名	小児看護学実習				単位認定者	佐藤 幸子		認知領域 (知識)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	精神運動領域 (技術)	20 %
					授業形態		実習		授業回数	集中
授業の概要	健康障害を持つ子どもと家族がおかれている状況を理解し、個々の発達段階と健康段階を踏まえた援助について学ぶ。また、これまで学んできた知識・技術・態度を基盤に、子どもやその家族、医療従事者との関わりによる看護の実際を学び、小児看護の実践能力を修得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 子どもとその家族の人権を尊重し、積極的に関わるができる。 子どもの発達段階や健康段階に合わせた看護が考えられ、小児看護の役割が理解できる。 子どもやその家族・実習関係者とコミュニケーションを図り、良好な関係形成のもと援助が実践できる。 									
学修者への期待等	実習では、様々な場面を通し子どもとその家族への看護を考え実践する機会となる。これまでの既習の学修（小児看護学概論・小看護学援助論・小児看護学援助方法）を十分復習し、実践に活用することを期待する。また、自身の体調管理にも十分務め、積極的・倫理的な姿勢で対象へ関わることを望む。									
授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
I. 実習期間 2週間 II. 実習施設 保育所、病院（小児外来、病棟） III. 実習計画 1. 学内 1) オリエンテーションを受け実習詳細を把握し、事前学習を十分行い実習に臨む 2) 実習に必要な援助技術を演習し、実習に臨む 2. 保育所 1) 保育所の子ども達と関わることで、健康な子どもの成長発達を学ぶ 3. 小児外来 1) 小児外来にて医療者の患者やその家族への関りを見学し、外来の機能・看護師の役割を学ぶ 4. 病棟 1) 患者1名を受け持ち、看護過程を展開する 2) 患者とその家族とのコミュニケーションを通し、良好な関係形成について学ぶ 5. まとめ 1) 実習で学んだことをまとめ、より健康的な成長発達を支援する看護師の役割について理解を深める					事前学修： 【4月学内】 ①乳幼児～思春期の成長発達の 一覧を作成 ②指定された5疾患に関する学修 （疾患の一般性） 【1週目】 ①保育所実習に向け、指定の動画を視聴し、乳幼児期の成長発達を整理 ②1週目の保育所・外来実習に必要な技術（手順・ポイント）の学修 ③小児外来の機能について整理 ④病児のバイタルサイン測定・その他観察手順とポイントの整理 上記を基にした技術練習 【2週目】 ①2年次提出の看護過程の復習 事後学修： 【1週目】 ①保育所実習事後レポート ②外来実習事後レポート 【2週目】 ①病棟実習事後レポート			90	90	
教科書	既修科目の教科書									
参考文献	『エビデンスに基づく小児看護ケア関連図』山口桂子・柴邦代他編、中央法規 『発達段階からみた小児看護過程』石黒彩子他編、医学書院 『写真でわかる小児看護技術』山元恵子監、インターメディアカ 『根拠と事故防止からみた小児看護技術』浅野みどり編、医学書院									
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 学内カンファレンス・記録提出については教員の指示に従う 担当者：専任教員 佐藤幸子、武田美奈子、岡崎草代夏 非常勤助手 鹿野ひとみ、高橋あつ子、大石慶子、江口美知子 ゲストスピーカー 工藤俊平（実習オリエンテーション） ※この科目は統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
看護師・保健師としての7年以上の実務経験を活かし、実践に則した内容を教授する。（佐藤）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMj09				
	●	●	●	●	●					
科目名	母性看護学実習				単位認定者	田辺 圭子		認知領域 (知識)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	精神運動領域 (技術)	30 %
					授業形態	実習	授業時間数		80 時間	情意領域 (態度)
							授業回数		集中	
授業の概要	多様な場、健康段階、発達段階及び倫理を踏まえ、母子とその家族のニーズをとらえ、妊娠・分娩・産褥期（新生児の各期）にある母子とその家族の心身の変化を理解する。これまで学んだ知識・技術・態度を基盤に、積極的にいかかわりながら母性看護の実際を学び、母性看護の実践能力を修得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の身体的変化、心理・社会的変化を理解できる。 2. 母子とその家族の個別的な看護アセスメントを学び、必要な援助を実践できる。 3. 母子の継続支援の必要性について考察できる。 4. 実習を通し、生命の尊厳や母性の尊重及びリプロダクティブヘルスについて考察できる。 5. 主体的に実習に臨み、母性看護について考察し、カンファレンス等を通して自己の考えを深めることができる。 									
学修者への期待等	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期を順調に経過するためには、看護者の的確な観察や習熟した看護技術の提供が必要とされる。母性看護学概論・母性看護学援助論・母性看護学援助方法を復習し、知識と技術を再確認すること。また、日頃接する機会が少ない妊婦・産婦・褥婦・新生児を対象とするため、看護実践の機会を大切に、積極的に実習に臨むこと。									
授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
I. 実習期間 2週間 II. 実習施設 病院、母子支援施設 III. 実習計画 1. 学内 1) 実習オリエンテーション (病院の概要や役割、機能についての理解) 2) 実習に必要な援助技術を演習し、実習に臨む。 2. 病院 1) 機能別実習(産科外来、分娩室、褥室、新生児室)で看護ケアの実際を学修する。 2) 1組の母児を受け持ち、必要な援助を実践し看護過程を展開する。 また必要な保健指導について考える。 3. 母子支援施設 1) 地域における母子支援についての実際を学ぶ。 4. まとめ 1) グループ毎に学修の成果をディスカッションにて振り返り、学びを共有する。 2) 保健指導を発表し、母性看護の役割と責任についての自己の考えを深める。					事前学修： ①実習要項を十分に読み、事前課題を完成させて実習に参加する ②妊産褥婦・新生児の身体的変化、心理・社会的変化を復習する ③母子のフィジカルアセスメントに必要な母性特有の看護技術を復習する ④臨床：実習施設の周産期医療の特徴を学修する ⑤母子支援施設の概要を学修する 事後学修： 生命の尊厳や母性の尊重及びリプロダクティブヘルスについて、自分の考えをまとめる			90	60	
教科書	既修科目の教科書									
参考文献	『ウエルネスからみた母性看護過程＋病態関連図』石村由利子他著、医学書院 『ウエルネスの視点にもとづく母性看護過程』太田操他著、医歯薬出版株式会社 『根拠がわかる 母性看護過程 事例で学ぶウエルネス志向型ケア計画』中村幸代編、南江堂 『根拠と事故防止からみた母性看護技術』石村由利子編、医学書院 『根拠がわかる 母性看護技術』中村幸代編、南江堂 『病気がみえるVol.10 産科』医療情報科学研究所編、メディックメディア									
備考	担当：田辺圭子、佐藤理恵、坂村佐知、非常勤助手：畑中晶子、他1名									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

教員は看護師・助産師（病院等5年以上の実務経験）としての実務経験を活かし、学修した母性看護の知識や技術を臨地実習において実践できるよう指導します。（田辺、佐藤、坂村）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMj10				
	●	●	●	●	●					
科目名	精神看護学実習				単位認定者	阿部 幹佳		認知領域(知識)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	精神運動領域(技術)	30 %
						授業時間数	80 時間		情意領域(態度)	30 %
				授業形態	実習	授業回数	集中			
授業の概要	精神疾患や障害を持つ対象のニーズを捉え、精神疾患や障害を持つ対象との関わりを通してこころを病むということを理解する。これまで学んだ知識・技術・態度を基盤に精神疾患を抱える人と関わるプロセスを通して精神看護の実際を学び、精神看護の実践能力を修得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 対象者とのかかわりの中で、信頼関係を構築するための看護師－患者関係を考察できる。 様々な立場の人とのかかわりにおいて生じる自分の気持ちを吟味し、自己理解を深めることができる。 対象者を普遍的セルフケア要素から理解し、対象者が抱えている課題をともに明らかにしていくことの重要性を考察できる。 こころを病む人が地域で生活していく上で求められる看護職の役割を理解できる。 									
学修者への期待等	精神疾患や障害を持つ対象とのかかわりでは対象者に寄り添う姿勢が求められます。日々のかかわりをていねいに振り返り、自己理解を深め自らの態度や行動を柔軟に変化させていくことで、対象者との間に治療的な相互作用が生まれる体験をしてください。また、対象者を深く理解するためには理論的な知識も不可欠ですので、これまで学んだ内容をしっかりと整理したうえで実習に臨んでください。									
授業計画					準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
I. 実習期間 2週間 II. 実習場所 病院 III. 実習計画 1 学内 実習全体オリエンテーションで実習の全体を把握し、事前学修を十分行い実習に臨む 2 病院実習 1) 対象者とのかかわりを通して自分自身の対人関係の傾向について考察する 2) 対象者とのかかわりを通して援助関係を築く 3) 患者の全体像をとらえ、精神の健康問題が生活に及ぼす影響を理解するとともに、対象者の意思を尊重し看護が実践できる 4) 外来や訪問看護部門での看護師のかかわりを見学し、対象者の地域での生活を支える看護師の役割、保健・福祉・医療チームとの連携を学ぶ 3 まとめ 実習で学んだことを他の学生と共有し、振り返りを通して看護職を目指す自己の課題と精神科医療を利用する対象者への看護の役割について理解を深める					事前学修：実習開始前に実習要項を十分に読み、参加する。 1. 基本的な知識（入院形態、抗精神病薬、疾患、多職種役割、退院促進事業、社会資源についてのレポートを作成する。 2. プロセスレコードを記載する。 3. 在宅療養支援実習施設の概要を記載する。 4. 精神看護学実習の自己目標を記載する 事後学修： 1. 日々の実習に向けた準備(知識・技術) 2. 実習記録の記載 3. 精神看護学実習の自己目標の到達度を記載する				60	60
教科書	既修科目の教科書									
参考文献	なし									
備考	担当：阿部幹佳、加藤真理子、非常勤助手：長橋美栄子、高橋あつ子									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、精神看護分野において5年以上の実務経験、看護師の資格を有しています。これらの実務経験を踏まえ、学修した精神看護の知識や技術を臨地実習において実践できるよう指導します。(阿部・加藤)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMk02				
		●	●		●					
科目名	公衆衛生看護学援助論 I				単位 認定者	真溪 淳子		試験 (筆記)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	3年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の 方法	授業内課 題	60 %
		*保健師選択制 必修			授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
						授業回数	15 回			
授業の概要	地域の健康に関する情報をアセスメントし、健康課題を明らかにするための地域診断の理論と方法を学ぶ。地域診断に基づく計画策定・実践・評価について理解を深めるとともに、学校・産業の場における健康相談、健康教育、組織活動など、対象者や関係者と協同した健康課題解決のプロセスを学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域診断に関連する理論の概要と地域診断の目的について説明できる。 2. 地域診断のプロセスについて事例展開により理解できる。 3. 学校保健の概要と学校における基本的な公衆衛生看護活動について説明できる。 4. 産業保健の概要と産業における基本的な公衆衛生看護活動について説明できる。 									
学修者への 期待等	公衆衛生看護学概論に基づき、公衆衛生看護活動の基本を学ぶ科目です。保健師活動の土台となる地域アセスメントについて理解を深め、学校保健と産業保健における養護教諭と保健師の活動と役割について学びます。公衆衛生看護学実習 I につながる科目になりますので、しっかり理解を深めることを期待します。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	地域アセスメント／地域診断の理論と目的				事前学修：地域アセスメントの定義・基盤となる理論について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容について復習する		30	30	真溪 淳子	
2	地域アセスメントによる健康課題の把握				事前学修：地域アセスメントによる健康課題の特定方法と優先性について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容について復習する		30	30	真溪 淳子	
3	地域の健康課題に対応した保健事業計画立案				事前学修：保健事業計画策定のプロセスと実施計画の設定について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容について復習する		30	30	真溪 淳子	
4	地域の健康課題に対応した保健事業の実施と評価				事前学修：保健事業計画の実施とその波及効果、評価方法について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容について復習する		30	30	真溪 淳子	
5	学校保健の概要				事前学修：学校保健の目的・動向・関係する教職員について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容について復習する		30	30	小林 淳子	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
6	学校保健の行政体系と法体系	事前学修：学校保健制度としくみについて教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容について復習する	30	30	小林 淳子
7	児童期・学童期・青年期の発達課題と健康	事前学修：学校保健における対象者の健康課題への対策について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で指摘した内容について復習する	30	30	小林 淳子
8	学校における公衆衛生看護活動の展開① (アセスメント、学校保健計画と保健室経営計画)	事前学修：学校保健活動の展開と養護教諭の職務について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容について復習する	30	30	小林 淳子
9	学校における公衆衛生看護活動の展開② (学校保健の組織的展開、集団・個人を対象とする学校保健活動、学校保健活動の評価)	事前学修：学校保健活動の展開と養護教諭の職務について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容について復習する	30	30	小林 淳子
10	産業保健の概要	事前学修：産業保健の目的・動向・保健師の役割について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する	30	30	真溪 淳子
11	産業保健の行政体系と法体系	事前学修：産業保健制度としくみについて教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する	30	30	真溪 淳子
12	労働環境の変化と健康	事前学修：労働環境の現状と労働者の健康課題について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する	30	30	真溪 淳子
13	産業における公衆衛生看護活動の展開① (アセスメント、安全衛生計画)	事前学修：産業保健活動の展開と保健師の職務について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する	30	30	真溪 淳子
14	産業における公衆衛生看護活動の展開② (産業保健の組織的展開、集団・個人を対象とする産業保健活動、産業保健活動の評価)	事前学修：産業保健活動の展開と保健師の職務について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する	30	30	真溪 淳子

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
15	学校保健・産業保健における健康危機管理	事前学修：学校保健と産業保健における健康危機管理の目的とリスクマネジメント、保健師の役割について教科書を読んで授業に臨む 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する	30	30	真溪 淳子
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）				
教科書	『標準保健師講座2 公衆衛生看護技術』中村裕美子他著、医学書院 『標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動』中谷芳美他著、医学書院				
参考文献	『最新 公衆衛生看護学 各論2』宮崎美佐子他編、日本看護協会出版会 『国民衛生の動向2025/2026』厚生労働統計協会著、厚生労働統計協会著				
備考	授業内課題は各回の提出物で評価し、次の授業の中でフィードバックを行います。 第3回の授業では保健事業計画の立案についてグループワークを行います。 この科目は公衆衛生看護学実習Ⅰの履修要件となっている。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は保健師の資格と行政保健師・産業保健師等として17年間の実務経験を有しており、その経験を活かして、学生が公衆衛生看護活動の理論と活動の意義について理解を深められるように授業を行います。（真溪）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMk03				
		●	●		●					
科目名	公衆衛生看護学援助論Ⅱ				単位認定者	小林 淳子 真溪 淳子		試験 (筆記)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	3年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	60 %
		*保健師選択制 必修			授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
						授業回数	15 回			
授業の概要	市町村や保健所等行政の保健師が実施する母子保健、成人保健、高齢者保健、健康づくり、感染症・難病対策、健康危機管理の概要と関連法規、保健師の役割を理解する。地域包括ケアシステムが推進される中、多職種連携における保健師の機能、併せて行政の場で個人・家族、集団・組織を対象とする具体的な支援方法を学び、保健師の実践能力に関する基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 市町村や保健所等行政の保健師活動の概要と根拠となる関係法規について説明できる。 行政の保健師による基本的な健康支援活動について説明できる。 健康危機管理・地域包括ケアシステムにおける保健師の役割について説明できる。 障害児・者保健、難病対策等における多職種連携とチームの一員としての保健師の役割について説明できる。 									
学修者への期待等	本科目は4年次開講の『公衆衛生看護学援助方法』『公衆衛生看護学実習Ⅱ』へとつながり、保健師としての実践能力の基盤を形成する科目です。既修の公衆衛生学疫学公衆衛生看護学概論の学修と統合して学びが深まるよう期待します。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	母子保健に関する法律と体系				事前学修：母子保健医療福祉の動向について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する		30	30	小林 淳子	
2	母子保健における支援技術の基本① (家庭訪問、健康相談、健康教育、健康診査)				事前学修：母子/親子・女性の健康課題と支援について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する		30	30	小林 淳子	
3	母子保健における支援技術の基本② (地域組織活動、自主グループ支援)				事前学修：母子/親子・女性の健康課題と支援について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する		30	30	小林 淳子	
4	成人保健・高齢者保健・健康づくりに関する法律と体系				事前学修：成人・高齢者保健福祉の動向について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する		30	30	小林 淳子	
5	成人保健・高齢者保健・健康づくりにおける健康支援① (家庭訪問、健康相談、健康教育、健康診査)				事前学修：成人・高齢者の健康課題と支援について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する		30	30	小林 淳子	
6	成人保健・高齢者保健・健康づくりにおける健康支援② (地域組織活動、自主グループ支援)				事前学修：成人・高齢者の健康課題と支援について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する		30	30	小林 淳子	
7	障害児・者保健における法律と体系				事前学修：障害児・者保健福祉の動向について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する		30	30		

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	障害児・者保健における健康支援	事前学修：障害者・ 児の健康課題と支援 について教科書を読 み授業に臨む 事後学修：授業で取 り上げた内容を復習 する	30	30	
9	精神保健に関する法律と体系	事前学修：精神保健 医療福祉の動向につ いて教科書を読み授 業に臨む 事後学修：授業で取 り上げたポイントに ついて復習する	30	30	真溪 淳子
10	精神保健における健康支援	事前学修：精神障害 者の健康課題と支援 について教科書を読 み授業に臨む 事後学修：授業で取 り上げたポイントに ついて復習する	30	30	真溪 淳子
11	難病対策に関する法律と体系	事前学修：難病対策 の動向について教科 書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取 り上げたポイントに ついて復習する	30	30	真溪 淳子
12	難病対策における健康支援	事前学修：難病の患 者の病状と家族の介 護負担、その支援に ついて教科書を読み 授業に臨む 事後学修：授業で取 り上げたポイントに ついて復習する	30	30	真溪 淳子
13	感染症対策に関する法律と体系 感染症対策における健康支援	事前学修：難病対策 の動向について教科 書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取 り上げたポイントに ついて復習する	30	30	真溪 淳子 手塚 有希子
14	健康危機管理に関する法律と体系 健康危機管理における保健師の役割	事前学修：健康危機 管理に関わる法律と 対策、保健師の役割 について教科書を読 み授業に臨む 事後学修：授業で取 り上げたポイントに ついて復習する	30	30	真溪 淳子 手塚 有希子
15	地域包括ケアシステムに関する法律と体系 地域包括ケアシステムにおける多職種連携・協働と 保健師の役割	事前学修：地域包括 ケアシステムに関わ る法律とシステムに ついて教科書を読み 授業に臨む 事後学修：授業で取 り上げたポイントに ついて復習する	30	30	真溪 淳子 手塚 有希子
アクティブ・ ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）				
教科書	『標準保健師講座2 公衆衛生看護技術』中村裕美子他著、医学書院 『標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動』中谷芳美他著、医学書院				
参考文献	『最新 公衆衛生看護学 各論1』宮崎美佐子他編、日本看護協会出版会 『新版 保健師業務要覧』井伊久美子他編、日本看護協会出版会 『国民衛生の動向2026/2027』厚生労働統計協会著、厚生労働統計協会				
備考	授業内課題は各回の提出物で評価し、次の授業の中でフィードバックを行います。 第3・6回の授業ではグループワークを行います。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

行政保健師として25年間の実務経験を有しており、保健センターや地域包括支援センターでの各ライフステージを対象とした保健師活動や健康危機管理活動の経験を活かし、学生が公衆衛生看護の実際について理解を深められるように授業を行います。(手塚)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMk05			
			●		●				
科目名	公衆衛生看護管理論				単位認定者		授業内課題	100 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	3年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法 <td></td>	
		* 保健師選択制 必修			授業形態	講義	授業時間数		30 時間
				授業回数		15 回			
授業の概要	看護管理論の学びと統合し、組織・地域の健康水準の向上、職員や住民の権利の保障、効果的・効率的な公衆衛生看護活動の実践を目的とする公衆衛生看護管理の機能を学ぶ。保健師は新任期から公衆衛生看護管理機能を担うことを理解し、地域診断と保健師活動に基づく事業化・施策化のプロセス、並びに健康危機管理における保健師の役割と機能について事例を通して学び、公衆衛生看護管理に関する基礎的知識を学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護管理の目的と機能を説明できる 2. 保健師のキャリアに対応した公衆衛生看護管理機能について説明できる 3. 保健・福祉に関する施策化と事業化のプロセスを説明できる 4. 健康危機管理の理念・目的と健康危機に対応する保健活動について説明できる 								
学修者への期待等	本科目は4年次開講の『公衆衛生看護学援助方法』『公衆衛生看護学実習Ⅱ』へとつながり、保健師としての実践能力の基盤を形成する科目です。既修の『公衆衛生学』『保健医療福祉行政論』『疫学』『公衆衛生看護学概論』の学修と統合して学びが深まるよう期待します。								
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	公衆衛生看護管理の目的・機能								
2	公衆衛生看護管理の機能の概要① (実務的管理機能、職位に付随する管理機能)								
3	公衆衛生看護管理の機能の概要② (基盤となる管理機能、統括保健師の役割)								
4	公衆衛生看護管理の事例検討				事前学修：公衆衛生看護管理の基本を復習して授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する		30	30	真溪 淳子 手塚 有希子
5	行政における政策・施策・事業の体系とプロセス								工藤 広一
6	保健福祉事業の基盤となる地域アセスメント				事前学修：公衆衛生看護における地域アセスメントの学修を復習して授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する		30	30	小林 淳子
7	保健福祉事業計画と評価計画				事前学修：保健医療福祉における施策化と事業化について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する		30	30	小林 淳子
8	保健福祉事業の予算と質のモニタリング				事前学修：予算編成・予算管理について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する		30	30	小林 淳子
9	保健福祉施策化・事業化の事例検討				事前学修：保健医療福祉の施策化と事業化について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する		30	30	真溪 淳子 手塚 有希子

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
10	健康危機管理の理念と目的、健康危機の分野と特性				
11	健康危機ガイドライン、リスクマネジメント				
12	災害に対する保健活動				
13	感染症集団発生に対する保健活動				小野寺 恵美子
14	児童虐待に対する保健活動				小室 陽子
15	健康危機管理の事例検討	事前学修：健康危機管理の理念と目的、災害保健活動と感染症集団発生への保健活動について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する	30	30	真溪 淳子 手塚 有希子
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）				
教科書	『標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論』標美奈子他著、医学書院				
参考文献	『公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護の方法と技術』佐伯和子責任編、医歯薬出版株式会社 『新版 保健師業務要覧』井伊久美子他編、日本看護協会出版会				
備考	授業内課題は各回の提出物で評価し、次の授業の中でフィードバックを行います。 第4・9・15回の授業ではグループワークを行います。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

行政保健師として25年間の実務経験を有しており、保健センターや地域包括支援センターでの保健師活動と行政職としての行政事務の経験を活かし、学生が公衆衛生看護管理の実際について理解を深められるように授業を行います。（手塚）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMk06				
	●	●	●	●	●					
科目名	公衆衛生看護学実習 I				単位 認定者	真溪 淳子		認知領域 (知識)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	精神運動領域 (技術)	30 %
		*保健師選択制 必修				授業時間数	40 時間		情意領域 (態度)	20 %
				授業形態	実習	授業回数	集中			
授業の概要	これまでの知識・技術・態度の学びを基盤に、産業、学校における健康相談、健康教育、組織活動など、個人・集団・組織への健康支援活動と保健師が果たす役割の実際を学ぶ。職場における産業保健活動の組織体系と活動の実際、学校教育における保健活動と養護教諭の役割の実際を実習を通して学び、保健師としての基礎的な実践能力を修得する。									
到達目標	1. 実習施設周辺の地区踏査により地域アセスメントができる。 2. 産業保健・学校保健の組織と活動の場について具体的に説明できる。 3. 産業保健・学校保健における健康課題について具体的に説明できる。 4. 産業看護職・養護教諭による健康支援活動について具体的に説明できる。									
学修者への 期待等	産業保健・学校保健の活動の場に出向き、対象者の健康課題に即した健康支援活動の実際について学ぶ実習となります。公衆衛生看護学実習 I の授業での学修内容を土台に学びを深められるよう、積極的に実習に臨んでください。									
授業計画					準備学修				事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
I. 実習期間 1週間										
II. 実習施設 企業・事業所 小学校または中学校										
III. 実習計画										
1. 学内 事前学修を十分行い実習に臨む					事前学修：					
1) 公衆衛生看護学実習 I の目的・目標を理解する					①地域アセスメントについて教科書を読む					
2) 公衆衛生看護学実習 I の内容・方法を理解する					②学校保健に関わる関係法規と学校保健活動の目的、児童・生徒の発達と健康課題、養護教諭の活動と役割について教科書を読み、学習したことをまとめる。					
3) 公衆衛生看護学実習 I の自身の目標・学びたいことを明確にする					③産業保健に関わる関係法規と産業保健活動の目的、従業員の健康課題、保健師の活動と役割について教科書を読み、学習したことをまとめる。				90	90
2. 企業・事業所					事後学修：					
1) 実習企業・事業所周辺の地区踏査による地域アセスメント					実習で学修した養護教諭と保健師の活動目的や具体的な活動について、教科書を使用して理解を深める。					
2) 産業保健師による従業員の健康課題に関するオリエンテーションにより学ぶ										
3) 企業・事業所内の環境と健康支援活動の場の見学により学ぶ										
3. 小学校または中学校										
1) 実習小学校または中学校区内の地区踏査による地域アセスメント										
2) 養護教諭による児童または生徒の健康課題に関するオリエンテーションにより学ぶ										
3) 保健室の環境と健康支援活動の場の見学により学ぶ										
4. まとめ 事後学修により公衆衛生看護学実習 I を振り返り看護職の役割について理解を深める										
1) 公衆衛生看護学実習 I の学びを共有する										
2) 公衆衛生看護学実習 I の目標に即して評価し、今後の課題を明確にする										
教科書	『標準保健師講座2 公衆衛生看護技術』第5版第4刷、中村裕美子他著、医学書院 『標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動』第5版第3刷、中谷芳美他著、医学書院									
参考文献	『最新 公衆衛生看護学 各論2』、宮崎美佐子他編、日本看護協会出版会									
備考	担当：小林淳子、真溪淳子、手塚有希子									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は保健師の資格と行政保健師・産業保健師等として17年間の実務経験を有しており、その経験を活かし、学生が産業保健・産業保健活動の実際から保健師と養護教諭が果たす役割について理解が深められるように教授します。(真溪)

看護学科

- ナンバリング
- 教員一覧
- 実務経験を有する教員一覧
- オフィスアワー
- 成績評価

ナンバリングについて

ナンバリングとは、授業科目に適切な番号等を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するものです。

各授業科目には、以下の法則にて符号を付しています。

教育課程の体系性を理解し、主体的な学修を行うために、活用してください。

①学部学科等区分

学部学科等名称（英語名称）	符号
看護学部看護学科 (Faculty of Nursing, Department of Nursing)	NS

②科目区分（大区分）

科目区分名称（英語名称）	符号
教養教育科目（Liberal Arts subjects）	L
専門基礎科目（Foundations of Major subjects）	F
専門科目（Major subjects）	M

③科目区分（小区分）

科目区分に上から順にa,b,c…とアルファベット小文字を付し、符号とする。

④授業科目

科目区分ごとの授業科目に上から順に01, 02, 03…と数字を付し、符号とする。

【ナンバリング例】

看護学部看護学科「看護学概論」の場合、①NS②M③a④01

→ ナンバリングは「NSMa01」

ナンバリング一覧

看護学部看護学科 NS

	科目区分	授業科目の名称	ナンバリング
教養科目 L	言語・情報系 a	日本語表現法	NSLa01
		英語Ⅰ	NSLa02
		英語Ⅱ	NSLa03
		英語Ⅲ	NSLa04
		情報処理Ⅰ	NSLa05
		情報処理Ⅱ	NSLa06
		ICT活用技術	NSLa07
	人文科学系 b	哲学	NSLb01
		生命倫理学	NSLb02
		心理学	NSLb03
		教育心理学	NSLb04
		宗教と民族	NSLb05
		人間関係論	NSLb06
	社会科学系 c	法学入門	NSLc01
		日本国憲法	NSLc02
		経済と政策	NSLc03
		教育学概論	NSLc04
		社会学	NSLc05
	自然科学系 d	社会保障論	NSLc06
		物理学	NSLd01
生物学		NSLd02	
自然環境と災害		NSLd03	
統計学入門		NSLd04	
健康スポーツⅠ		NSLd05	
専門基礎科目 F	人体の構造と機能 a	健康スポーツⅡ	NSLd06
		人体構造と機能Ⅰ	NSFa01
		人体構造と機能Ⅱ	NSFa02
		人体構造と機能Ⅲ	NSFa03
		生化学	NSFa04
		微生物学	NSFa05
	疾病の成り立ちと回復の促進 b	栄養学	NSFa06
		病理学	NSFb01
		病態治療学Ⅰ	NSFb02
		病態治療学Ⅱ	NSFb03
		病態治療学Ⅲ	NSFb04
		病態治療学Ⅳ	NSFb05
	健康支援と社会保障制度 c	看護薬理学	NSFb06
		公衆衛生学	NSFc01
		疫学	NSFc02
		保健情報論	NSFc03
		保健医療福祉行政論	NSFc04
	チームアプローチ入門	NSFc05	

	科目区分	授業科目の名称	ナンバリング
専門科目 M	基礎看護学 a	看護学概論	NSMa01
		看護倫理	NSMa02
		看護過程論	NSMa03
		基礎看護技術Ⅰ	NSMa04
		基礎看護技術Ⅱ	NSMa05
		基礎看護技術Ⅲ	NSMa06
		基礎看護技術Ⅳ	NSMa07
	地域・在宅看護学 b	地域・在宅看護学概論Ⅰ	NSMb01
		地域・在宅看護学概論Ⅱ	NSMb02
		地域・在宅看護学援助論	NSMb03
		地域・在宅看護学援助方法	NSMb04
		地域包括ケア論	NSMb05
	成人看護学 c	成人看護学概論	NSMc01
		成人看護学援助論	NSMc02
	老年看護学 d	成人看護学援助方法	NSMc03
		老年看護学概論	NSMd01
		老年看護学援助論	NSMd02
	小児看護学 e	老年看護学援助方法	NSMd03
		小児看護学概論	NSMe01
		小児看護学援助論	NSMe02
	母性看護学 f	小児看護学援助方法	NSMe03
		母性看護学概論	NSMf01
		母性看護学援助論	NSMf02
	精神看護学 g	母性看護学援助方法	NSMf03
		精神看護学概論	NSMg01
		精神看護学援助論	NSMg02
	看護の基盤と応用 h	精神看護学援助方法	NSMg03
		看護過程展開方法	NSMh01
		家族支援論	NSMh02
		救急救命学	NSMh03
		クリティカルケア看護学	NSMh04
		周術期看護論	NSMh05
		リハビリテーション論	NSMh06
	看護の統合と実践 i	緩和ケア論	NSMh07
		医療安全管理論	NSMi01
		災害看護論	NSMi02
		看護管理論	NSMi03
		国際看護論	NSMi04
		スタートアップセミナー	NSMi05
		キャリアデザインセミナー	NSMi06
		看護研究Ⅰ	NSMi07
		看護研究Ⅱ	NSMi08
看護学総合講義	NSMi09		
臨地実習 j	基礎看護学実習Ⅰ	NSMj01	
	基礎看護学実習Ⅱ	NSMj02	
	地域・在宅看護学実習Ⅰ	NSMj03	
	地域・在宅看護学実習Ⅱ	NSMj04	
	領域横断看護実習	NSMj05	
	成人看護学実習	NSMj06	
	老年看護学実習	NSMj07	
	小児看護学実習	NSMj08	
	母性看護学実習	NSMj09	
	精神看護学実習	NSMj10	
	統合実習	NSMj11	
公衆衛生看護学 k	公衆衛生看護学概論	NSMk01	
	公衆衛生看護学援助論Ⅰ	NSMk02	
	公衆衛生看護学援助論Ⅱ	NSMk03	
	公衆衛生看護学援助方法	NSMk04	
	公衆衛生看護管理論	NSMk05	
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	NSMk06	
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	NSMk07	

看護学科 教員一覧 *名簿は50音順で掲載されています。

	氏名	E-mail
1	あべ はるみ 阿部 春美	h_abe@seyogakuin.ac.jp
2	あべ みきか 阿部 幹佳	mk_abe@seyogakuin.ac.jp
3	いずみだ さとみ 泉田 さとみ	s_izumida@seyogakuin.ac.jp
4	いとう まりこ 伊藤 茉莉子	ma_itou@seyogakuin.ac.jp
5	いわま まきのり 岩間 正典	m_iwama@seyogakuin.ac.jp
6	えんどう みほこ 遠藤 美穂子	m_endou@seyogakuin.ac.jp
7	おかざき そよか 岡崎 章代夏	s_okazaki@seyogakuin.ac.jp
8	おかざき ゆうこ 岡崎 優子	y_okazaki@seyogakuin.ac.jp
9	おぐら まき 小倉 真紀	m_ogura@seyogakuin.ac.jp
10	かとう まりこ 加藤 真理子	m_kato@seyogakuin.ac.jp
11	きのした みきこ 木下 美佐子	m_kinoshita@seyogakuin.ac.jp
12	くわた えみこ 桑田 恵美子	e_kuwata@seyogakuin.ac.jp
13	こばやし あつこ 小林 淳子	a_kobayashi@seyogakuin.ac.jp
14	さいとう みか 齋藤 美華	m_saito@seyogakuin.ac.jp
15	さかむら さち 坂村 佐知	s_sakamura@seyogakuin.ac.jp
16	さとう きよこ 佐藤 清湖	k_satou@seyogakuin.ac.jp
17	さとう 富美子 佐藤 富美子	f_satou@seyogakuin.ac.jp
18	さとう ゆきこ 佐藤 幸子	yu_sato@seyogakuin.ac.jp
19	さとう ゆきこ 佐藤 由記子	yk_satou@seyogakuin.ac.jp
20	さとう りえ 佐藤 理恵	r_satou@seyogakuin.ac.jp
21	すがわら なおみ 菅原 尚美	n_sugawara@seyogakuin.ac.jp
22	たかはし ゆみ 高橋 由美	y_takahashi@seyogakuin.ac.jp
23	たけだ みなこ 武田 美奈子	m_takeda@seyogakuin.ac.jp
24	たけだ りえ 竹田 理恵	r_takeda@seyogakuin.ac.jp
25	たなべ けいこ 田辺 圭子	k_tanabe@seyogakuin.ac.jp
26	たばやし こういち 田林 暁一	k_tabayashi@seyogakuin.ac.jp
27	てづか ゆきこ 手塚 有希子	y_teduka@seyogakuin.ac.jp
28	とうかいりん みゆき 東海林 美幸	m_toukairin@seyogakuin.ac.jp
29	ふたくち ひきみ 二口 尚美	h_futakuchi@seyogakuin.ac.jp
30	まさめ けん 真覚 健	k_masame@seyogakuin.ac.jp
31	またに じゅんこ 真溪 淳子	j_matani@seyogakuin.ac.jp

実務経験を有する教員一覧

【看護学部 看護学科】

科目名称	履修年次	単位数	教員氏名	実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性
人体構造と機能Ⅰ	1	2	大和田 宏美	担当教員は、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験や研究活動を活かして、学生が解剖学について理解を深め、解剖学の知識が身につくような授業を行います。
人体構造と機能Ⅱ	1	2	田林 暁一	医師として5年以上の臨床経験があり、それを活かし、呼吸器、循環器、消化器、泌尿器、及び生殖器の構造と機能を理解させる。
栄養学	1	1	高泉 佳苗	管理栄養士として病院に勤務した実務経験（4年）を有する。授業では病院での栄養管理業務の経験を活かした授業を行う。
病理学	1	1	齋木 由利子	病理専門医として5年以上の実務経験を活かし、人体の主要な疾患の病態について概説する。
病態治療学Ⅰ	1	2	田林 暁一 小山 周樹 長屋 慶 中川 國利	医師として5年以上の臨床経験があり、それを活かし放射線、麻酔法、血液系、免疫系疾患の病態と治療について講義する。
病態治療学Ⅱ	1	2	田林 暁一 渡辺 卓 布施 昇男 橋本 隼也	医師として5年以上の臨床経験があり、それに基づいて循環、呼吸、眼科、耳鼻科、及び皮膚科疾患の原因、病態、及び治療法について講義する。
病態治療学Ⅲ	1	2	湯田 健太郎 田子 竜也 長谷川 喬彦	医師として5年以上の臨床経験があり、それに基づいて栄養の摂取・消化・吸収・代謝、内部環境調節、排泄、男性生殖器疾患の病態と治療について講義する。
看護薬理学	1	2	木村 勝彦	薬剤師として30年以上の実務経験があり、それを活かして薬理学的知識とその活用、看護に必要な薬物療法について講義する。
看護学概論	1	2	木下 美佐子	看護師と、認定看護管理者としての5年以上の実務経験を活かし、学生が看護に関する基本的概念、看護実践における主要な看護理論について理解が深められるよう授業展開する。
看護倫理	1	1	木下 美佐子	看護師と、認定看護管理者としての5年以上の実務経験を活かし、看護実践における看護倫理について理解が深められるよう授業展開する。
看護過程論	1	2	木下 美佐子	看護師と、認定看護管理者としての5年以上の実務経験を活かし、看護実践における看護過程展開について理解が深められるよう授業展開する。
基礎看護技術Ⅰ	1	1	竹田 理恵	担当教員は、看護師として5年以上の実務経験を有し、学生が科学的根拠に基づく看護の実践に必要な基礎的知識について理解を深め、看護技術を修得し看護実践能力の基盤をつくることのできるよう、実践的な授業を行います。
基礎看護技術Ⅱ	1	2	竹田 理恵	担当教員は、看護師として5年以上の実務経験を有し、学生が日常生活援助技術の基礎的知識について理解を深め、科学的根拠に基づく看護実践能力を修得できるよう、実践的な授業を行います。
基礎看護技術Ⅲ	1	1	二口 尚美	消化器・血液内科で10年の実務経験と看護師資格を有しており、その経験を活かした実践的な授業を行います。
基礎看護技術Ⅳ	1	2	佐藤 清湖	担当教員は、看護師資格を有し、臨床の看護師としての5年以上の実務経験を活かして学生が診療援助技術を理解し、技術を修得できるよう、実践的な視点を踏まえて指導します。
成人看護学概論	1	1	佐藤 富美子	看護師としての5年間の臨床における実務経験を活かして、成人期の発達課題、生活と健康について理解を深められるよう授業を展開する。
基礎看護学実習Ⅰ	1	1	木下 美佐子	看護師、認定看護管理者としての5年以上の実務経験を活かし、看護が実感できる実習展開をする。
基礎看護学実習Ⅱ	1	2	木下 美佐子	看護師、認定看護管理者としての5年以上の実務経験を活かし、根拠を持った看護実践に取り組み看護者としての基本的態度が身につく実習展開をする。
法学入門	2	1	鈴木 一樹	公認会計士として5年以上、企業等の会計監査、税理士として税務業務、不動産鑑定士として鑑定評価業務に従事。

病態治療学Ⅳ	2	2	平山 和美 日下部 隆	医師として5年以上の臨床経験があり、それに基づいて運動、神経疾患の病態と治療について講義する。
チームアプローチ入門	2	1	高橋 由美 外里 富佐江	看護師、理学療法士、作業療法士（病院等に5年以上勤務）として、チーム医療の実務経験を活かし、学生の理解を深められるような授業を展開する。
地域・在宅看護学概論Ⅰ	2	1	小林 淳子	担当教員は看護師・保健師の資格と行政保健師として5年以上の実務経験を有しており、その経験を活かして学生が地域・在宅看護の概要についてイメージできるよう授業を行います。
地域・在宅看護学概論Ⅱ	2	1	高橋 由美	看護師（病院等に5年以上勤務）として、地域・在宅看護（訪問看護師・ケアマネジャー）の実務経験を活かし、具体例をあげながらわかりやすく説明する。
成人看護学援助論	2	2	佐藤 富美子	教員は成人看護学分野で5年の実務経験と看護師・保健師資格を有し、その経験を活かした実践的な授業を展開する。
成人看護学援助方法	2	2	阿部 春美 岡崎 優子 伊藤 茉莉子 遠藤 美穂子 泉田 さとみ 小倉 真紀	担当教員は成人看護学分野で5年以上の実務経験と、看護師としての資格を有しており、その経験を活かした実践的な授業を行います。
老年看護学概論	2	1	齋藤 美華	担当教員は老年看護学分野で5年以上の実務経験と、看護師および保健師の資格を有しており、その経験を活かして老年看護学に関する基礎的知識について理解が深められるよう教授します。
老年看護学援助論	2	2	齋藤 美華 桑田 恵美子	担当教員は老年看護学分野で5年以上の実務経験と、看護師としての資格を有しており、その経験を活かして老年看護学の実践に必要な基礎的知識・技術が修得できるよう教授します。
老年看護学援助方法	2	1	齋藤 美華 桑田 恵美子 菅原 尚美	担当教員は老年看護学分野で5年以上の実務経験と、看護師としての資格を有しており、その経験を活かして高齢者及び老年看護の役割の理解、臨床現場に繋げることができるような実践的な授業を行います。
小児看護学概論	2	1	佐藤 幸子	この授業では、小児看護を実践するために必要な知識・技術・態度を学修する。そのため教員は看護師・保健師としての7年以上の実務経験を活かし、臨床現場で活用できる授業を展開する。
小児看護学援助論	2	2	武田 美奈子	教員は小児看護分野において10年以上の実務経験と看護師資格を有しており、その経験を活かしたアセスメントやケアについて実践的な授業を行います。
			岡崎 草代夏	教員は看護分野において8年以上の実務経験と看護師資格を有しており、その経験を活かした看護技術について授業を行います。
小児看護学援助方法	2	1	佐藤 幸子	看護師・保健師としての7年以上の実務経験を活かし、子どもの病棟・外来での看護、慢性期・急性期にある子どもとその家族への看護の実践方法について教授する。
			武田 美奈子	看護師としての10年以上の実践経験を活かし、ハイリスク新生児・在宅・感染症・災害を受けた子どもやその家族への看護の実践方法について教授する。
			岡崎 草代夏	看護師としての8年以上の実践経験を活かし、特殊な状況にある子どもやその家族への看護の実践方法について教授する。
母性看護学概論	2	1	田辺 圭子	教員は母性看護分野で20年の実務経験と看護師・助産師資格を有しており、その経験を生かし母子保健に関する社会に即した授業を行います。
母性看護学援助論	2	2	田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知	教員は看護師・助産師（病院等5年以上の実務経験）としての実務経験を活かし、実践的な授業を行います。
母性看護学援助方法	2	1	田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知	教員は看護師・助産師（病院等5年以上の実務経験）としての実務経験を活かし、臨床に適應できる授業や演習を行います。
精神看護学概論	2	1	小松 容子	担当教員は、精神科医療の臨床で5年以上の看護師としての実務経験と、専門看護師（精神看護）の資格を有しており、その経験を生かした授業を行う。

精神看護学援助論	2	2	村上 佑美	担当教員は精神科医師として5年以上の実務経験を有しており、その経験を活かし学生が精神疾患・障害の特徴について理解を深められるよう教授します。
			阿部 幹佳 加藤 真理子	担当教員は、精神看護分野において5年以上の実務経験、看護師の資格を有しています。精神看護実践に必要な基礎的知識について、学生が具体的にイメージ出来るよう具体的な事例を挙げて教授します。
精神看護学援助方法	2	1	阿部 幹佳 加藤 真理子	担当教員は、精神看護分野において5年以上の実務経験、看護師の資格を有しています。これらの実務経験を踏まえ、臨床現場での具体的な事例や実践的視点を授業に取り入れることで、学生が精神看護学への理解を深め、看護実践につなげられるよう授業を行います。
看護過程展開方法	2	1	木下 美佐子 桑田 恵美子 阿部 幹佳 菅原 尚美 伊藤 茉莉子 岡崎 草代夏 坂村 佐知 東海林 美幸	看護師としての実務経験5年以上を活かし、学生が看護するうえで基本となる看護展開技術について理解が深められるよう授業展開する。
家族支援論	2	1	滝口 克典	NPO及び地域で、子ども・若者支援を25年行っています。その実務経験と社会問題の研究業績があり、その両者を活かした授業を行います。
			古瀬 みどり	病院及び在宅での10年以上の看護実務経験と看護師資格を有します。その経験と家族看護学の理論をリンクさせ、実践的な授業を行います。
周術期看護論	2	2	佐藤 富美子	担当教員は看護師・保健師の資格と周術期看護学分野を含む5年間の実務経験を有しており、その経験を活かして学生が周術期看護の実践をイメージできるよう授業を展開する。
緩和ケア論	2	1	佐藤 富美子	看護師・保健師の資格と5年間の実務経験を活かし、学生が緩和ケア実践をイメージできるよう授業を展開する。
キャリアデザインセミナー	2	1	阿部 春美	看護師、看護管理者、看護教育分野でも5年以上の実務経験を活かし、看護専門職像としてキャリアデザインについて理解を深められるよう授業を展開する。
地域・在宅看護学実習 I	2	1	高橋 由美	看護師（病院等に5年以上勤務）として、地域・在宅看護（訪問看護師・ケアマネジャー）の実務経験を活かした授業を展開する。
領域横断看護実習	2	3	桑田 恵美子	担当教員は慢性期の患者の看護を5年以上の実務経験と、看護師としての資格を有しており、その経験を活かして慢性期看護の理解を深め、学生が臨床現場に繋げることが出来るような実践的な授業を行います。
公衆衛生看護学概論	2	1	小林 淳子	担当教員は保健師の資格と行政保健師として5年以上の実務経験を有しており、その経験を活かして学生が公衆衛生看護の概要についてイメージできるよう授業を行います。
地域・在宅看護学援助論	3	2	高橋 由美	看護師（病院等に5年以上勤務）として、地域・在宅看護（訪問看護師・ケアマネジャー）の実務経験を活かし、多様な場・状況に応じた看護支援方法など、実践に必要な基礎的知識が身につくように授業を行う。
地域・在宅看護学援助方法	3	1	東海林 美幸	看護師（病院等に5年以上勤務）として、地域・在宅看護の実務経験（訪問看護師・ケアマネジャー）を活かし、具体的事例や看護実践方法を紹介しながら授業を行う。
地域包括ケア論	3	1	真溪 淳子	担当教員は保健師の資格と行政保健師・産業保健師等として17年間の実務経験を有しており、その経験を活かして学生が地域包括ケアの実際について理解を深められるように授業を行います。
救急救命学	3	2	堀口 雅司	救急救命士としての25年以上の実務経験を活用して、医療人の基礎となる救急医療の重要性を教授する。医療人の基本となる人間愛と思いやりの心を持った救急対応時の知識と技術を指導する。

災害看護論	3	2	阿部 幹佳 坂村 佐知 手塚 有希子 泉田 さとみ	教員は看護師資格（実務経験5年以上）を有し、東日本大震災で被災地での救護活動や病院内での対応、地域における被災者支援の経験があります。その経験を活かした実践的な授業を行います。
看護研究 I	3	1	齋藤 美華	担当教員は老年看護学分野で5年以上の実務経験と、看護師および保健師の資格を有しており、その経験を活かして看護研究の基礎および看護実践から看護研究への活用について理解が深まるような実践的な授業を行います。
成人看護学実習	3	3	佐藤 富美子	教員は成人看護学分野で5年の実務経験と看護師・保健師資格を有し、その経験を活かした実践的な授業を展開する。
老年看護学実習	3	3	齋藤 美華 桑田 恵美子 菅原 尚美 小倉 真紀	担当教員は老年看護学分野で5年以上の実務経験と、看護師としての資格を有しており、その経験を活かして老年看護学の理解を深め、学生が臨床現場に繋げることができるような実践的な授業を行います。
小児看護学実習	3	2	佐藤 幸子	看護師・保健師としての7年以上の実務経験を活かし、実践に則した内容を教授する。
母性看護学実習	3	2	田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知	教員は看護師・助産師（病院等5年以上の実務経験）としての実務経験を活かし、学修した母性看護の知識や技術を臨地実習において実践できるよう指導します。
精神看護学実習	3	2	阿部 幹佳 加藤 真理子	担当教員は、精神看護分野において5年以上の実務経験、看護師の資格を有しています。これらの実務経験を踏まえ、学修した精神看護の知識や技術を臨地実習において実践できるよう指導します。
公衆衛生看護学援助論 I	3	2	真溪 淳子	担当教員は保健師の資格と行政保健師・産業保健師等として17年間の実務経験を有しており、その経験を活かして、学生が公衆衛生看護活動の理論と活動の意義について理解を深められるように授業を行います。
公衆衛生看護学援助論 II	3	2	手塚 有希子	行政保健師として25年間の実務経験を有しており、保健センターや地域包括支援センターでの各ライフステージを対象とした保健師活動や健康危機管理活動の経験を活かし、学生が公衆衛生看護の実際について理解を深められるように授業を行います。
公衆衛生看護管理論	3	2	手塚 有希子	行政保健師として25年間の実務経験を有しており、保健センターや地域包括支援センターでの保健師活動と行政職としての行政事務の経験を活かし、学生が公衆衛生看護管理の実際について理解を深められるように授業を行います。
公衆衛生看護学実習 I	3	1	真溪 淳子	担当教員は保健師の資格と行政保健師・産業保健師等として17年間の実務経験を有しており、その経験を活かして、学生が産業保健・産業保健活動の実際から保健師と養護教諭が果たす役割について理解が深められるように教授します。
	合計	94	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
		124	設置基準上の標準単位数	

2026（令和8）年度 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室隣にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。